

地域連携センター 教育・研究年報 (創る 繋ぐ 育てる)

2024年度（令和6年度）版



令和7年（2025）年 3月

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 2025 年度年報

目次

- 1 センター長あいさつ
- 2 センター室の開設
- 3 新学部・新学科の設置〈2025 年 4 月〉
 - こども教育学部こども学科
 - 食物栄養学部・食環境データサイエンス学科
- 4 34の企業・団体との包括連携協定の締結
- 5 2024シニアカレッジ
- 6 地域連携活動
 - 1 子ども食堂
 - 2 高大連携・農園実習
 - 3 企業・行政・高校との連携活動
 - 4 新聞記事
- 7 短期大学・幼稚園の活動
 - 1 2024年度東筑紫短期大学保育学科地域連携活動
 - 2 令和6 年度 第19 回 子育て支援事業計画
 - 3 令和6年度第19回子育て支援事業計画
 - 4 令和6 年度地域子育て支援拠点事業
「みんななかよしこのゆびと～まれ！」について一考察
- 8 学術論文
 - 1 学力向上の取組に効果のあった学校の事例考察
岡井正義
 - 2 教育実習アンケートに基づく教員養成の現状と課題に関する一考察
～教育実習に係る「2003年（平成15年）報告1」との比較を通して～
岡井正義
 - 3 「考え議論する」道徳への授業改善のための一試案
岡井正義
 - 4 幼保小連携のさらなる円滑化に向けた一考察
－幼児体育と小学校体育の接続の観点から－
大橋祐介（東筑紫短期大学）
- 9 編集後記

地域連携センターからのご挨拶

皆様におかれましては九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センターを日頃よりお引き立てくださり感謝申し上げます。さて、2023年度に本学に地域連携センターを設立し、地域の方々と連携・活動・交流を深めるためのさまざまな活動を展開してまいりました。この度、2024度の活動や研究成果をまとめた年報を発刊できたことを、大変嬉しく思っております。

本学は2025年度よりこども教育学部こども教育学科と食物栄養学部食環境データサイエンス学科を新設し、益々地域に根差した大学として成長していく所存です。大学を取り巻く環境は厳しいものがありますが、地域の発展に寄与する大学としてその役割を果たしていきます。

2025年4月からは改築した北キャンパス1号館1階に地域連携センター室を開設し、キッチンスタジオ、交流室を設け、本学の教員と学生の交流は勿論、市民や地域の方々との交流場として、また、連携協定を結んだ37の企業・団体との活動拠点として活用を深めてまいります。

地域連携センターは、大学と地域社会が共に成長し、課題を解決するための重要な拠点です。私たちは、地域のニーズに応じた研究やプロジェクトを進める中で、地域の皆様との信頼関係を築き、共に歩むことの大切さを実感しました。昨年度の活動を通じて、多くの方々と出会い、貴重な学びを得ることができました。

2024年度版の年報では、昨年度の活動報告に加え、地域の皆様からの声や新たな取り組みについてもご紹介する予定です。皆様のご意見やご感想をお待ちしておりますので、ぜひお気軽にお寄せください。

今後とも、地域連携センターが地域の発展に寄与できるよう、引き続き努力してまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年3月吉日

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センター長

杉元康志

センター室の開設

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センターは令和6年度に開設し。センターは地域社会と本学との架け橋となり、教育・研究の連携は勿論のこと社会との繋がりを強くし、地域の課題解決に共に取り組んでいます。特に、本学が得意とする食・健康・福祉・教育分野で、地域のニーズに応え、より高い社会貢献を大学・短大あげて目指しています。

ここにリニューアルした北キャンパスの1号館1階に令和7年3月末にセンター室および施設が開設されました。その中でキチンスタジオは最新の調理施設を整えたものであり、子ども食堂、商品開発、地域に開かれた交流場として大いに活用が期待される施設となっています。社会とのつながりを重視し、地域に貢献できるセンターとして発展することを目的としています。

食で未来をつなぐキッチンスタジオを新設！！

1号館1階地域連携室内には、食物栄養学科ならではの素敵なキッチンスタジオをオープンしました。

「食で未来をつなげる」をコンセプトに、学生と力を合わせて、学生主体の子ども食堂や、料理教室を計画しております。

ここでは、企業と連携して様々な取り組みを企画しております。令和7年5月はアサヒ飲料と北九州市健康増進課とコラボして「スマドリ」を学んでオリジナルドリンクの商品開発する取り組みを行う予定です。また、後期からは学生主体の子ども食堂を展開していく予定となっています。



新学部・新学科の設置



2025年4月開設

こども教育学部 こども教育学科

男女
共学

デジタル
パンフレット

取得可能な免許および資格

小学校教諭一種/特別支援学校教諭一種/幼稚園教諭一種/保育士

「こども教育学部 こども教育学科」設置計画について、
大学設置・学校法人審議会の審査の結果、設置が認可されました。

[＞ こども教育学部 こども教育学科](#)

重要なお知らせ

[こども教育学科の入試情報を公開しました！](#)



福岡でも最新の教育学部ならではの最先端の学びを実践し、
次代に求められる教育者を養成します。

政令指定都市・北九州中心エリア、若者の街「下道津クロスロード」に
69年の幼児教育の伝統を持つ東筑紫短期大学保育学科を基盤とする、男女共学の「こども教育学部」を開設

学長メッセージ

新学部・こども教育学部こども教育学科
食物栄養学部内新学科・食環境データサイエンス学科
令和7年（2025年）設置について

[詳しくはこちら ▶](#)

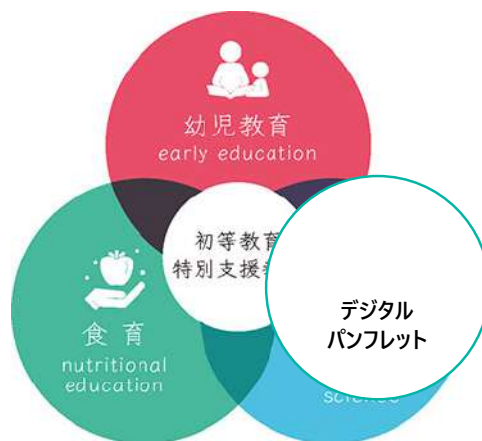
学びの3大ポイント

POINT

01

幼児教育から初等教育の円滑接続についての学び、
そして食育やデータサイエンスを融合させた独自の学びを実施。

昭和29年より70年間、1万2800名を超える卒業生を輩出してきた東筑紫短期大学保育学科の幼児教育を基盤に、食物栄養学科で実践している食育の学び、そして新たに開設予定の「食環境データサイエンス学科」のデータサイエンスの学びを融合させた、独自の学びを修得します。



POINT

02

文部科学省推進の「ICT教育」など
新しい時代の教育機器についての学びを実施。

新型コロナウイルス感染症の拡大により急速に進んだオンライン授業のように、授業の効率化を促進するパソコン・タブレットなどのデジタル機器の導入、インターネットを介した学習支援ツールの活用など、今までアナログで行っていた教育のデジタル化＝「ICT教育」の学びを修得します。



ICTとは

Information and Communication「Technology」の略称で「情報通信技術」=パソコンやスマートフォンなどインターネットを通じて人と人が繋がることを意味しており、今や私たちの生活はICT無しでは成り立たないとも言われています。

POINT

03

現在求められている特別支援学校や特別
支援学級に対応する、インクルーシブな教育
の学びを実施。

特別支援教育を受ける児童生徒数の増加に対して特に不足している特別支援学校教諭を育成するために、その効果が実証されイギリスのオックスフォード大学でも発表された「ボディパーカッション®教育」などを取り入れ、最先端の学びを修得します。また本学では、「認定ボディパーカッション教育指導者」資格を取得することも可能です。



ボディパーカッション®教育とは

全てのこども達が様々なハンディ（身体的障害、発達障害、聴覚障害、言語や文化の壁）があっても音楽を楽しめるインクルーシブ教育教材で、特別高度な技術を必要とせずに皆で楽しみを共有できるという利点から、特別支援教育の現場に取り入れられ、その重要性が増しています。



併設の東筑紫短期大学保育学科では、2009年よりこのボディパーカッション®教育の一部を「音楽基礎」の授業に本学教員が取り入れています。左の写真は、保育学科生選抜メンバー10名による「会場みんなでボディパーカッション」（ビゼー作曲「カルメン」一部編曲）ワークショップの様子です。今回この授業をさらに拡大し、こども教育学部のカリキュラムに導入する予定です。「認定ボディパーカッション教育指導者」の資格取得も可能となるよう準備します。

アクロス福岡で実施された九州交響楽団「春のこどもコンサートオーケストラってすごいぞ！2023」に出演
《カルメン》『前奏曲』ビゼー作曲／ボディパーカッション指導編曲：山田俊之
出典「鑑賞曲deボディパーカッション」（山田俊之著・音楽之友社）より

デジタル
パンフレット

特別支援教育を受ける 児童生徒数の現状



視覚障害/聴覚障害/知的障害/肢体不自由/病弱・身体虚弱

特別支援学校

平成24年度	約1.2倍	令和4年度
6.6万人		8.2万人

特別支援学級

知的障害/肢体不自由/身体虚弱/弱視/難聴/言語障害/自閉症・情緒障害

平成24年度	約2.1倍	令和4年度
16.4万人		35.3万人

小学校・中学校

通常の学級通級による指導 ※通級による指導

言語障害/自閉症・情緒障害/弱視/難聴/学習障害/注意欠陥多動性障害/肢体不自由/病弱・身体虚弱

平成24年度	約2.3倍	令和2年度
7.2万人		16.3万人

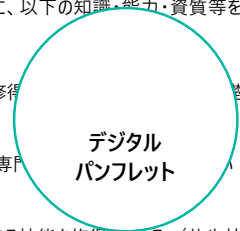
参考:文部科学省「R5特別支援教育の充実について」



新学部・学科 概要

学部・学科	こども教育学部 こども教育学科
入学定員	50名
学費	初年度納入金：133万円（入学金23万円・授業料等110万円）
学位	学士（こども教育学）
独自の学び	本学部では、特別な配慮が必要な子供たちへの有効な教育支援として「ボディパーカッション®」を本格的に学びます。その後、「認定ボディパーカッション教育指導者」（一般社団法人ボディパーカッション教育振興会）の資格を取得することができます。
設置の理念	・東筑紫短期大学保育学科は幼児教育において昭和29年より70年間、九州で最も長い伝統を持ち、1万2800名を超える卒業生を輩出し、地元北九州を中心に保育者として貢献してきている。保育学科でこれまで培った幼児教育を基盤として4年制の初等教育課程の学部を創設する。 ・幼児教育においては少子化の時代に沿った高度な専門的知識が望まれており、高校教員、高校生、保護者の幼児教育における4年制大学への志向が高まってきている。こういった状況も踏まえ、短大保育学科の定員を見直し、4年制学部・学科を設置する。
養成する人材像	本学は「建学の精神 勇気・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、教員不足が社会問題化している中、地域の教育現場に貢献できる教員を育てる。
アドミッションポリシー （求める人材像）	本学部（学科）は、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。 1 建学の精神（勇気・親和・愛・知性を基盤にした人格教育）に賛同する人 2 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人 3 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようと努力する人（主体的意志力・思考力・判断力・表現力） 4 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、子供の健やかな成長を支援しようとする人（協調性）
カリキュラム・ポリシー （基本的な教育内容）	本学部（学科）では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けるために、以下のような教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

	1 年次には、主として子供の教育に必要なルールや法則について学ぶ基礎的科目を履修する。 2 年次には、主として教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を履修する。 3 年次には、1 年次、2 年次の学びに基づいた教育実習を行い、リフレクションを行う。 4 年次には、本学部（学科）での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表する。
ディプロマ・ポリシー （卒業認定の基本的方針）	本学部（学科）では、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。 1 子供の生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している。（基礎的理解） 2 子供の教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的な知識と理解を修得している。（教育に関する専門的理解） 3 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、それらに適切に対処できる技能を修得している。（共生社会において身に付ける教養） 4 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している。（主題を立て自ら探究する学び）
取得できる免許・資格	小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格
卒業後の進路	全国の小学校、特別支援学校、幼稚園、保育園





2025年4月開設

デジタル
パンフレット

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

政令指定都市・北九州中心エリア、若者の街「下道津クロスロード」で
AI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、身近にある第4次産業革命の先端を行こう

「食環境データサイエンス学科」設置計画について、大学設置・学校法人審議会の審査の結果、設置が認可されました。

＞ 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

重要なお知らせ

個別相談申込受付中！



食環境データサイエンス学科の入試情報を公開しました！



FOOD ENVIRONMENT × DATA SCIENCE

食環境データサイエンス学科PR動画

スマート農業をこの学部で学びませんか！

生まれ変わる新5号館をご紹介！
(1Fコミュニティエリア フロースンダイニング)

九州栄養福祉大学 食環境デー...



播種から防除まで！生産者をDX...



九州栄養福祉大学 5号館紹介...



新学科共創企業 OPTiM（オプティム）提供
(スマート農業とは...楽しく、かつよく、稼げる農業で
す！！)

Greeting

九州栄養福祉大学は、2025年（令和7年）4月に「食環境データサイエンス学科」を開設いたします。この食環境データサイエンス学科では、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材の育成を目的としています。

この食環境データサイエンス学科を創り上げるには、いわゆる第4次産業革命時代の最新知識を教育研究する専門家、最新技術を実際に開発してきた方々との連携協力が必要でした。特にロボット工学で日本の産業を牽引してきた株式会社安川電機の元CTO、最高技術責任者・熊谷彰氏、そしてAI・データサイエンスを活用した「スマートファクトリー」の観点から我が国の食の安全保障の「大難問(アボリア)」に挑戦する株式会社オプティム(東証プライム上場企業)の菅谷俊二社長（日本のIT分野における特許資産が非常に多い企業）の強力な助力をいただきました。お二人とも開学後は特別客員教授という形で本学にお迎えする予定です。更に、インターンシップ（学生の企業実習）や講師の派遣による貢献のために地元北九州地域を中心とした約20の食産業・IT関連企業および団体が連携協定を結んでくれました。

今世界はグローバルな規模でビッグデータがネットを通して結ばれています。正に第4次産業革命に突入しています。そこでは多様なデジタル人材が要請されています。書き、そろばん」「縫う、織る、染める」が人生を生きる大きな技術でしたが今はデジタルリテラシーを修得し大量のデータを解読し世界と交流していかないと「情報のインフォメーションギャップに陥る危険性もあります。岸田首相はASEAN諸国と共同して今後5年間で10万人の高度デジタル人材育成を目指す」と表明しました。それだけ多くの若い人が今から必要になってくるのではないかと考えています。北九州市はもともと国際都市として我が国に大きな貢献をしてきた地です。これからもアジア太平洋の中核都市として大きな役割を果たしていくと思います。我々の企画構想する食環境データサイエンス学科は必ず時代が要請する人材養成の拠点になると思います。

学長 室井廣一

デジタル
パンフレット

学長メッセージ

新学部・こども教育学部こども教育学科（設置認可申請中）
食物栄養学部内新学科・食環境データサイエンス学科
令和7年（2025年）設置について

詳しくはこちら ▶

Mission～学びの目的～

食環境分野の専門的知識と
データサイエンスのスキルを合わせ持つ人材を養成する。

現代社会では、「人生100年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、健康で充実した生活を送ることが求められています。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第4次産業革命やSociety5.0と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されています。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待され、AI（人工知能）とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められています。

こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成します。

また、北九州地域の産学官連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図ります。



現在の食環境における課題

- ✓ 農作物の収穫量
- ✓ 農作物の生育状況
- ✓ 食品素材の在庫量
- ✓ アレルギー物質
- ✓ 健康に良い素材

食の「データサイエンティスト」の養成

未来の食環境での実現目標

objective01

食の
安定供給

objective03

食品ロス
削減

objective02

食

デジタル
パンフレット

objective04

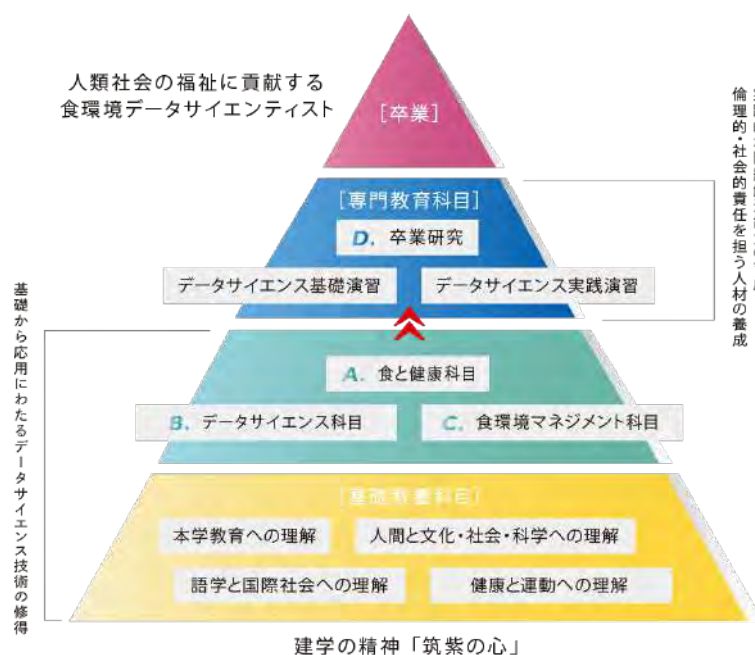
快適な
食生活

子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」の実現に貢献!!

Curriculum ～学びのカリキュラム～

基礎教養科目と専門教育科目に分けられ、
食環境・健康分野に関連するデータサイエンスの基礎教育から応用技術までの幅広い知識と技能を、
体系的かつ段階的に学ぶことができるよう設計しています。

カリキュラム構成



■ 基礎教養科目

本学教育 への理解

キャリアガイダンスⅠ
キャリアガイダンスⅡ
キャリアガイダンスⅢ
キャリアガイダンスⅣ
食環境データサイエンス概論
食環境イノベーションデザイン
農園演習

人間と文化・社会・科学 への理解

食と経済
人間関係の心理
基礎生物学
基礎化学
リハビリテーション概論
コンピュータリテラシー
AI・データサイエンス入門

語学と国際社会 への理解

実用英語の基礎Ⅰ
実用英語の基礎Ⅱ
実用英語
国際理解（海外研修）

健康と運動 への理解

健康スポーツ科学Ⅰ
健康スポーツ科学Ⅱ
健康スポーツ科学Ⅲ
健康スポーツ科学Ⅳ

デジタル
パンフレット

専門教育科目の特色

■ 食と健康科目

食物栄養学科と連携した食と健康に関する講義科目を多数開講します。これらの科目を通じて、食環境・健康分野の深い専門知識を修得します。

解剖生理学	生化学	疾病の成り立ちと病態
運動生理学	食品分子機能学	微生物学
食品学総論	食品衛生学	食品加工学
基礎栄養学	応用栄養学	臨床栄養学
スポーツ栄養学	公衆栄養学	



■ データサイエンス科目

食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識および技術の体系的な修得に必要な科目を多数開講します。演習科目はもちろん、講義科目においても積極的にノートPCを活用します。理論を机上で学ぶだけでなく、データサイエンス分野に幅広く活用されているプログラム言語Pythonによる実装・動作確認を行うことで、AI・データサイエンスの専門知識およびスキルを着実に修得していきます。

微積分学基礎	データサイエンスのための微積分学	線形代数基礎
データサイエンスのための線形代数	確率統計学基礎	データサイエンスのための確率統計学
データサイエンスのための応用数学	プログラミング基礎	プログラミング演習
情報ネットワーク	データベース入門	センシングと信号処理
機械学習基礎	機械学習演習	データ解析基礎
データ解析演習	ニューラルネット基礎	ニューラルネット演習
マルチモーダルAI技術と応用	データ駆動型意思決定と可視化	食農健康データサイエンス
先端AI論	フードウェルネスデータサイエンス	バイオインフォマティクス
マーケティングとデータサイエンス	マネジメントとデータサイエンス	人間とAI



■ 食環境マネジメント科目

産業界における実践的な経験を有する外部講師による講義科目に加え、現実の課題に主体的に取り組む演習科目を開講します。これらの科目を通じて、産業界における現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に加え、起業家精神を養います。

マーケティング論	マーケティングリサーチ	流通システム論
----------	-------------	---------



消費者行動論

食環境地域連携演習

アントレプレナー演習

サプライチェーンマネジメント学

インターンシップ

アグリビジネスマネジメント学

アントレプレナー論

■ 卒業研究

包括連携協定企業・団体の実習から卒論作成に向かう実学的カリキュラム

専門教育科目の集大成として、少人数のゼミ単位でプロジェクトベース学習および各自のテーマに基づいた研究活動に取り組みます。これらの活動を通じて、卒業後の継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を養います。

データサイエンス基礎演習

データサイエンス実践演習

卒業研究



AI・データサイエンス分野における第一人者の期待の声



熊谷 彰氏

元 株式会社安川電機CTO
(取締役常務執行役員 技術開発本部長)
新学部・学科設置準備室 顧問

食環境データサイエンス学科の設立は、今日のデジタル社会における革新的な動きと密接に関連していると感じます。この学科が提供する教育は、データサイエンスの技術を食と農業、健康の分野に応用することで、これらの分野における新たな課題解決の道を切り開く人材を育成することが重要なテーマだと思います。特に、AIを活用した「食の番人」としての役割を担う専門家の育成は、将来的に食環境問題に対する持続可能な解決策を提案する上で重要な意味を持ちます。また、人格教育と地域社会との連携を重視する姿勢は、社会に貢献するデータサイエンティストの養成において欠かせない要素です。このような教育方針は、将来的に多方面での貢献が期待される人材を輩出し、社会の発展に大きく寄与するでしょう。そういう意味でも、この学科に対して大きな期待を抱いています。(特別客員教授就任予定)



菅谷 俊二氏

日本のIT分野・特許資産 個人ランキング No.1
株式会社オプティム(東証プライム企業)
代表取締役社長

人生100年時代と言われるまでに医療技術が進化を遂げた今日において、その100年をより健やかに、より若々しく生きたいという事が21世紀後半の人類に残された大きな夢の一つであると思います。本学に開設される食環境データサイエンス学科は、栄養学に農学、データサイエンスを融合した新しい領域のスペシャリストを生み出すことで人類の夢を、社会課題の解決を目指す学科です。栄養学とデジタルの融合は多くの人々に大きな希望をもたらします。若い皆様の豊かな才能と強い熱意で人類の次なる夢を実現するスペシャリスト、エキスパートの誕生に期待します。共に大いに学びましょう。(特別客員教授就任予定)

Campus ～学びのステージ～

5号館が生まれ変わります！

最先端の栄養学、農学、ITの学び・体験の場であり
その成果を北九州および全国に発信する拠点として、
現在の5号館が生まれ変わります。



デジタル
パンフレット

食環境データサイエンス学科の目指す形

食環境データサイエンス学科では、人々の健康を食・睡眠・運動の観点から学び、研究し、社会へと貢献していきます。その実現のために、生まれ変わった5号館には最先端の研究設備や研究を促進する空間を用意し、学生自らの学習と研究を促します。



コミュニティエリア

学生や教員、外部の方々とのコミュニケーションを促進し、新たな食農のアイデアを創発することを目指します。



フローズンダイニング

冷凍食を活用した新しい食の実現に向けて、専用の設備を設置。食農を通じて、地産地消や地元企業とのコラボレーションを生み出す新しい環境を構築します。



ラボラトリーエリア

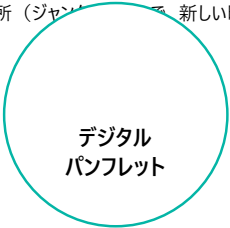
食事による体への影響を、睡眠や運動などに関連する最先端の外部測定装置から変化を捉え、食が体に与える影響を多角的に捉える設備があります。

AIイノベーション・データサイエンスラボ
「KIDS LABO. (キッズラボ)」を併設予定!!



政令指定都市北九州中心エリア、 クロスロードでAI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、 身近にある第4次産業革命を体験しよう

九州栄養福祉大学の「KIDS LABO.」は、AIとデータサイエンスを駆使して、未来の可能性を切り拓くイノベーションラボです。子供から大人まで、あらゆる世代が集うこのラボでは、各人の才能を開花させるための環境を提供します。最先端の技術に触れながら、実社会への応用も模索します。学びとイノベーションが交差するこの場所（ジャンル）を通して、新しい時代の先駆者を目指しましょう。



新学科 概要

学部・学科	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科
入学定員	50名
学費	初年度納入金：145万円（入学金23万円・授業料等122万円）
学位	学士（食環境データサイエンス）
学びの内容	食環境と健康に関する深い理解とデータサイエンスの技術を組み合わせた教育を行い、食品の生産・流通、医療・福祉、環境に関連する大量のデータを収集・分析するスキルを修得することで、社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型のデータサイエンスの専門家を養成する。
設置の理念	・生命の源である「食」に係る様々なデータを分析し、食についての安全性や世界的な食糧危機の課題等について多角的に捉えることのできる専門的知識を備えた人材を養成する。 ・人間が生きていく上で欠かすことのできない食と農学に関する基礎知識から農園での演習を重ね、より具体的な食と農に関する専門知識を養う。 ・文部科学省が推奨する特定成長分野をけん引する高度専門分野の育成に寄与する。 ・食とデータサイエンスに係る企業と提携し、卒業後も研究を生かした就職につなげていく。
養成する人材像	本学は「建学の精神 勇気・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、地域社会や福祉に役立つ使命感と信念を持ったデータサイエンティストを養成する。
アドミッションポリシー	本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる学生を求めます。 1 建学の精神（勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育）に賛同する人 2 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を習得し、論理的思考能力を有している人 3 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を習得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人 4 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人 5 新たな挑戦に積極的な志を持つ人
取得を目指す資格	・上級データサイエンスAI実務パスポート（一般財団法人 全国大学実務教育協会） ・基本情報技術者、ITパスポート試験（独立行政法人 情報処理推進機構） ・G検定（一般社団法人日本ディープラーニング協会） ・DS検定 リテラシーレベル（一般社団法人データサイエンティスト協会） ・統計検定 データサイエンス基礎：DS基礎（一般社団法人 日本統計学会）（申請中または、申請予定）

卒業後の進路

メーカー、流通・小売、サービス、商社、ソフトウェア・情報処理・ネット関連、官公庁・公社・団体、農業経営 etc.

キャンパスニュース CAMPUS NEWS

デジタル
パンフレット

> キャンパスニュース

お知らせ 2024.08.30

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学、27の企業・団体との包括連携協定を締結【8/30追記】

2024年8月21日、学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学は、小倉北区キャンパスにて、27の企業・団体（詳細は下記参照）と包括連携協定を締結しました。

[学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 包括連携協定締結の詳細はこちらから〔PDF〕](#)

[株式会社オプティム プレスリリースページはこちらから](#)

[AI CROSS株式会社 プレスリリースページはこちらから](#)

[寶結（ほうゆう）株式会社 プレスリリースページはこちらから](#)

[株式会社ドーワテクノス プレスリリースはこちらから](#)

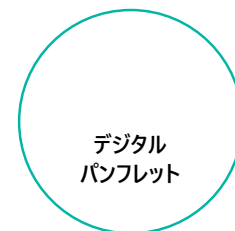
[教育家庭新聞 プレスリリースはこちらから](#)

キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

- > 全て
- > お知らせ
- > 学科
- > 入試関連





【プレスリリース】(2024.8.21)

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学、27の企業・団体との包括連携協定を締結

2024年8月21日、学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学（北九州市小倉北区 理事長兼学長 室井廣一 以下、本学）は、小倉北区キャンパスにて、27の企業・団体（詳細は下記参照）と包括連携協定を締結しました。

本学では、食物栄養学部におきまして令和7年4月に「食環境データサイエンス学科」の開設を予定しております（設置認可申請中）。本学科では、AI・データサイエンスの深い専門知識と技術を食環境・健康分野に応用することで、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を支える持続可能な社会に貢献するグローバル人材を育成することを教育上の目的としています。また、本学の食環境・健康分野の教育・研究実績を背景に、地元の企業・団体や日本を代表するAI活用企業との産学連携を含むAI・データサイエンスの基礎から実社会での応用までを修得できる体系的な教育プログラムにより、卒業後、社会で即活躍できる人材の育成を目指します。さらには、関係企業・団体へのインターンシップやフィールドワーク及び同企業・団体との共同研究、人材交流などを通じて実践的な学びを提供します。

このようなことから、本学と関係企業・団体との間で「包括連携協定」を結び、相互の知識と資源を活用しながら、技術革新及び地域産業の振興に貢献していきたいと考えております。本連携は、教育・研究の質の向上に加え、地域社会の持続可能な発展に寄与するものと確信しております。

※ 設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

【包括連携の目的】

本協定は、本学及び関係企業・団体が互恵の精神に基づき、多様な分野での連携を持続的・効果的に推進することにより、北九州地区における学術研究の発展、地域産業の振興、教育・人材育成に寄与することを目的とする。

【包括連携事項】※ 本内容は関係企業・団体によって、多少異なります。

次の事項について連携し協力する。

- (1) 教育・人材育成に関する事項
- (2) インターンシップに関する事項
- (3) 学術研究に関する事項
- (4) 地域産業の振興に関する事項
- (5) 地域社会の活性化に関する事項
- (6) その他本協定の目的を達成するために本学及び関係企業・団体が必要と認める事項

【包括連携のテーマ及び実施内容】

包括連携の具体的なテーマ及び実施内容については、本学及び関係企業・団体がその都度協議し、別途契約等で定めるものとする。

【包括連携協定企業及び団体】

アイコムソフト(株)、(株)アフレル、(株)井筒屋、AI CROSS(株)、オーエーセンター(株)、(株)オプティム、おりおスポーツ接骨院、極東ファディ(株)、(株)サンキュードラッグ、(株)サンリブ、(株)しゅんさいくらぶ、(株)スターフライヤー、(株)セキュアサイクル、(株)東筑軒、TOTO(株)、(株)ドーワテクノス、(株)ハピクロ、(同) B & W、響灘菜園(株)、(一社) 福津いいざい、寶結(株)、(株)丸ふじ、(株)もち吉、(株)ゆめマート北九州、(株)ONE

また、包括連携締結式には、本学が社会福祉の観点から連携を図る「子ども食堂ネットワーク北九州」ならびに「社会福祉法人聖導会 川崎学舎」にも出席を賜り、同団体・法人とも協定を締結しました。

※以上、27 の企業及び団体（敬称略、50 音順）





大学紹介

学部・大学院

入試情報

就職・資格

キャンパスライフ

社会連携

キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

デジタル
パンフレット

＞ キャンパスニュース

お知らせ 2024.11.21

第2回 包括連携協定締結式が行われ、さらに4つの企業様と締結しました 【11/21追記】

2024年11月20日、学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学は、小倉北区キャンパスにて、[第1回包括連携協定締結](#)からさらに4つの企業・団体（詳細は下記参照）と包括連携協定を締結しました。これにより現在、31の企業・団体様と包括連携を図ることが出来ました。

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 11月20日 第2回包括連携協定締結の詳細は[こちらから〔PDF〕](#)

- ・株式会社CROSS FM 様
- ・ゲンピ株式会社 様
- ・株式会社サンリッチ 様
- ・田川産業株式会社 様

「ゲンピ株式会社、九州栄養福祉大学とメタバース教育提供企業として包括連携協定を締結」
ゲンピ株式会社 プレスリリースは[こちらから](#)



キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

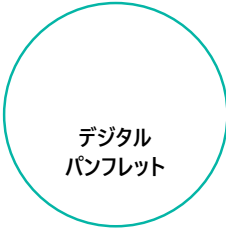
＞ 全て

＞ お知らせ

＞ 学科

＞ 入試関連





キャンパスニュース CAMPUS NEWS

デジタル
パンフレット

＞ キャンパスニュース

お知らせ 2024.12.02

第3弾 学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学、株式会社吉川システックと 包括連携協定を締結

2024 年12 月2日、学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学は、小倉北区キャンパスにて、株式会社吉川システック（北九州市八幡東 区 代表取締役社長 坂本 直記）と包括連携協定を締結しました。
これによりまして、第1弾（8月21日）の27 企業・団体、第2 弾（11月20日）の4 企業を合わせて、32の企業・団体との間で包括的な連携を図ることとなりました。

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 8月21日 第1回包括連携協定締結の詳細は[こちらから](#)

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 11月20日 第2回包括連携協定締結の詳細は[こちらから](#)

学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 12月 2日 第3回包括連携協定締結の詳細は[こちらから\(PDF\)](#)

株式会社吉川システック プレスリリースは[こちらから](#)

キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

- ＞ 全て
- ＞ お知らせ
- ＞ 学科
- ＞ 入試関連





※全 32 企業・団体との包括連携ロゴイメージ



キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

デジタル
パンフレット

＞ キャンパスニュース

お知らせ 2025.03.27

第4弾となる包括連携協定締結式を行い、2社の企業様と協定を結びました

2025年3月27日、本学小倉北区キャンパスにて、下記の2つの企業様と包括連携協定を締結しました。
これにより現在、34の企業・団体様と包括連携を図ることが出来ました。

- ・大石産業株式会社 様
- ・株式会社情報戦略テクノロジー 様

署名



キャンパスニュース

CAMPUS NEWS

＞ 全て

＞ お知らせ

＞ 学科

＞ 入試関連





学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 3月 27日 第4回包括連携協定締結の詳細は[こちらから\(PDF\)](#)



令和6年度に学校法人東筑紫学園九州栄養福祉大学は34の企業・団体と包括連携協定を締結致しました。

【包括連携協定企業及び団体一覧】

企業

アイコムソフト株式会社、
株式会社アフレル
株式会社井筒屋
AI CROSS株式会社
オーエーセンター株式会社
大石産業株式会社
株式会社ONE
株式会社オブティム
おりおスポーツ接骨院
極東ファディ株式会社
株式会社CROSS FM
ゲシピ株式会社
株式会社サンキュードラッグ
株式会社サンリッチ
株式会社サンリブ
株式会社しゅんさいくらぶ
株式会社情報戦略テクノロジー
株式会社スターフライヤー
株式会社セキアサイクル
田川産業株式会社
株式会社東筑軒
TOTO株式会社
株式会社ドーワテクノス
株式会社ハピクロ
(同) B & W
響灘菜園株式会社
(一社) 福津いいざい
寶結株式会社
株式会社丸ふじ
株式会社もち吉
株式会社ゆめマート北九州
株式会社吉川システック

団体

「子ども食堂ネットワーク北九州」
「社会福祉法人聖導会川崎学舎」

2024シニアカレッジ

東筑紫学園のキャンパスで学ぶ 周望学舎の シニア カレッジ

元気に
シニアライフを
愉しもう！

対象
と
定員

北九州市内在住もしくは市内に勤務している55歳以上の方
定員40名(応募者多数の場合は抽選)

開講
期間

9月4日(水)～10月23日(水)
週1回 全8回 13:00～16:10
1コマ90分を2回

受講
料

5,000円

会場

九州栄養福祉大学
東筑紫短期大学

小倉北区下道津5丁目1-1

ご利用できる駐車場
がございませんので、
ご来校には公共交通
機関をご利用下さい。

募集
期間

8月16日(金)
必着

応募
方法

住所・氏名(ふりがな)・年
齢・性別・電話番号を記入し、
ハガキまたはFAXにて、も
しくはQRコードを読み込み
Googleフォームより申込み
下さい。



応募
先

〒803-0852 小倉北区新高田二丁目29-1
北九州市立年長者研修大学校
周望学舎シニアカレッジ係
TEL 591-2626 FAX 591-2629

交通アクセス



主催：北九州市立年長者研修大学校 周望学舎
指定管理者 北九州シニアネットワークアカデミー共同事業体
共催：学校法人 東筑紫学園(九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学)



開講日		1 限目（13：00～14：30）	2 限目（14：40～16：10）
1	9月4日 （水）	開講式 オリエンテーション	レクリエーションで 心と身体を動かそう！ 東筑紫短期大学 保育学科 助教 大橋 祐介
2	9月11日 （水）	乳児院で生活する子どもと その家族への支援 東筑紫短期大学 保育学科 講師 井田 智美	酵母はパン生地のを何を使って 発酵しているのか 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 和辻 智郎
3	9月18日 （水）	一緒に作って食べて学ぼう！～身体に優しいスイーツ～ 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授 中野 眞弓	
4	9月25日 （水） バス移動日	健康づくりのための身体活動 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 松崎 英章	学生と楽しく取り組む 健康づくり 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 学科長 教授 廣滋 恵一
5	10月2日 （水） バス移動日	【復活】よさこい！シニアライフ！！～「脳トレ」も一緒に～ 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 深町 晃次・講師 久保 拓哉	
6	10月9日 （水）	食べるための進化と多様性 ～顎の獲得、歯の起原と進化、 肉食・草食・雑食・乳食の仕組み～ 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授 田畑 純	口腔の健康と栄養 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師 青佐 泰志
7	10月16日 （水）	認知症の種類・症状とその対応 ～自宅でできる簡単な運動で認知症を 予防しましょう～ 東筑紫短期大学 専攻科 講師 伊藤 元子	遊びを通して一緒に楽しく 学びましょう！ ～主体的でより深い学び～ 東筑紫短期大学 保育学科 准教授 原本 賢一
8	10月23日 （水）	元気に長生きするために 14 ～歌と踊りと古典浪曲で 楽しく学ぶ『長寿節』～ 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学長 室井 廣一	閉講式

バス移動日 集合・解散は小倉北区キャンパス（小倉北区下道津）です。
バス集合時間12:00（時間厳守）。講義終了後の小倉北区キャンパス帰着時間は17:00前後の予定
です。なお、小倉南区キャンパス（小倉南区葛原高松）へ直行希望の場合は事前にお申し出下さい。
* 日程等は都合により変更となる場合もありますので、予めご了承ください。

北九州市役所との連携

北九州市委託事業

「若い世代の食育推進事業」の取組について

2024年度

公衆栄養学 教授 大村美智子

令和6年度若い世代の食育推進事業業務報告

令和4年度北九州市健康づくり及び食育に関する実態調査結果等より、20～30歳代の食生活の状況について、確認し、その背景にあるものの考察を行い、課題解決に向けて、若い世代への啓発の取組を行った。

1. 携わった学生数：九州栄養福祉大学食物栄養学科 学生117名

(1年7名、3年96名、4年14名)

2. 食生活の課題に向けた目標：減塩、野菜摂取量の増量、朝食欠食への対策

3. 実施内容

(1) 20歳代への課題解決（野菜摂取不足）に向けて栄養学を学ぶ学生からみた食行動アンケートを実施

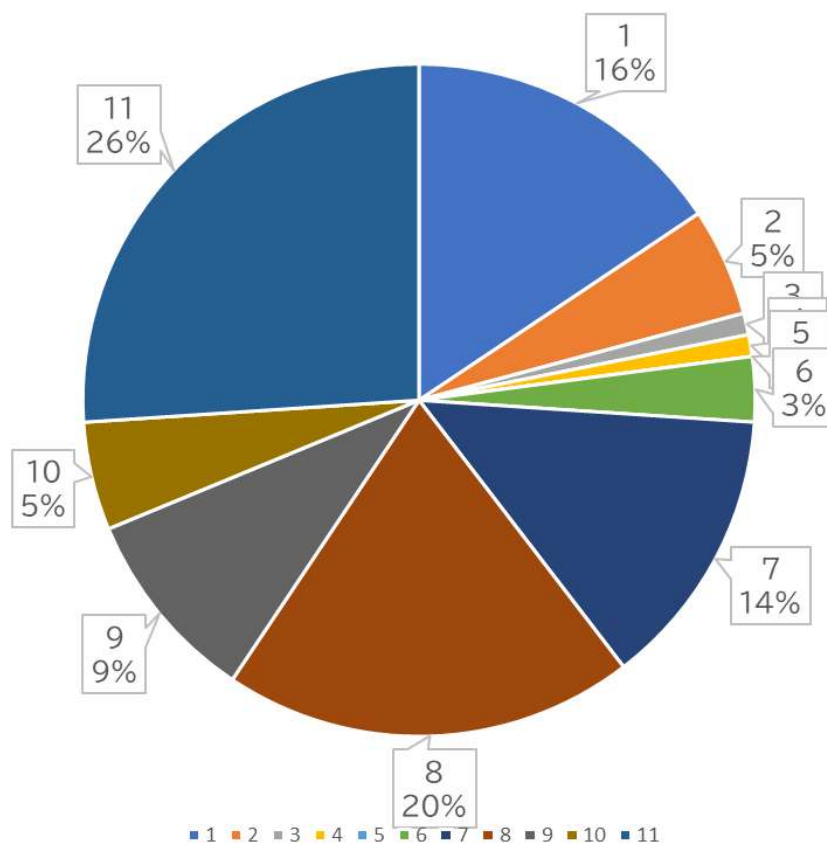
令和5年度のアンケート結果から、一人暮らしの学生に野菜摂取不足の傾向が強くみられた。そのため、今年度は「一人暮らしの学生」を対象に野菜の特性をPRする内容をどのようにすれば、改善につながるかを検討した。

《アンケート結果》 食物栄養学科学生 96人

野菜の特性のPRについて

「一人暮らしの学生」を対象に野菜の特性をPRする内容についての検討							
《アンケート結果》							
項目	選択数	内容					
1	15	ビタミン類がとれる。					
2	5	食物繊維がとれる。					
3	1	カルシウムがとれる。					
4	1	鉄分がとれる。					
5	0	カリウムが含まれるので、高血圧予防					
6	3	咀嚼回数が増えて満足感が得られやすい					
7	13	満腹感					
8	19	野菜は食事の総エネルギー量を抑えることができる					
9	9	定期的に摂取すると腸内環境の改善					
10	5	野菜から先に摂取すると食後の血糖値が緩やかに上昇					
11	25	習慣的に野菜を摂取すると生活習慣病予防につながる。					
合計	96						

野菜の特性



(2) 若い世代の課題解決を踏まえた啓発媒体等の作成

① 若い世代向けに誰もが簡単に取り組める減塩方法の啓発動画 19本

例



② 学生食堂・社員食堂の利用者に対する啓発用卓上メモ 182種類 卓上メモ100セット



すべて学生の手作り 一例

③ 大学生から見た高校生の食習慣改善に向けたアドバイス校内放送原稿 8本

④ 若い世代の食習慣改善に向けた取組・啓発の実施

大学祭やオープンキャンパス来場者向けに食物栄養学科3年4年の学生により

朝食欠食や野菜プラス、バランス食、肥満瘦身、減塩などのポスター掲示、説明を実施 (延べ500人)

大学祭での普及啓発用展示 (一部抜粋)



4. 提出書類

- ① USB1本 啓発媒体保存
- ② ラミネート加工作成済み卓上メモ 100個
- ③ 校内放送原稿 8枚
- ④ アンケート用紙 96枚

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療学科
教授 農園長 認定作業療法士 佐野幹剛

はじめに

令和7年1月、北九州市立生涯学習総合センターにおいて令和6年度後期「北九州市民カレッジ」の講師として、本学の農園実習に関する取り組みを北九州市民の皆さんに紹介してきました。北九州市民カレッジは、市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図ることを目的として毎年実施されています。

この講座で「九州栄養福祉大学の持続可能な循環型農園実習の取り組み」をテーマにして、九州栄養福祉大学リハビリテーション学部で開講されている「食と農園」を紹介しながら、新入生が1年を通して畑作りから収穫、収穫後の活用まで循環型農園実習を体験するとともに、本学の建学の精神のもと実施している農園での行事教育について触れながら、栄養とは何か、リハビリとは何かについて講演しました。その内容を以下に示します。

1. 循環型農園実習の紹介



図1：南区キャンパス実習農園

広大な南区キャンパス（小倉南区葛原高町）には足立山の麓の自然と調和した学内農園があります。平成16年に開設して以降、毎年農園芸実習が行われています。学生たちは、教室内で知識・技術だけを学ぶのではなく、屋外で四季折々の自然に触れ、自分たちで種を蒔き、育て収穫し豊かな人間性を成長させます。

(1) 土づくり

北区キャンパス（小倉北区下剱津）では、「マジックバイオくん」を使って生ゴミから畑にまく堆肥を生成しています。この堆肥を畑に施していきます。次に除草作業のあと乾燥させた雑草を敷き詰め、さらに苦土石灰や油粕を重ねて、最後に土を被せます。この状態で数週間寝かせていきます。



図2：土づくり①



図3：土づくり②



図4：土づくり③

(2) 耕うんと畝たて

ヒラ鍬を使って畑を耕していきます。もちろん、耕運機も使いますが、赤土で硬く踏みしめられたところは人手で土を掘り返していきます。土と堆肥、空気が程よく混じったところで畝作りを行

います。ヒラ鋤を使っていくわけですが、ちょっとしたコツがあり、学生は慣れない農具の操作に悪戦苦闘しながら徐々にコツを掴んでいきます。



図 5：耕うん



図 6：畝たて

(3) 播種

毎年収穫後に種を取り出し、次年度の種まき用に保存しています。例として、スイカやオクラの種は日陰にて乾燥させ、暗室にて管理しておく、特に湿気が来ないように注意しています。4月になるとポットに種を 2～3 粒入れて、育苗室にて温度管理をしながら発芽を待ちます。「食と農園」の受講生が毎日、水をやり育てています。



図 7：スイカの種と発芽



図 8：オクラの種と発芽

(4) 定植

春先の天気の良い日にポットで育てた苗を地植えします。地温を上げるため、また雑草防止のためにマルチを敷きます。トマトやナス、オクラなどは園芸支柱を用いて縦方向に伸ばしていきます。また、キュウリや豆類などツル系の植物は園芸支柱にネットを固定しツルを這わせて行きます。スイカやカボチャなどウリ系の植物は地面を這わせませす。特にスイカはカラスが収穫時期に狙ってきますのでスイカ畑全体にネットを敷きます。



図 9：トマトの定植

(5) 種蒔祭と高大連携

九州栄養福祉大学では、人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえる教育視点をカリキュラムに位置づけるだけでなく、食物栄養学部とリハビリテーション学部とが連携して、有機的に協働できる視野を持った専門家を養成するという使命を持っています。種蒔祭は、このような大学としての使命を具現化する行事として位置づけられています。また、認定こども園東筑紫短期大



図 10：さつまいもの苗を定植

学附属幼稚園の園児と合同で作業を行い、農作物を育てる喜びを共有します。

高大連携として、令和 5 年度より北九州市立高校の生徒さんに参加していただき、学生・園児・教職員と一緒にさつまいもの苗を植えながら、親和の心を育む体験をしています。

(6) 農園の管理作業

主な農園管理作業としては、除草作業を始め、トマトやナスの脇芽を摘む作業、伸びた茎を園芸支柱に固定する作業、追肥作業、間引き作業などです。学生たちにとって、初めての体験なので失敗も多いです。水やりは当番制にしています。表面だけ湿らす程度に水を撒く学生もいますし、雨が降った日の午後に水を撒く真面目な学生もいます。守られた環境で野菜は育って行きます。



図 11：トマトの管理作業

(7) 収穫と利用方法



図 12：夏野菜の収穫

今年の夏はたくさん収穫できました。オクラやスイカも大きく育ってくれました。収穫した野菜は、両学部の受講生たちに食べていただきましたし、学内研修会にて教職員の皆さんにも味わっていただきました。

今年の収穫感謝祭は雨天のため中止となりました。しかし、5 月に植えたさつまいもは大きく成長していましたので、10 月下旬に食物栄養学部とリハ学部の農園実習を受講している学生さんと協働で収穫作業を行いました。収穫したさつまいもは、石焼き芋などに調理していただいたものを学生みんなで試食したり、大学祭や子ども食堂で振る舞われる食材として利用していただいたり、たくさんの方に利用していただきました。また、授業では焼き芋が甘くなる仕組みや酵素の働きなど学習することができました。



図 13：さつまいもの収穫

2. まとめ

農園実習では、建学の精神の元、根源的生命力を養う実践の場としてこれまで取り組んできました。コンピューターが普及し AI などデジタル化により社会や生活のスタイルが変わろうとしている中、循環型農園実習は自然とともに生きていく力を身につける、最も基本的な人の生き方のありようを学ぶ場としてその役割を担っています。学生は、先人たちの知恵を学びながら、勇親愛知の四魂を統一した人格形成を目指していただきたいと思います。

地域と連携した活動について

- 1 1.5℃ライフスタイルワークショップ
～トマトの恩返し取り組み発表～
- 2 井筒屋「KITAKYU FESTIVAL」サステナマルシェ
トマトのおんがえしシリーズ販売
- 3 ギラヴァンツ北九州 戸畑・若松・門司区民感謝デー
北九州市立高校とサブレ販売
- 4 Z世代はみ出せ！コンテスト出場
- 5 ハゼモト建設株式会社「方野子ども食堂アッシュ」
規格外トマトカレー提供
- 6 るんるんマルシェ稲刈り体験
おにぎり提供
- 7 北九州放課後児童クラブ長期休み弁当の作製
- 8 株式会社 丸ふじ 商品開発・販売
～おからチヂミ～
- 9 九栄大トマトの焼きカレーの製作
- 10 規格外トマトピザ商品開発・販売

1 1 九州栄養福祉大学～地域連携センター

～高校での探求授業連携について

1 2 大学地域連携学会第4回学会大会

発表ポスター 2024年11月16日、水戸市

1.5℃ライフスタイルワークショップ ～トマトのおんがえし取り組み発表～

令和6年8月6日、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）主催の、1.5℃ライフスタイルワークショップに参加しました！

内容は、高校生、大学生を対象として、7月29日、8月6日、8月10日の3日間、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らすことについてのワークショップがありました！

北九州市立高校はマーケティング、九州栄養福祉大学はトマトのおんがえし取り組みについて発表しました。

参加者の方に、規格外トマトの活用方法を考えてもらい、素敵なアイデアをたくさんいただきました。

留学生もいて、英語と日本語が飛び交う素敵な空間でした。



井筒屋

「KITAKYU FESTIVAL」

サステナマルシェ

トマトのおんがえしシリーズ販売

令和6年5月31日～6月6日で7日間、井筒屋で行われた「KITAKYU FESTIVAL」のサステナマルシェにて、学生たちがトマトのおんがえしシリーズの紹介・販売を行いました。

サステナマルシェとは、サステナブルな商品を扱うセレクトショップ〈サステナベース〉より、人にも環境にもやさしい商品を販売しているブースになります。

若松区響灘菜園の規格外トマトを使用した、トマトのおんがえしシリーズは、食品ロスの観点からサステナブルな商品ということから、お声掛けいただきました。

お客様の感想を直接聞くことができ、学生たちもとてもいい経験をさせていただきました。



ギラヴァンツ北九州 戸畑・若松・門司区民感謝デー 北九州市立高校とサブレ販売

令和6年6月2日に、ギラヴァンツの試合、戸畑・若松・門司区民感謝デーで、トマトサブレを販売してきました。

高校生が作ってくれた、可愛いPOPでお客様に声掛けを行い、商品紹介をしました。
高校生・大学生パワーで、全て完売しました！

たくさんの方に「トマトのおんがえしシリーズ」を知ってもらえて嬉しいです！



ハゼモト建設株式会社

「方野子ども食堂アッシュ」

規格外トマトカレー提供

令和6年10月9日、ハゼモト建設さんが営む、「方野子ども食堂アッシュ」に参加してきました。

手作り規格外トマトカレーと、豆腐白玉フルーツポンチ、ポテトフライを作り、子どもたちに提供しました。

子どもたちと、豆腐白玉の形成を一緒にしました。ハートやうさぎなどかわいく成形していました。



るんるんマルシェ稲刈り体験 おにぎり提供

令和6年5月頃、team るんるんが田植えを行い、育てたお米の収穫を、お手伝してきました。

収穫したお米は、10月27日に行われた、るんるんマルシェで、おにぎりと豚汁として提供しました。

また、収穫したもち米は、マルシェでもちまきを行い、来場者の方にお配りしました。
自分たちで収穫した、お米をお客様に食べてもらうとても素敵な体験をさせていただきました。



全国初！

小倉牛丸むすび
Marufuji 丸ふじ
株式会社 丸ふじ



北九州市立高等学校



九州栄養福祉大学
Kyushu Nutrition Welfare University



北九州放課後児童クラブ長期休み弁当

～栄養まんてん！ Kidsわくわく弁当～

☆北九州市の規格外野菜を使用したお弁当

全国初の取り組みに挑戦！！北九州市立高校、九州栄養福祉大学の学生と北九州市、お弁当屋さんの丸ふじと一緒に、春休み等(長期休み)の北九州市放課後児童クラブの子どもたちへ栄養まんてんのお弁当を作りました。ほぼ加工食品を使わずに手作りで1つ500円で提供できるように、お弁当の中身は、**若松の松浦ファーム**や、**JA九州の規格外野菜**を提供していただきました。**野菜が1回で120g**とれるようにしたり、給食の代わりとなる弁当を目指すために、**カルシウム**や**鉄**を強化しました。野菜たっぷりの栄養価の高いお弁当にしました。

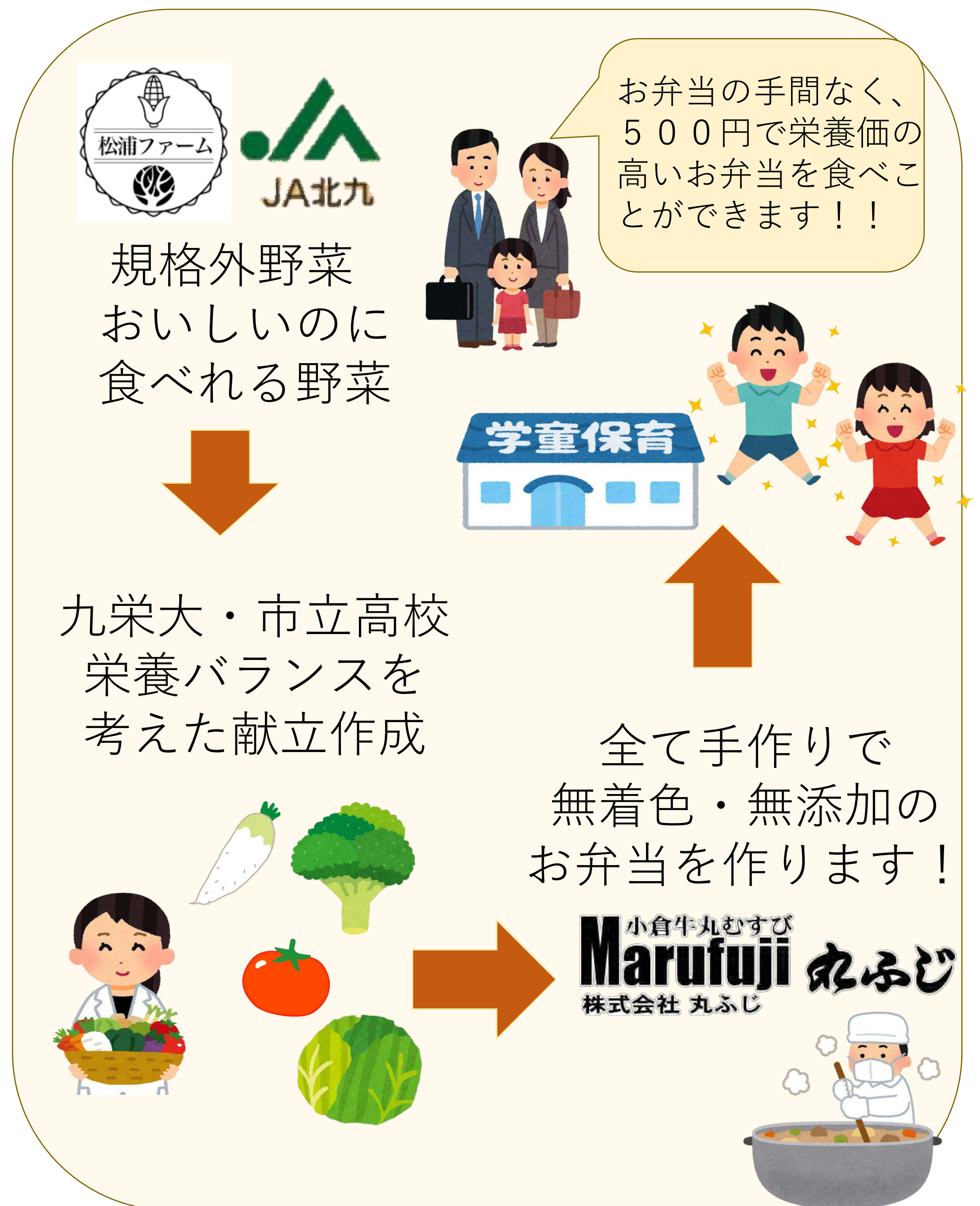
☆弁当紹介



松浦ファームさんJA全農さんより
規格外野菜をいただき**120g**の野菜を使用！



☆弁当が子どもたちに届くまで



☆子どもたちに聞き取り調査をしました！！

子どもたちから「おいしかった！」「野菜大好き！！」
「また食べたい！」と感想もらいました！！



NEXT...

今回の結果を集計し
夏休みのお弁当作りに
取り組んでいます！！



株式会社 丸ふじ 商品開発・販売 ～おからチヂミ～

令和6年7月11日に、北九州市の商業施設チャチャタウンでお店を構える丸ふじさんで、おからチヂミの商品開発・販売を行いました。

学生たちは、試作を行い、レシピを作成し、丸ふじさんと打ち合わせをしながら商品開発を行いました。

実際に学生たちが作った商品を、試食販売させていただき、直接お客様から感想を聞くことができてとても貴重な体験をさせていただきました。





コラボ！ トマトのおんがえし番外編！！ 規格外トマトピザ商品開発・販売



規格外トマトピザ

商品名 : トマトのおんがえし番外編
規格外トマトのマルゲリータピザ

販売価格 : 1枚1080円

販売場所 : 井筒屋本館地下1階

販売枚数 : 各日限定数50枚

販売日 : 令和7年1月25日(土) 11時～
26日(日) 11時～
売り切れ次第終了



佐佐井製粉さん
敬愛高校さん試作風景



九州栄養福祉大学
商品開発チーム

～詳細～

九州栄養福祉大学×敬愛高等学校×B&W×佐佐井製粉がコラボして、響灘菜園の規格外トマトを使用したピザの商品開発を行いました。九州栄養福祉大学で今年度開講された「食環境地域連携演習」の授業で、月1回集まり、佐佐井製粉と敬愛高校でピザ生地の開発、九州栄養福祉大学とB&Wでピザソースの開発を行いました。

響灘菜園の規格外トマトを生地にもソースにもふんだんに取り入れたピザの販売を井筒屋で、大学生と高校生が行います。このピザは、現在、井筒屋本館地下1階のポップアップストアで実演販売をしているB&Wのお店で、商品開発をした高校生・大学生が販売を行います。



2日間100食完売しました！



九州栄養福祉大学 ～地域連携センター～

高校での探求授業連携について

九州栄養福祉大学では、北九州市・高校・企業・病院とコラボして、様々な活動を行っています。「トマトのおんがえしシリーズ」を始め、北九州市放課後児童クラブのお弁当献立作成、戸畑総合病院のタニタ食堂とコラボレシピ開発など、たくさんの方々と連携活動をさせていただいております。令和7年度には1号館が建て替わりキッチンスタジオが完成、子ども食堂や食育をしていく予定です。また、「食環境データサイエンス」が新設され、約20社と協定を結ぶ予定で、連携の幅が広がっていきます。

☆中間高校との連携☆

令和6年5月中間高校400人を対象に、探求授業をしました。本学4年が「トマトのおんがえしシリーズ」や「放課後児童クラブの弁当開発」の取り組みについて発表、その後グループに分かれブレインストーミングを行いました。その後発表をして高校生から新しいアイデアをもらいました。



☆門司区・企業連携☆

令和6年5月に門司区を盛り上げるため、B&Wさんとコラボして「九栄大トマトの焼きカレー」のレシピ開発をしました。今年開講された食環境地域連携演習の授業で、学生主体でアイデアをだし、シェフに相談し、商品開発を行いました。かわいいPOPを作り、学生たちが販売、100食完売しました！



☆トマトのおんがえしシリーズ☆

響灘菜園の規格外トマト100tを使用して商品開発を行っています。

☆高校・企業と連携商品開発☆

丸ふじとコラボして、弁当献立考案、高校生と一緒に考えます！

☆食育活動☆

本学の附属幼稚園の園児さんたちに食育を行っています。

☆南区農園☆

南区キャンパスに農園があり、そこで農業体験や調理実習を行います。昨年度は北九州市立高校の学生さんも一緒に活動しました！

九州栄養福祉大学

〒803-8511

北九州市小倉北区下道津5-1-1

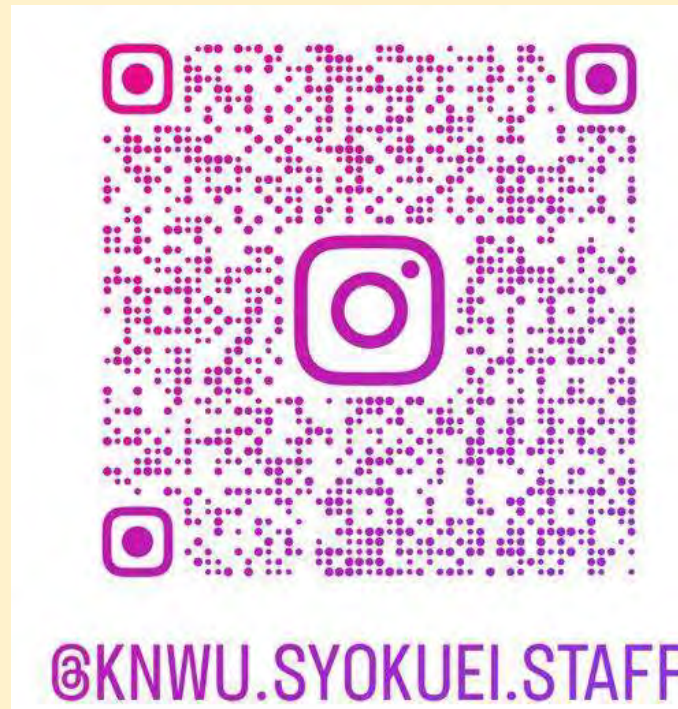
TEL: 093-561-2136

アドレス: muroi1120@knwu.ac.jp

aburaya@knwu.ac.jp

将来、管理栄養士となる学生が、地域に根差した活動と一緒に取り組めることを目指しています！ご連絡お待ちしております！！

インスタグラムで
連携活動配信中！！



@KNWU.SYOKUEI.STAFF

令和6年度 地域連携センター取り組み報告



令和7年度2月15日読売新聞掲載

Jcom アクション支援プロジェクト
1位になりました！



子ども食堂サークル
活動の様子が
NHK にて放送されました！

令和6年11月25日放送



地域連携学会で
トマトのおんがえしシリーズ
の取り組みについて
ポスター発表してきました。

来年度論文投稿予定です！



令和6年度2月15日読売新聞掲載
令和6年12月16日KBC 密着取材放送



サンタウォーク
1000人の大規模イベント
開催しました！
たくさんの企業さんと
一緒にやり遂げました！
北九州市主催のコンテストも参
加しました！



令和 7 年 1 月 29 日読売新聞掲載



令和6年11月30日 KBC 放送、12月1日毎日新聞掲載



Jcom 「ジモトトピックス」放送
高大連携
中間高校にトマトのおんがえしシリーズの
取り組みを発表し、グループワークをしました！



トマトのおんがえしシリーズ取り組みについて
ラジオ出演もしました！
キタナビは、こちらからお聞きください！



令和 7 年 1 月 25 日毎日新聞掲載



九栄大トマトの焼きカレー
イタリアンレストラン B&W さんとコラボ
焼きカレーの商品開発を行いました。
NHK 密着取材していただきました。

最新の情報は九栄大
公式インスタチェック！





環境未来都市北九州市における地域連携実践報告

～規格外野菜を通じた子どもの居場所支援～

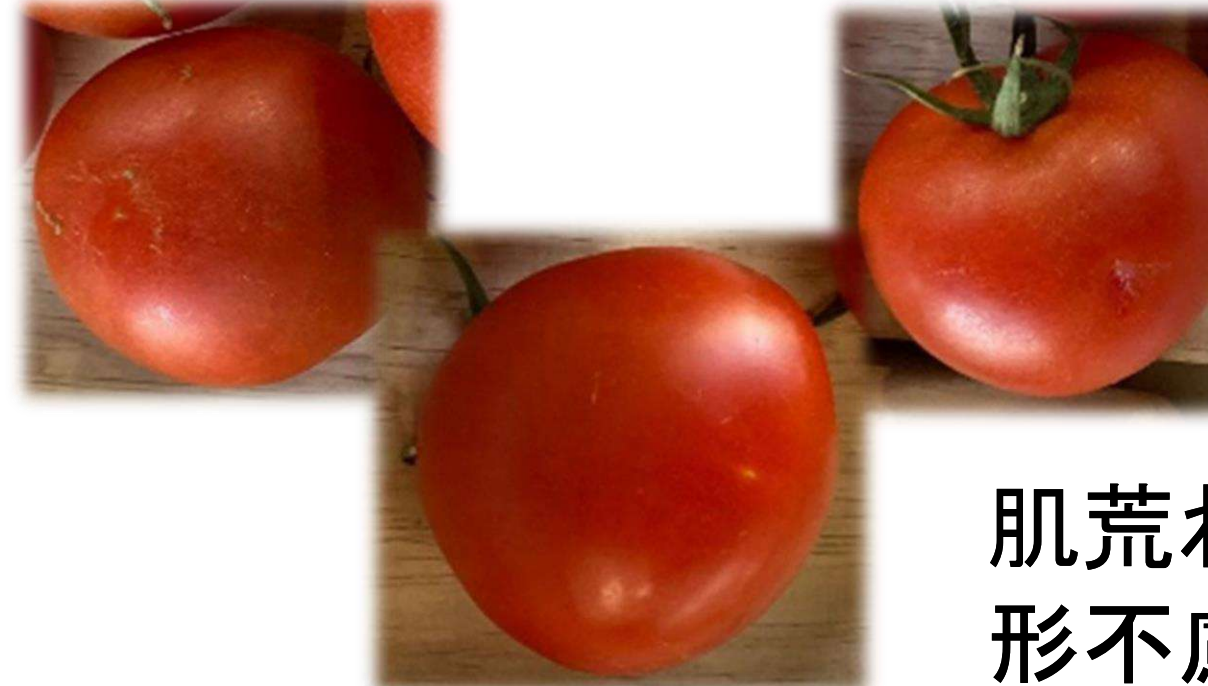
室井由起子、油屋和、大村美智子、渡邊啓一、杉元康志：九州栄養福祉大学

【はじめに】

福岡県最北端の北九州市は環境未来都市であり、地域でエネルギーを創り効率的に使うまち・子育てしやすいまち・環境ビジネスの拠点となるまちの実現を目指している。北九州市若松区にある響灘菜園では年間3100トンのトマトが収穫されており、そのうち、傷ができて出荷できないようなC級品の規格外トマトは年間100トンあり、廃棄されている。規格外トマトは年間総生産量の3.2%ではあるが、廃棄にもコストがかかってしまう。持続可能な社会の実現に向けた活動（課題解決）及び子育て支援の在り方を検討した。



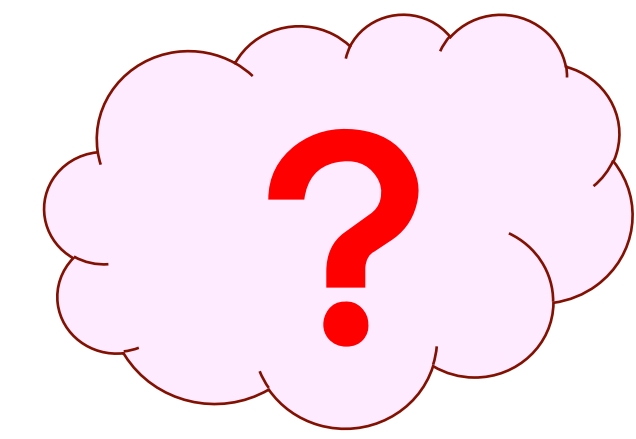
響灘菜園



肌荒れ
形不慮 等

食べれるのに出荷できないトマト

トマトを復活させ
地元企業とコラボ
商品開発！！



子どもの居場所
づくりにつなげる

第1弾

トマトの おんがえしカレー



響灘菜園さんより、規格外トマトを使用したレシピを開発の依頼があり、活動スタートした。コロナ禍のため、各自家で試作し、週1でオンラインミーティングを行いレシピを作りあげ、カレーの中に、**規格外トマト(1人前で1個100g)の活用**を考え、水を使用せずに、トマトの水分で仕上げることを検討した。トマトの酸味を抑えるため、色々な野菜や調味料を検討した結果、さつまいもが味、見た目、触感において好評であり、さつまいもを入れることとした。完成したトマトカレーは、出張子ども食堂などで、実際に子どもたちに食べてもらった。子どもたちから大好評で、「おいしい」「トマト嫌いでも食べられた」という声も多数聞かれ、レトルト化にむけ、地元企業や、西日本工業大学デザイン学部の学生と協働でパッケージ化を進め、地元スーパーでの販売が決定した。

～トマトのおんがえしカレーができるまで～

コロナ禍 4年前から活動開始 2023年4月 レトルト化 2023年5月 販売開始

響灘菜園から
レシピ開発の依頼
九州栄養福祉大学
レシピ開発・試作
週1オンライン
ミーティング
＜ポイント＞
さつまいもで
トマトの酸味を抑える

西日本工業大学
パッケージデザイン
西大学
イベントで子どもたちに
食べてもらい
「トマトのおんがえしカレー」
名前決定！

Cafeファディ
カレー販売開始
試食販売へ



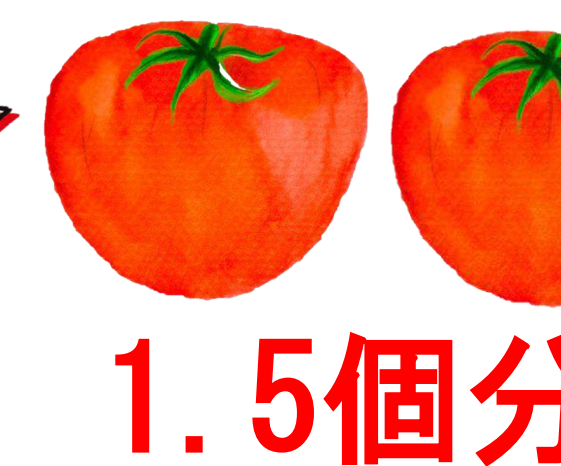
規格外トマトを復活させる
『トマトのおんがえしカレー』
と商品名決定！

第2弾

トマトの おんがえしサブレ



第2弾はより多くの規格外トマトの活用すること、北九州に根付くようなお土産にしたいということを考え、地元企業のGRAN DA ZURさんの協力を得て、商品化を進めていった。第2弾では、マーケティングを北九州市立高校の学生さんをお願いし、商品の形やコンセプトに学生のアイデアを盛り込んだ。サブレは、**5枚にトマト1.5個分**を摂取できる栄養価を高くすることや、子どもの噛む力を育むため、硬めにすることも検討した。また、規格外トマトの色味だけでは薄かったが、着色料は使用せずに商品化を進めた。この取り組みは、11月の大学祭のシンポジウムでも紹介し、規格外野菜の活用について、他の学生にも周知をおこなった。



摂取できます！

完全無添加！

着色料なし

着色料あり



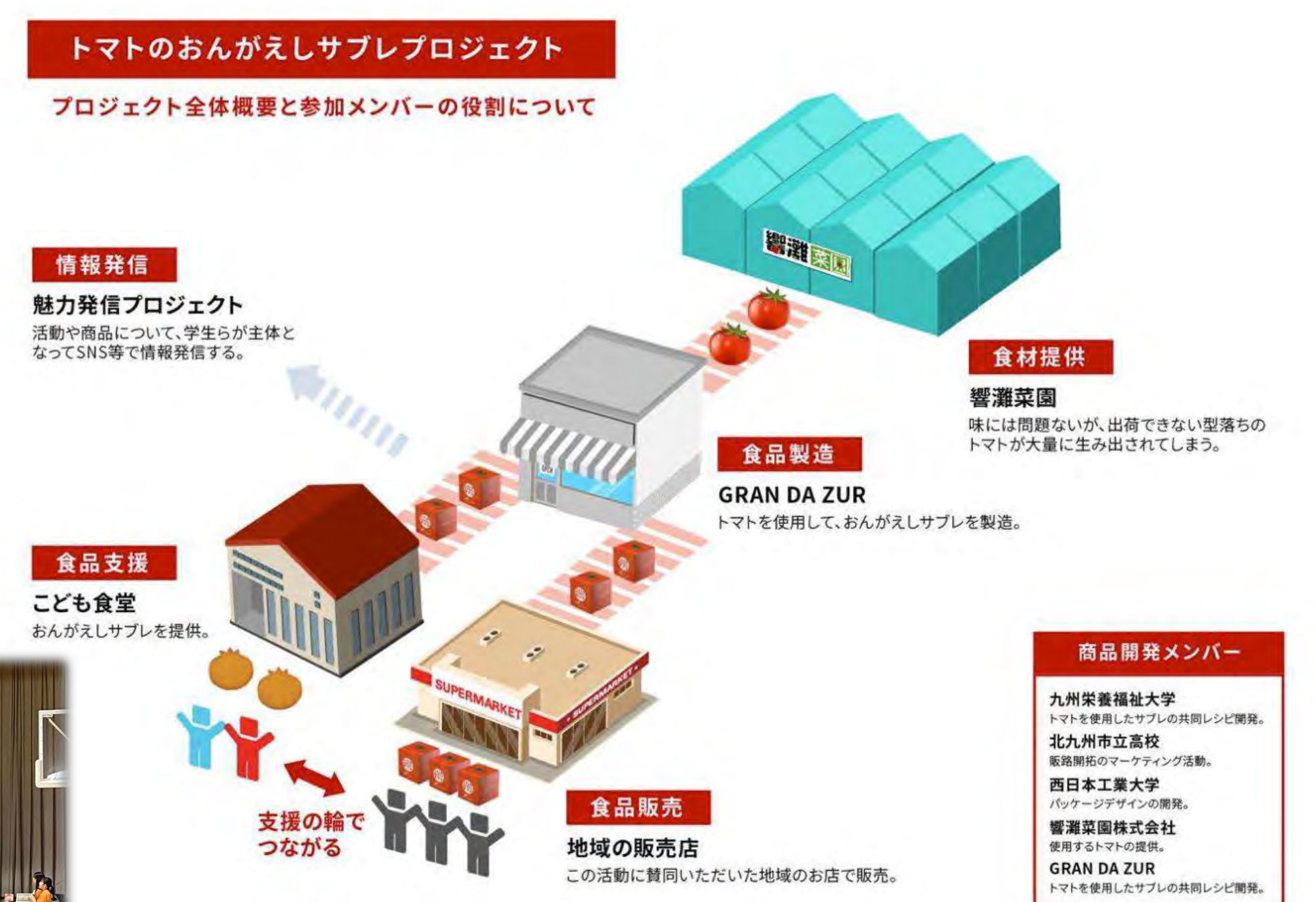
地元に根付く
お土産目指す！



【規格外野菜を通じた子どもの居場所づくりへ】

規格外トマトをトマトのおんがえしカレーとして商品化し、その売上げの一部を子どもたちの居場所づくりという北九州市オリジナルモデルとして構築した。トマトのおんがえしカレー、サブレに使用できるトマトは年間約2トンを消費している。また、ゼミ活動の一環として、地元の高校生に向けて探求授業を行い、規格外トマトの現状や活用方法について考えてもらう授業を展開している(下図)

今後、地元の企業や高校と連携し、規格外トマトの有効活用の提案を継続していきたい。



短期大学・幼稚園の活動

2024 年度

東筑紫短期大学 保育学科

地域連携活動

2024 年度東筑紫短期大学保育学科における地域連携活動の実施報告

東筑紫短期大学保育学科 笹部聡子

はじめに

保育学科の学生は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、認定ベビーシッター等の資格取得に向けた学習はもちろん、幼稚園や保育所、乳児院や児童養護施設等への就職に向け、さまざまな実習に取り組んでいる。また、毎年実施している保育学科主催による子育て支援では、学生が地域の子どもたちとその保護者の前で保育を実践することで、その後の学生の授業理解を深め、自信をもって実習に臨めるよう立案している。さらに、市内外の幼稚園や保育所、市民センター等からの要請によるボランティア活動も積極的に行っている。

保育学科として地域と活発な交流を行い、地域貢献へとつなげている。このような地域連携活動は、学生が主体的に子育て支援プランを立案・実践できるよう、教員がサポートしながら行っている。

1、保育学科主催による子育て支援

2024 年度は年 2 回の実施を計画し、1 回目は 2024 年 9 月 14 日（土）、2 回目は 2025 年 3 月 4 日（火）のそれぞれ 10 時から 11 時 30 分までとした。保育学科 1、2 年生の中からボランティアを募り、絵本や手遊び、リズム遊びといった親子が一緒に遊べる機会を設け、地域に根差した子育て支援活動の一環として実施するものである。

会場となる「つくしっこルーム」は、元来、このような支援活動ができるよう整備した部屋であり、クッションシートの設置など、安全面にも十分な配慮がなされている。

参加者募集のためのポスターを作成し、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園へ配布している。また、「安心して生み育てることのできる環境の整備」「子どもの健やかな成長への支援」といった、北九州市の目指す施策の方向性に合致したことで、近隣地域の市民センター（5ヶ所：一枝、到津、清水、井堀、泉台）へのポスター¹⁾ 配布を行うことが実現した。

下記は、2024 年 9 月 14 日（土）に開催した子育て支援の概要である。

2024 年度 第 1 回子育て支援

日時：2024 年 9 月 14 日（土）10 時～11 時 30 分（11 時～11 時 30 分：子育て相談）

場所：東筑紫短期大学 2 号館 303「つくしっこルーム」

□ 当日までの流れ

7 月中旬	学生ボランティア募集告知（Google フォームにて）
7 月末	学生ボランティア募集締め切り
8 月 6 日（火）	学生ボランティア顔合わせ（担当役割決め）
8 月 19 日（月）	ポスター掲示（附属幼稚園、市民センター）
9 月 13 日（金）	担当教職員および学生ボランティアで清掃、並びに会場作り
	その後、リハーサル・最終打ち合わせ（14：00～17：00）

9月14日（土） 子育て支援当日

8：30 教職員・学生ボランティア
→通しリハーサル

9：30 駐車場・玄関・受付・会場に分かれて配置

10：00 スタート

11：30 片付け・反省会

□ 実施内容

分担内容	指導担当教員	保育内容	担当学生
エプロンシアター	寺本普見子	【かくれんぼ】	2年生1名
大型絵本	吉田千津子	【おべんとくん】 作：真木文絵 絵：石倉ヒロユキ	1年生2名
紙芝居	吉田千津子	【のーびた のびた】 脚本 絵：福田岩緒	1年生2名
手遊び	井田智美	【はじまるよ はじまるよ】	1年生
わらべうた ふれあい遊び	丸田敦子	【ちゅっちゅっことまれ】 【うまはとしとし】 【おふねがぎっちらこ】	2年生3名
歌	丸田敦子 笹部聡子	ブックシアター 【とんぼのめがね】 全員（ピアノ1年生）：歌 【とんぼのめがね】	2年生1名 1年生1名（ピアノ）
ブックシアター	全員	スケッチブックシアター 【ドレミの歌】 【いないいないばあ】	2年生2名
司会	笹部聡子		2年生2名

□ 教員・学生仕事分担

事前

- 大学書類提出（起案書（参加学生名簿添付）・支出伺い（ボランティア学生食糧費））
- チラシ・ポスター（附属幼稚園、清水・到津・泉台・中井・一枝市民センター）作成・印刷
ポスター掲示
- ゲーグルフォーム（一般参加者募集用・学生ボランティア募集用）作成
- アンケート（参加者・学生用）作成
- 案内ボード作成
- 駐車場確保依頼（庶務課）

前日

- 受付
 - ・ 名前記入用テープ（カッティングボードに貼り付け）

- ・ 参加者名簿準備
- ・マジック
- 案内ボード
 - ・ 設置場所：2号館1・3階エレベーターホール、つくしっこルーム入口、授乳室
- 授乳室（ピアノレッスン室）
 - ・ 床掃除・ジョイントマット敷き・バスタオル準備・ガラスに目隠し（模造紙等）
- 2-303会場づくり
 - ・ 床掃除・ジョイントマット敷き・おもちゃ準備
- 保育内容の準備
 - ・ ふれあい遊び用CD
 - ・ 大型絵本、エプロンシアター

当日

- 駐車場誘導 ※学生は9:55には2-303集合
- 2号館玄関案内 ※学生は9:55には2-303集合
- 受付
- 受付終了後の対応
- 授乳室 ※鍵の開閉
- 記録写真
- 助手ステーション対応

□ 参加者からの感想より

- ・ 色々準備していただき、楽しかったです。
- ・ 楽しませようという気持ちが伝わってきました。
- ・ 泣いていた子どもに色々おもちゃを持ってきて接してくれたので、すぐに慣れる事が出来ました。
- ・ 家ではできない遊びがあったため、学生さんの企画を見ていて親まで楽しくなりました。
- ・ 盛り沢山の内容で楽しめました。
- ・ まだ保育園や幼稚園に通園していない子どもが、先生との関わりや同世代の子ども達との関わりを通して刺激を得て、楽しそうでした。
- ・ 絵本やお歌など楽しかったです。

□ 学生ボランティアからの感想より

- ・ 保護者の方と話すことは貴重な機会だと思いました。
- ・ 最初は緊張していた親子の顔がだんだんとほぐれて、最後には親子同士で笑顔になっている姿を見ることができました。
- ・ 最初は恥ずかしがっていた子どもでも、沢山話しかけたら膝の上に座ってくれて、コミュニケーションを少しずつとることが出来ました。
- ・ 実習前に子どもと関わる事が出来て良い経験になりました。
- ・ 子どもの可愛い反応が見られて嬉しかったです。

- ・ もっと経験を積みたいと思いました。
- ・ もっと幼稚園児と触れ合ったり出し物をやったりして、今後の実習での自分の引き出しを増やしたいと思います。
- ・ 2年生と1年生と一緒に活動することで、先輩の声のかけ方や発表の仕方で自分に必要なことがわかりました。
- ・ 表情を見ながら物事を進める方が大事ということを学びました。
- ・ 自分が作った教材を試すことができて良かったです。
- ・ リハーサルを重ね改善していくことができました。2年生や先生が1年生にアドバイスを出した点も良かったと思います。当日は子ども達も学生たちもみんな楽しそうでした。
- ・ リハーサルではピアノが全然弾けなかったけれど、たくさん練習して本番では間違えずに楽しく弾くことが出来たので良かったです。またこのような機会があったら挑戦してみたいです。
- ・ 初めて実践的な活動をして、より保育力を身に付けるためにはどんなことをすればいいのか、先輩方の行動を観察して活動することが出来ました。

□ 当日の様子（記録写真より）





参考資料

1) 告知用ポスター

東筑紫短期大学 保育学科主催
学生による子育て支援

**保育学科の
お兄さん・お姉さんと一緒にあそびましょう！**

**保育学科の学生による子育て支援です！
下記の日程で実施しますので是非ご参加ください**

日程 令和6年9月14日(土)
10:00～11:00

- **対象**
未就園児(0～3歳)と保護者の方
・先着順
- **内容**
親子で遊べるもの(絵本読み・手遊び・リズム遊びなど)
- **場所**
東筑紫短期大学 つくしこルーム (2号館3階303教室)
・駐車場あり

子育て相談
11:00～11:30

〒803-8511 北九州市小倉北区下到尾津 5-1-1
問い合わせ先 E-mail: sasabess@hcc.ac.jp
Tel: 093-561-2136 (代表)
担当者: 笹部

 **こちらのQRコードからお申込みください！
ご参加お待ちしております**

***定員になり次第締め切らせていただきます**

2、保育学科ボランティア部による活動

保育学科1、2年生の有志によるボランティア部は、2025年2月現在62名で構成されている。北九州市内外の幼稚園や保育園、市民センター他から要請があったボランティア活動について、ボランティア部の部員に募集をかけ、参加している。今年度は下記の6か所からの要請があり、クラブ顧問、保育学科教員の監督のもと活動をし、学びを深めることができた。下記は、今年度のボランティア活動の概要と、学生による総括・振り返りである。

●尾倉幼稚園 夏まつり

期日	2024年8月31日（土）16：00～17：30
場所	北九州市立尾倉中学校体育館
参加者	保育学科1年生3名
引率・指導教員	寺本普見子 浦田一幸
総括・振り返り	出店ブースのお手伝いをし、多くの子どもたちと関わった。先生方は、笑顔で一人ひとりと目を合わせ、様々なことに気づき、明るく丁寧に声掛けをされていた。今回の学びを生かし、先生方のような保育者を目指したい。

●中井子育て相談（乳幼児の身体測定および育児相談）

期日	2024年9月5日（木）10：00～11：30
場所	中井市民センター
参加者	保育学科1年生4名
引率・指導教員	寺本普見子 浦田一幸 丸田敦子
総括・振り返り	順番待ちや合間に、生後1か月から2歳までの子どもたちのお世話をしたりあやしたりしました。乳児に関わる機会がこれまでほとんどなかったため不安が大きかったですが、保護者の方から子育ての楽しさや大変さを聞くことができ、貴重な体験となりました。

●認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 後援会バザー

期日	2024年9月28日（土）9：00～12：00
場所	認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
参加者	保育学科1年生5名、及び2年生5名
引率・指導教員	寺本普見子
総括・振り返り	ボランティアに参加し、子どもだけでなく、保護者とも関わることができた。ミニゲームでは、小物一つ一つに装飾をしていたり、子どもの年齢によってルールを少し変えたり、多くの工夫が隠れていて、勉強になった。

●そよ風まつり（文化祭）

期日	2024 年 11 月 9 日（土）9：30～15：00
場所	到津市民センター 子ども文化会館
参加者	保育学科 2 年生 5 名
引率・指導教員	笹部聡子
総括・振り返り	紙コップを用いた製作、ペットボトルボーリング、魚釣り、輪投げの 4 つのコーナーに分かれて、子どもたちと一緒にあそぶことができました。臨機応変に子どもたちへ声掛けを行う必要性について学ぶことができました。

●あおば幼稚園 おゆうぎ会

期日	2024 年 12 月 15 日（日）8：30～16：30
場所	あおば幼稚園
参加者	保育学科 1 年生 4 名、及び 2 年生 1 名
引率・指導教員	寺本普見子
総括・振り返り	主に子どもたちの早着替えの補助を行った。着脱の際の力加減や声掛けの仕方が難しかったけれど、保護者の方々や先生方にアドバイスをいただき実習に生かせる良い体験ができた。

●子ども講座

期日	2025 年 1 月 11 日（土）11：00～12：00
場所	泉台市民センター
参加者	保育学科 2 年生 2 名
引率・指導教員	笹部聡子
総括・振り返り	集団遊びの提案から実践までをさせていただいた。動物福笑いを学生 2 名で作成し持参した。小学校 1 年生から 6 年生を対象に動物福笑いをし、自分たちで作った福笑いで楽しそうに遊んでいる姿が見られた。九州歯科大学のボランティア学生の方とも交流をすることができた。

おわりに

保育学科主催の子育て支援は 2025 年度も引き続き実施の予定である。今後も地域の子育て世代を中心に、親子で遊ぶ方法（手遊び、絵本の読み聞かせなど）を伝え、保護者の子育て相談など子育てに関する支援も行っていく所存である。保育学科の学生が授業や実習で保育技術を学ぶだけでは充分とは言えない。実際に地域の保護者や子どもたちと関わることで広い視野を持って保育技術を向上させ、より確かなものにできるよう、充実した支援内容を模索する必要がある。今後も学生が「子育て支援」やボランティア活動を通して、さらに学びを深めていけるよう援助していきたいと考えている。

地 域 交 流 活 動

子育て・親育ちの会

『親子でふれ合おう！楽しもう！』

東筑紫短期大学 保育学科

子育て・親育ちの会コーディネーター

准教授 吉田 千津子

令和6年度 第19回 子育て支援事業計画

1. テーマ 子育て・親育ちの会『親子でふれ合おう！楽しもう！』
2. 主催 東筑紫短期大学 保育学科
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
3. コーディネーター 東筑紫短期大学 保育学科 准教授 吉田 千津子
東筑紫短期大学 保育学科 准教授 笹部 聡子
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
主幹教諭 豊田 泉鑑
主任（保育園部）川田 麻里

4. 目的

昨年5月、それまで3年あまり続いた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へと移行し、季節性インフルエンザなどと同様に扱われるようになりました。ウィズコロナの日本では、新型コロナ禍の影響もあってか、さらに出生率が低下し、地域社会や保育現場においても社会問題となっています。

安心して子どもを産み、育てていけるよう国や県・市町村をはじめ、様々な分野から子育て支援を充実させ、家庭や地域がひとつになって子育てを行っていくことが重要だと考えます。

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の連携による子育て支援事業「子育て・親育ちの会」は、食・子育て・介護・リハビリの各専門分野の特性を生かした講師人による子育て支援事業を行い、21年目を迎えることができました。

本事業の意義は、子育ての多くを担っている保護者を支え、相談に応じ、子どもとよりよく関わることができる機会や、子どもと一緒に楽しむ場を提供すること、専門性を生かした遊びを通して親子の絆を深めることにあります。

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園では、教育の理念「よいこのころは ちくしのころ」に沿った園生活や遊びの中で、園児に「ゆうき・しんわ・あい・ちせい」の4つの心の芽を育てています。これは幼児教育の基本である「幼稚園教育要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の求める子どもの育ちとも合致しており、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学では、建学の精神「筑紫の心」に基づく人格教育と専門教育の充実を目指しています。

また、本学では、未就園児・附属幼稚園の園児や保護者のみならず地域社会に対して、周望学舎によるシニアカレッジや北九州市民カレッジ等を開催し、地域の活性化を目標に地域貢献に取り組んでいます。本事業を通して、「子どもの成長」と「共に育てる喜びを感じられる子育て」を支援します。

5. 事業計画

A) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の講師陣によるオムニバス授業・・・子育て相談～事前申し込み必要

●対象：親子（未就園児を含む）

●講義計画

日 時	講 師	学習テーマ	会 場
8月5日 (月) 10:40～ 11:40	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授 佐野 幹剛	「親子で楽しもう！ 心と身体のリハビリ体操」	認定こども園 東筑紫短期大学 附属幼稚園4階 子育て支援室
9月28日 (土) 10:00～ 12:45	東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 梅林 千恵子	「親子でつくろう！ サンドイッチ&シェイク de アイス」	短大3号館1階 103 実習室
10月26日 (土) 10:00～ 12:00	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 准教授 室井 由起子	「規格外トマトで課題解決！ 親子でつくるトマトカレー」	大学・短大 2号館6階 606 教室
12月23日 (月) 10:30～ 11:30	東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻） 専攻科教員&専攻科学生	「からだを使って 思いっきり遊ぼう」	東筑紫学園 講堂兼体育館
2月8日 (土) 10:30～ 11:30	東筑紫短期大学 保育学科 助教 大橋 祐介	親子で幼児体育 「楽しく身体を動かそう！」	認定こども園 東筑紫短期大学 附属幼稚園4階 子育て支援室

B) ワークショップ（全2回）・・・子育て相談～事前申し込み必要

●対象：親子（未就園児・小学生を含む）

《テーマ》季節を感じながら親子で作ってあそぼう！！

《講師》東筑紫短期大学保育学科 准教授 吉田千津子10家族まで(小学生可)

11月30日（土） 10：15～11：45	第1回 親子で作ってあそぼう！ 「あわてんぼうのクリスマス」 (手あそび・リズムあそび・読み聞かせ)	認定こども園 東筑紫短期大学 附属幼稚園4階 子育て支援室
1月11日（土） 10：15～11：45	第2回 親子で作ってあそぼう！ 「めでたいめでたいニューイヤー」 (手あそび・リズムあそび・読み聞かせ)	認定こども園 東筑紫短期大学 附属幼稚園4階 子育て支援室

第1回ワークショップ

親子で作ってあそぼう！「あわてんぼうのクリスマス」

歌

「 サンタクロースのおじいさん 」

パネルシアター

「 あわてんぼうのサンタクロース 」

親子製作

「 スノードーム作り 」

※参加人数多数の為、附属幼稚園2階遊戯室に変更

※第2回ワークショップは、都合の為中止



令和6年7月12日
認定こども園東筑紫短期大学附属
幼稚園

子育て・親育ちの会をします

「親子で楽しもう！」

こころと身体のリハビリ体操」

日 時 8月5日（月） 10:40～11:40

会 場 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
4階 子育て支援室

講 師 九州栄養福祉大学リハビリテーション学部
作業療法学科 教授 佐野 幹剛先生

- ☆持ってくる物…上靴・水筒・汗ふき用タオル
- ☆動きやすい服装でご参加ください。
- ☆在園児・未就園児(2歳前後～)と保護者の方（定員20組）

♪たくさんのご参加お待ちしております♪

創造しながら
身体を動かそう！



基礎体力を
つけよう！

*参加希望の方はお手数ですが、下記の申込用紙にご記入の上、幼稚園まで提出をお願いいたします。(TEL・FAXでの受付も行っております。)

*締め切り～7月22日（月） 定員になり次第締め切らせていただきます。

*駐車場はありませんので車での来園はご遠慮ください。

＜主催＞東筑紫短期大学保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

お問合せ先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 TEL 561-2133
FAX 571-0477

き り と り

*「親子で楽しもう！こころと身体のリハビリ体操」に参加します。

組 歳	ふりがな 名前	男 女	参加 保護者名	
住所 〒			その他参加者名	
TEL () -			(歳 (歳	
★学園や幼稚園ホームページ（一般公開）に写真を載せてもよろしいですか？ ○をつけてください。 ①載せて良い ②載せないでほしい ★①に○をつけた方へ 大きくても良い ・ 小さければ良い ・ 両方良い			※お子さまの体の動きなどについて、佐野先生に相談を希望される方はここに内容とともに記入してください。	

令和6年度 子育て・親育ちの会

第1回 「親子で楽しもう！心と身体のリハビリ体操」

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部
作業療法学科 教授 佐野 幹剛先生

実施 日時：8月5日（月）10時～12時15分

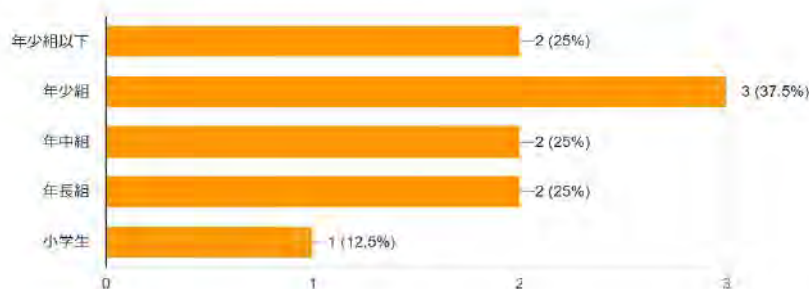
会場：認定こども園 東筑紫短期大学附属幼稚園 4階 子育て支援室



令和6年 第1回 子育て・親育ちの会アンケート結果

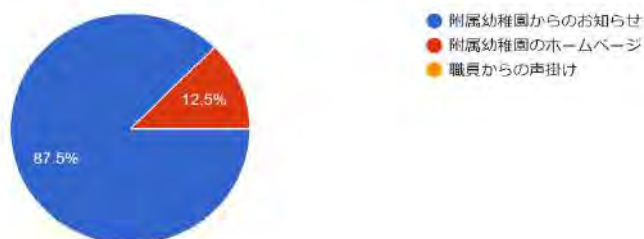
参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください。（複数回答可）

8件の回答



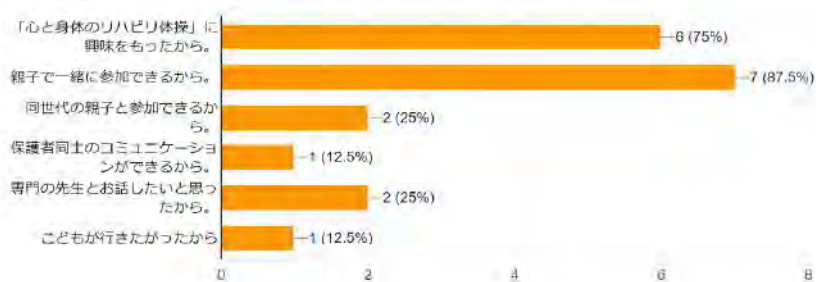
今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？

8件の回答



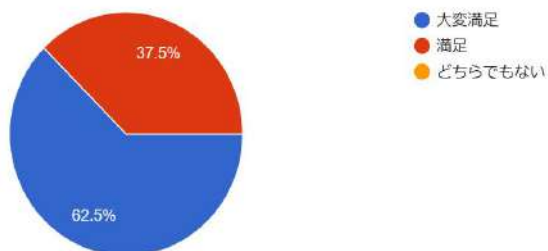
この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可

8件の回答



参加されていたいかがでしたか？

8件の回答



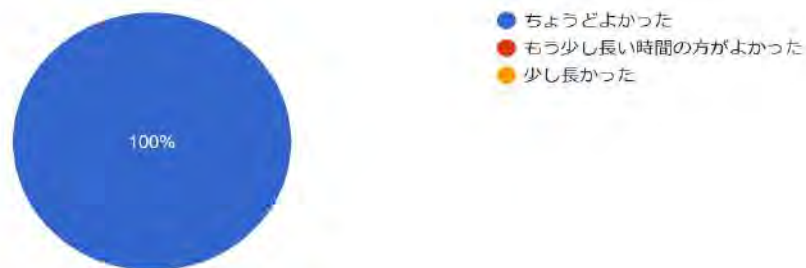
開催日時についてお尋ねします。今回の日程・時間帯はいかがでしたか？

8 件の回答



今回は1時間程度の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

8 件の回答



本日の感想をお聞かせください

- 一緒に身体を動かして楽しかったです。
- 普段しない体の動きができて良い運動になりました
- とっても楽しかったです！！また参加できるの楽しみにしています！
- 体をたくさん動かして楽しかったです^_^また参加したいです。企画してくださいありがとうございました。
- 動きは皆と一緒にできなかったけど先生方が大丈夫ですよと優しく声かけてくださり私のほうが涙してしまって嬉しかったです。家でもやってみます！
- お家での遊びに取り入れてみたいと思います。今日はありがとうございました。
- とても楽しかったです。勉強にもなり普段の育児のなかでも取り入れたいと思いました。ありがとうございました。

今後どのような内容の会に参加したいですか？

- こどもと一緒にできるもの。
- リトミック。
- 今回のような内容。
- 参加させていただけるならどんな体験でも嬉しいです。^_^
- このような体操。
- こどもと一緒に遊べる会。
- このような体を親子で動かす会に参加したいです。
- 親子で一緒に活動するものであれば、何でもいいです。
家庭でするには難しかったり手間がかかってしまう事なら、なお良いです。

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？

- 笑顔を見た時。
- 子供が喜んでいる姿をみたとき。
- 一緒に何か経験した時。
- 笑顔がみれた時、日々の積み重ねで成長を感じた時。
- できた事 見たことない動きや表情。
- こどもが楽しそうにしている時。
- 兄弟二人が仲良く遊んでいる姿を見ている時。
- 子ども自身が楽しんでいた、喜んだりしている時です。
- ありがとうございました。



令和6年7月17日
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

子育ち・親育ちの会をします

親子クッキング「親子で作ろう！サンドイッチ&シェイク de アイス」

- 日 時** 9月28日(土) 10:00~12:45 (9時45分幼稚園園庭集合)
- 会 場** 東筑紫短期大学調理室~3号館1階103 実習室
- 講 師** 東筑紫短期大学食物栄養学科 准教授 梅林 千恵子先生
- 対 象** 年少組・年中組・年長組在園児とその保護者 ※小学生は、今回は参加できません。
- 持 ち 物** エプロン・三角巾(大きめのハンカチ等)・手拭タオル・水筒
筆記用具・きれいに洗ってある上靴(子どものみ)
※保護者の方は大学のスリッパを使用します。
- 材 料 費** 800円(親子一組)お金を添えてお申込みください。
※キャンセルによる返金はできません。
※ご兄弟(在園児)が参加の場合は別途350円いただきます。
(人数に制限があります。)
- お 願 い** ○卵・牛乳・小麦粉等を使用します。
※アレルギーの方の対応はできませんのでご注意ください。
○調理実習をしますので爪をきちんと切ってください。
○ピアス等の装飾は異物混入のおそれがありますのでご遠慮ください。
○火を使いますので危険のないようお子様は保護者の方が責任をもって
みてください。



*参加希望の方は下記の申込用紙にご記入の上、幼稚園まで提出をお願いいたします。

- *TEL・FAXでも受け付けています☆
- *締め切り~7月22日(月) ※定員12組(30人まで)
- *定員になりお断りする場合のみご連絡いたします。
- *駐車場はありませんので車での来園はご遠慮ください。

<主催> 東筑紫短期大学保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

お問合せ先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 TEL 561-2133
FAX 571-0477

き り と り

*親子クッキング「親子で作ろう！サンドイッチ&シェイク de アイス」に参加します。

組 歳	ふりがな 名 前	男 女	参加 保護者名	
住所 〒			その他参加者名 (歳)	
TEL ()			(歳)	
★学園や幼稚園ホームページ(一般公開)に写真を載せてよろしいですか? ○をつけてください。 ①載せて良い ②載せないでほしい ★①に○をつけた方へ 大きくても良い・小さくても良い・両方良い			※お子さまの食について、梅林先生に相談を希望される方はここに内容とともに記入してください。	

第2回 「親子でつくろう！サンドイッチ&シェイク de アイス」

東筑紫短期大学 食物栄養学科
准教授 梅林 千恵子先生

実施 日時：9月28日（土）10時～12時45分

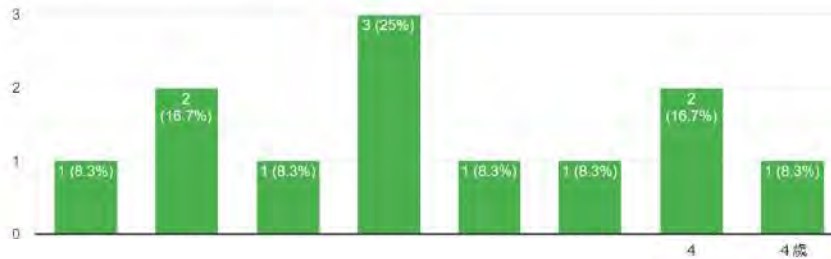
会場：東筑紫短期大学 3号館 1階 103実習室



第2回 子育て・親育ちの会アンケート結果

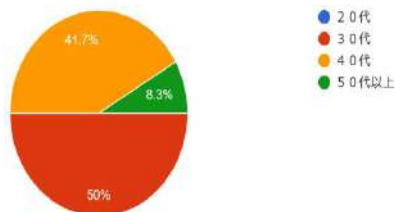
参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください。

12件の回答



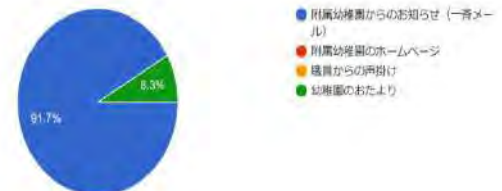
参加された保護者の方の年齢を教えてください。

12件の回答



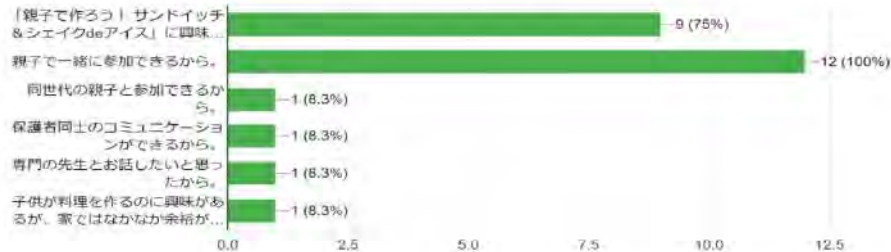
今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？

12件の回答



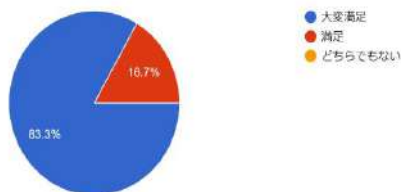
この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可

12件の回答



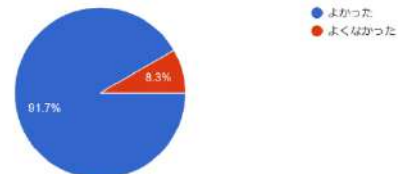
参加された保護者の方の満足度は？

12件の回答



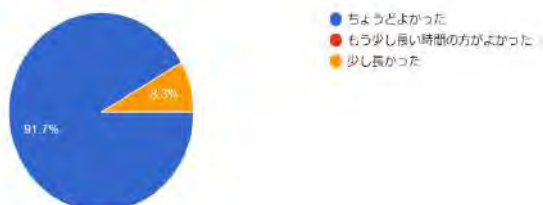
参加された保護者の方の満足度は？

12件の回答



今回は1時間程度の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

12件の回答



本日の感想をお聞かせください

- 包丁をつかうなど、いい経験が出来てよかった。
- とても良かったです。
- 親と一緒に料理を作れるのがいい。
- 包丁が使えたり子供も楽しくできて良かったです。
下の子が大きくなったら兄弟皆で参加したいです。
- 息子がとても喜んでいたので参加させていただきありがとうございました。
- こどもと楽しく作って食べれて楽しかったです。
アイスを踊りながら作れるとは思いませんでした（笑）
- お友達もいて楽しそうにしていたので、私も嬉しかったです。
また家でも一緒にしてみようと思います。
- 親子共々とても楽しい時間を過ごすことができました！
- 苦手なお野菜も食べる事ができました！
- アイスはぜひ家でも作ってみたいと思います。
- 本当にありがとうございました！
- 付き添いのスタッフの学生さんが良くフォローしてくれ、子供への態度も優しく素晴らしかった。
- 普段一緒に料理しようと思うと、準備だったりなかなかハードルが高いので、今日の機会は本当に楽しめましたし、先生方のお話もためになりました。ありがとうございました。
- 楽しかったです。また参加したいと思いました。

今後どのような内容の会に参加したいですか？

- 料理教室
- 肉料理
- またクッキングあれば参加したいです。
- 一緒にパンをつくりたい。手芸を一緒にしたい。
- 親子で参加できる季節のイベント等あれば参加してみたいです。
- クッキングはなかなか一緒にする機会がないのでとても嬉しいです。
- クッキーやチョコレート作りなど！
- 子供に自由に色々な体験をさせたい。
- 今回のように、子どもと一緒に何かを制作する、という時間は本当にありがたいです。
- 子供達と何かを作ったりどこかに出掛けたり。

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？

- 子どもの笑顔をみたとき。
- アイスcream作り。
- 子供が笑うとき。
- 楽しそうにしてる姿をみたときです。
- 子供が成長した時。
- きょうだいが仲良く遊んでるのを見てる時。
- 幼稚園で覚えたダンスを一生懸命踊って見せてくれる時。
- 遊ぶ以外に、子どもと外出したり、料理したりできる時間は楽しいです。
- 一緒に遊んで、笑っている時。
- 子供が喜んでいるとき。
- こどもが何か一人で成し遂げたとき。
- 皆がゲラゲラ笑っているとき。
- こどもが楽しそうにしている時。
- 子供が楽しんでいる時。
- 子供とはしゃいだ時など。



令和6年10月8日
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

<メニュー>
☆規格外トマト
たっぷりカレー
☆のりしおポテトフライ
☆とうふ白玉粉
フルーツポンチ

日 時 10月26日(土) 10時~12時
会 場 九州栄養福祉大学北区キャンパス~2号館6階 602・606実習室
(9時45分幼稚園の玄関前に集まってください)

講 師 九州栄養福祉大学食物栄養学部 准教授 室井 由起子 先生

対 象 ☆年長組・年中組(在園児)・小学生(兄弟児)とその保護者
☆定員15組(小学生を含む30名)まで
※人数によってはお断りする場合がありますのでご了承ください。

材 料 費 親子一組1,000円(お金を添えてお申し込みください。)
※小学生の参加は一人につき300円追加となります。定員は10名までです。
また、お子様は保護者と一緒に料理をしていただきます。
調理道具もありますので、参加するお子様に目の行き届く範囲でのご参加をお願いいたします。
※年少組以下のお子様のご参加はご遠慮ください。
※材料発注の関係がありますので締め切り後のキャンセルによる返金はできません。

持 ち 物 エプロン・三角巾(大きめのハンカチ等)・手拭タオル・水筒
筆記用具・きれいに洗ってある上靴(子どものみ)
※保護者の方は大学のスリッパを使用します。

お 願 い ○アレルギーのある方は、お知らせください。(備考欄に記入をお願いします。)
○調理をしますので爪を必ず切ってください。
○ピアス等の装着は異物混入のおそれがありますのでご遠慮ください。

親子で料理を
楽しむ1日に
しましょう!

○参加希望者は10月16日(水)までに下配の申込み用紙を提出してください。

※電話・FAXでも受け付けています☆

※定員になりお断りする場合はのみご連絡いたします。

○車での来園はご遠慮ください。



<主催>東筑紫短期大学 保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
お問合せ・お申込み先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
TEL 561-2133 FAX 571-0477

き り と り



第3回 子育て・親育ちの会「親子クッキング」に参加します。

組 歳	氏 名 前	男 女	参加 保護者名
住所 〒			その他参加者名
TEL ()			
★学園や幼稚園ホームページ(一般公開)に写真を載せてもよろしいですか? ☐ をつけてください。 ☐ 載せて良い ☐ 載せないでほしい ★①に○をつけた方へ 大きくても良い・小さくても良い・両方良い			※お子さまの「食」について、室井先生に相談を希望される方はここに内容とともに記入してください。

第3回 「規格外トマトで課題解決！親子で作るトマトカレー」

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
准教授 室井 由紀子先生

実施 日時：10月26日（土）10時～12時

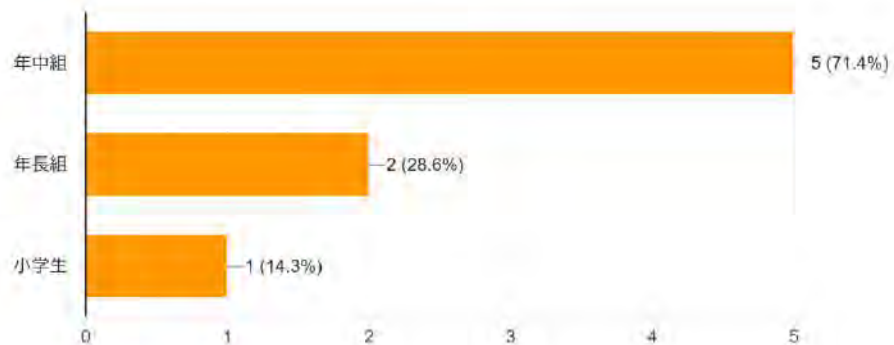
会場：大学・短大 2号館 6階 606教室



第3回 子育て・親育ちの会 親子クッキング アンケート結果

参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください。（複数回答可）

7件の回答



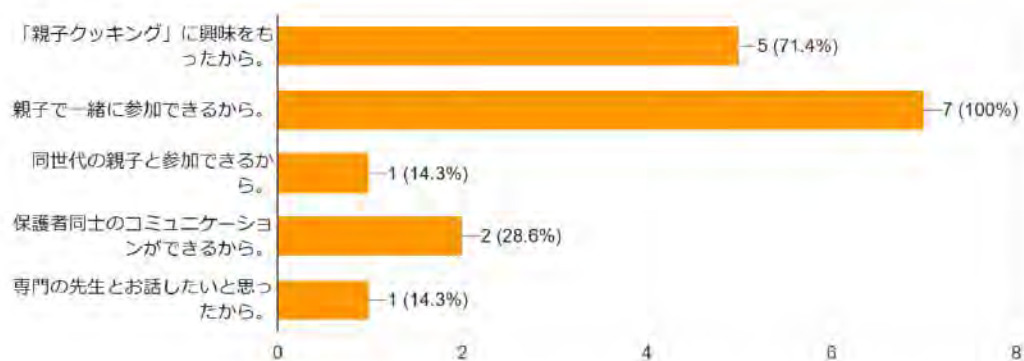
今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？

7件の回答



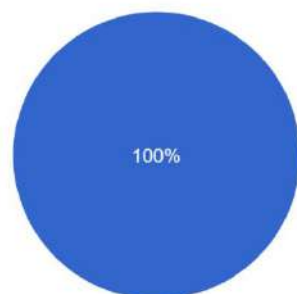
この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可

7件の回答



参加されていかがでしたか？

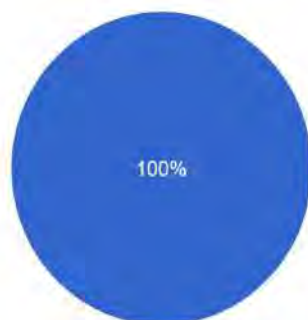
7件の回答



- 大変満足
- 満足
- どちらでもない

開催日時についてお尋ねします。今回の日程・時間帯はいかがでしたか？

7件の回答



- よかった
- よくなかった

今回は2時間程度の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

7件の回答



- ちょうどよかった
- もう少し長い時間の方がよかった
- 少し長かった

感想

- 今日は子供 3 人で参加させてもらいました。
それぞれ色々な工程に参加出来てとても楽しかったようです。
また参加させてもらいたいと思います。
- 喜んでいました
- 非常に楽しく満足です。
- 楽しく参加出来る事が出来ました 😊 ありがとうございました。
- トマトカレーとても美味しかったです。子供も自分で包丁で切ったり、炒めたりできて満足そうでした。また、ぜひ参加したいです。
- 楽しかったです
- 親子で楽しく料理ができたので、参加して良かったです。

今後どのような内容の会に参加したいですか？

- クッキングを定期的に、開催してもらいたいです。
- パン作り、クッキー作りなど
- クッキング
- 今日のように一緒に行う内容。
- またクッキングあれば参加したいです。クッキングに限らず兄弟が小さいので小さい子も一緒に参加できる企画があれば嬉しいです。
- 親子で工作など物作り
- 親子クッキング、親子体操

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？

- 一緒に笑い転げた時
- 子供がうれしそうなとき
- 一緒に取り組んでる時。
- 子どもの笑顔が見れた時。
- 子供が楽しそうにしているとき
- 子供と一緒に遊んでいる時
- 成長を実感したとき



第4回

子育て・親育ちの会をします

「からだを使って思いっきり遊ぼう」

令和6年12月5日

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

日時 12月23日(月) 10:30~11:30

※10時15分に大学2号館 1階 学生ホールにお集まりください

会場 九州栄養福祉大学北区キャンパス
東筑紫短期大学 ~2号館3階303

専攻科の学生も
一緒に遊んでくれますよ☆

講師 東筑紫短期大学 専攻科(介護福祉専攻)
准教授 廣藤 智之先生・田中 文佳先生・伊藤 元子先生

対象 満3歳児以上(未就園児を含む兄弟児)とその保護者
定員15組

内容 レクリエーション体験(遊びリテーション・疑似体験レクリエーション)

☆持ってくる物…水筒

☆運動靴での参加をお願いします。長靴やサンダルはご遠慮ください。

☆保護者の方も体を動かしますので、動きやすい服装でご参加ください。

☆満3歳以上(未就園児を含む兄弟児)と保護者の方(定員15組)

♪たくさんのご参加お待ちしております♪



*参加希望の方はお手数ですが、下記の申込用紙にご記入の上、幼稚園まで提出をお願いいたします。(TEL・FAXでの受付も行っております。)

*締め切り~12月16日(月) 定員になり次第締め切らせていただきます。

*駐車場はありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

＜主催＞東筑紫短期大学保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
お問合せ先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 TEL 561-2133
FAX 571-0477

きりとり

*「からだを使って思いっきり遊ぼう」に参加します。

組 歳	ふりがな 名前	男 女	参加 保護者名
住所 〒		その他参加者名 (歳) (歳)	
TEL () -			
★学園や幼稚園ホームページ(一般公開)に写真を載せてもよろしいですか? ☐ をつけてください。 ☐ 載せて良い ☐ 載せないでほしい ★①に○をつけた方へ 大きくても良い・小さくても良い・両方良い		※お子さまの体のことについて、講師の先生に相談を希望される方はここに内容とともに記入してください。 ※介護のことが専門の先生です!介護のことについての質問や相談も受け付けています☆	

第4回 「からだを使って思いっきり遊ぼう」

東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）

専攻科教員

准教授 廣藤 智之 先生

講師 田中 文佳 先生

講師 伊藤 元子 先生

& 専攻科学生

実施 日時：12月23日（土）10時30分～11時30分

会場：東筑紫学園 講堂兼体育館



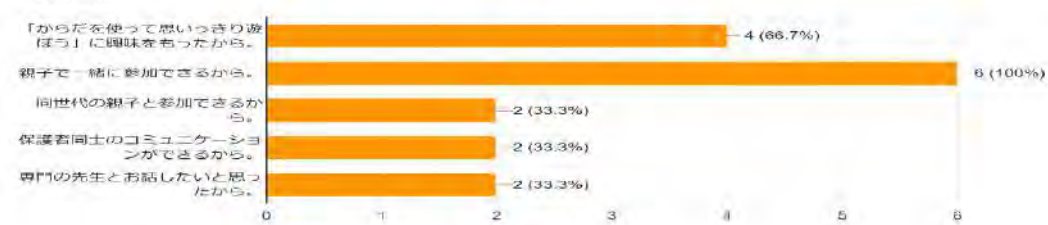
第4回 子育て・親育ちの会 「からだを使って思いっきり遊ぼう！」

アンケート 結果

参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください。（複数回答可）
6件の回答



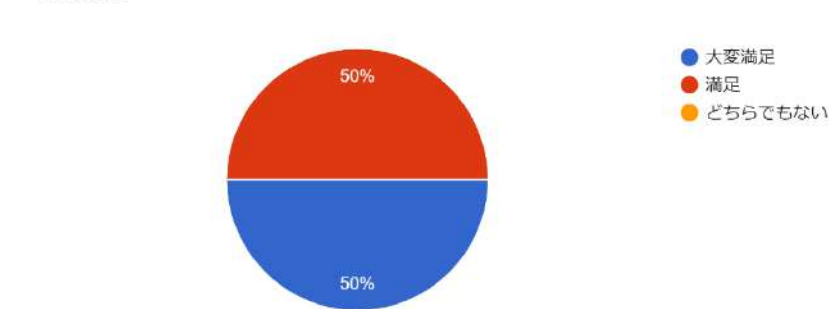
この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可
6件の回答



今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？
6件の回答



参加されていたいかがでしたか？
6件の回答



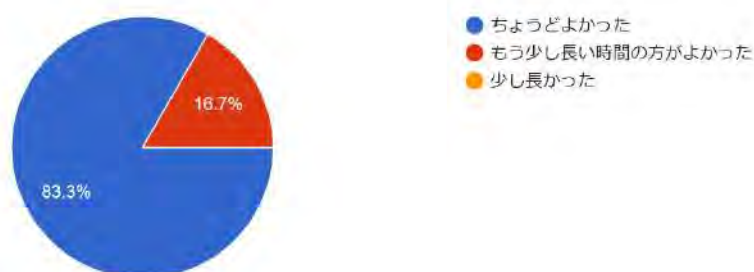
開催日時についてお尋ねします。今回の日程・時間帯はいかがでしたか？

6件の回答



今回は1時間程度の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

6件の回答



本日の感想をお聞かせください

- 貴重な体験ができました
- とても楽しく参加させて頂き、ありがとうございました。
- ドラッグストアなどでベビー用品の脇に介護用品などがあり、道具等は目にする機会がありましたが、高齢者の方の運動を体験する機会は今までありませんでした。遊具を見るだけでは、サイズが異なるくらいだと思っていましたが実際には子供が使用するものとは難しく似て非なるものだと感じました。学べる機会をいただきありがとうございました。
- 子どもたちの遊びやふれあい体験を通して より身近に福祉を感じる機会になりました。丁寧にご案内下さりありがとうございました。帰宅後も、楽しかったまた行きたい！と子どもが言っていました。クリスマスソングも楽しかったです^^ 楽しい時間をありがとうございました。
- 新聞紙を丸くして、足に通して行くという発想は初めてで楽しめました！ゲームを通して指先に集中したり、あらゆる神経を使って鍛えられそう！と思いました。『今日楽しかった！』と感想を子どもにもらったので良かったです。本日はありがとうございました。
- 今日はありがとうございました。子供も楽しめて、私自身のリフレッシュになりました。

今後どのような内容の会に参加したいですか？

- ボール遊びなど
- 今回のように、自分でも簡単に遊ぶ道具を作って協力して遊ぶゲームがあると、みんなで盛り上がれて良いと思います。
- 今回が初めてでしたので、違った内容で参加してみたいと思います。
- どんな内容でも、親子で一緒に参加できる機会があること自体が嬉しいです。
- 今回のように、体を動かすような内容が良いです。学生さんたちや先生達とも、もっと触れ合えたら嬉しいです。
- 今回のような子供が体を動かせるような、親子で楽しめるような会があれば参加したいです。

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？

- 子供が楽しんでいる時
- 子供の笑顔や一生懸命な表情を見た時
- 子供がリラックスして楽しんでいる姿を見たとき。
- 嬉しいことも、乗り越えようとちょっと頑張っていることも含めて、子どもと一緒に積み重ねていけることがありがたく楽しいなと思います。
- 小さい成功体験でも、親子で喜び合えて成長を感じるとき
- 兄弟で楽しそうに遊んでいる時

「第4回 子育て・親育ちの会」 振り返り

専攻科（介護福祉専攻）

准教授 廣藤 智之

- ・親子で一緒に参加できる企画として、皆さんが協力してアクティビティを楽しまれている様子がとても微笑ましく感じられました。また、専攻科の学生が子どもたちと笑顔で接する姿が非常に印象的でした。
- ・新聞紙を使って簡単に遊ぶ道具を作ったり、風船を使った高齢者向けのレクリエーションを行ったりしましたが、学生や先生方、保護者の皆さんが盛り上げて楽しんでくださいました。一方、身体を使ったゲームやアクティビティグッズを使った活動、クリスマスソングやプレゼント渡しなど、内容が盛りだくさんで少し時間に追われる感じもありました。
- ・学生たちからも「子どもたちと関わってとても嬉しかった」「もう少し一緒に遊びたかった」という声が聞かれ、保育学科卒の学生ならではの子ども達への接し方が素晴らしかったと感じました。
- ・初めての参加であったため、どのような企画が良いのかわからなかったのですが、認定こども園の先生方のご協力があり、企画段階からいろいろと相談させていただき、とても感謝しています。
- ・園で行われている‘活動（遊び）’を、高齢者レクにアレンジして行える
と、子ども達にも分かりやすく、また、学生も実習等でのレクリエーションに活かせると感じました。
学生がもう少し直接子どもたちと関われる時間があれば良かったのですが、
国家試験が近いため、準備段階で学生との打ち合わせや事前練習が不十分でした。
- ・介護や福祉の特色を出しながら、子どもたちと一緒に楽しい遊び（活動）を行うことが難しいと感じました。また、介護や福祉について、介護用品（福祉用具や自助具）などについて、もう少し保護者の方に説明できる時間があれば良かったと思います。



令和7年1月23日
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

第5回 子育て・親育ちの会をします 「親子で幼児体育～楽しく身体を動かそう」

日時 令和7年2月8日（土） 10:00～11:00

※時間が変更になりました。

会場 幼稚園4階 子育て支援室

講師 東筑紫短期大学 保育学科
助教 大橋 祐介先生

親子で楽しみながら、たくさん
身体を動かして楽しみましょう！
おうちでもできる運動遊びも
ご紹介します！



園児に体育あそびを
教えていただいている
先生です！

対象 園児とその兄弟児・保護者

※定員15組

※年少組～小学校低学年向けの内容となっています☆

内容 親子でできる運動あそび（新聞紙運びリレー・タッチあそび など）

☆持ってくる物…水筒・タオル・上靴

☆保護者の方も体を動かしますので、動きやすい服装でご参加ください。

☆配慮が必要な場合は備考欄にご記入ください。（例：履が外れやすい 等）

♪たくさんのご参加お待ちしております♪

*参加希望の方はお手数ですが、下記の申込用紙にご記入の上、幼稚園まで提出を
お願いいたします。（TEL・FAXでの受付も行っております。）

*締め切り～2月3日（月） 定員になり次第締め切らせていただきます。

*駐車場はありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

＜主催＞東筑紫短期大学保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
お問合せ先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 TEL 561-2133
FAX 571-0477

き り と り

*「親子で幼児体育～楽しく身体を動かそう」に参加します。

組 歳	ふりがな 名前	男 女	参加 保護者名
住所 〒		その他参加者名 (歳)	
TEL () -		(歳)	
★学園や幼稚園ホームページ（一般公開）に写真を 載せてもよろしいですか？ ○をつけてください。 ①載せて良い ②載せないでほしい			≪備考≫ ※お子さまの運動あそびや身体発達について、 講師の先生にお聞きしたいことがありましたら 内容とともに記入してください。
★①に○をつけた方へ 大きくても良い・小さければ良い・両方良い			

第5回 「親子で幼児体育～楽しく身体を動かそう」

東筑紫短期大学 保育学科

助教 大橋 祐介 先生

実施 日時：2月8日（土）10時～11時

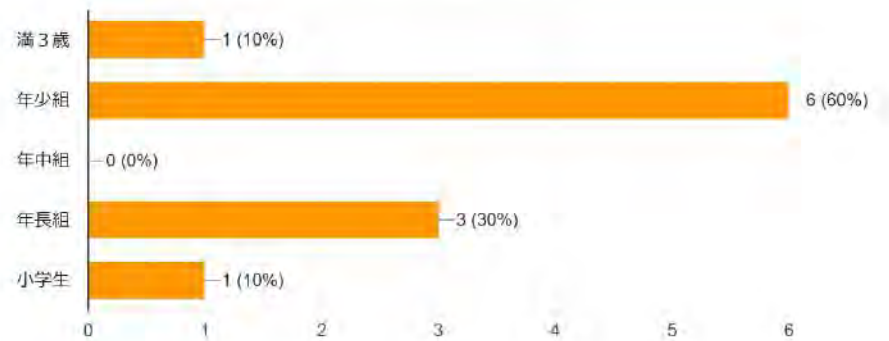
会場：認定こども園 東筑紫短期附属幼稚園 4階 子育て支援室



第5回 子育て・親育ちの会アンケート結果

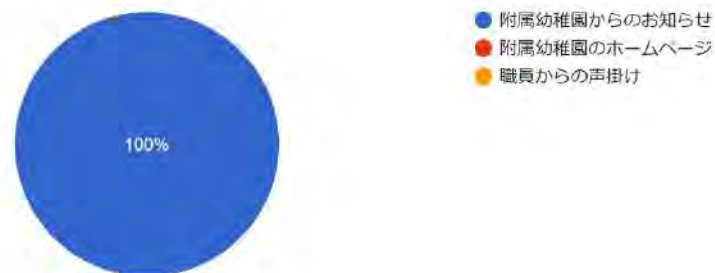
参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください。（複数回答可）

10 件の回答



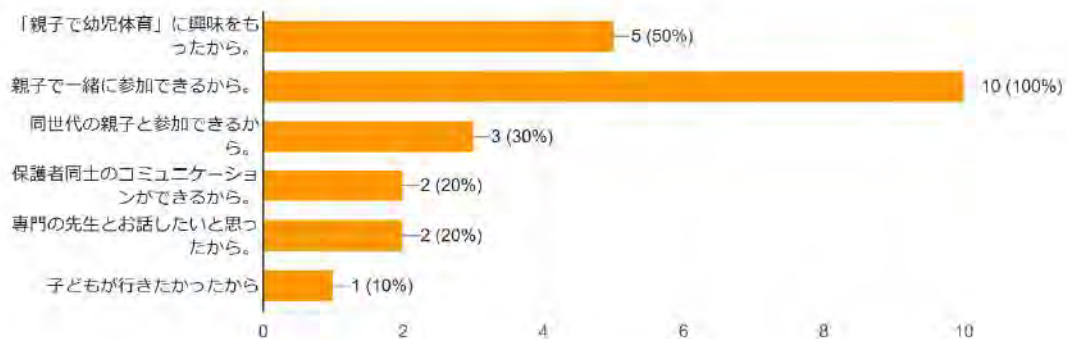
今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？

10 件の回答



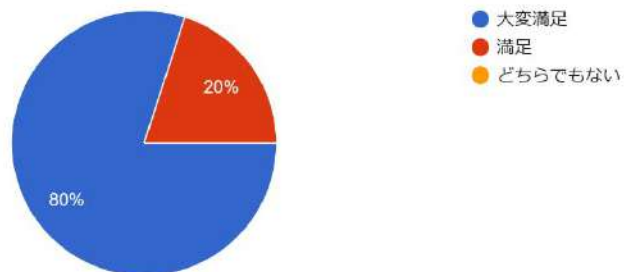
この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可

10 件の回答



参加されていたいかがでしたか？

10 件の回答



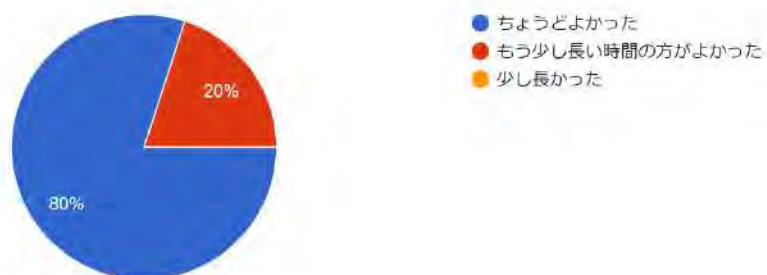
開催日時についてお尋ねします。今回の日程・時間帯はいかがでしたか？

10 件の回答



今回は1時間程度の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

10 件の回答



参加者の感想

- 本日は貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。
ボール遊びなど家庭でもすぐに取り入れて、親子で遊びたいと思います。
 - とても楽しかったです。普段お世話になっている大橋先生の体操教室を親子で楽しめたのがとても良かったです。
 - お忙しい中開催いただき、ありがとうございました。
 - 時間たっぷりに体を動かすことができ、親子ともども楽しかったです。
いつの間にこんな動きが出来るようになっていたんだ！という発見もありました。子どももとても楽しそうで、またぜひ参加したいです。
 - 親子で体を動かして良かったです。
 - 親子で、参加者みんなで参加できて楽しかったです！普段楽しんで体育あそびをしているのがわかりました！
 - 普段は関わりのない異年齢のお友だちや保護者の方とも、楽しい時間が過ごせて良かったです。ありがとうございました。
-
- 普段幼稚園でやっている体育遊びが、どのような感じなのか気になっていたの
で参加させて頂きました。
 - 親子での参加という事もあり、準備体操の中にも親子のふれあいを交えた項目
が入っていて、良かったなと思いました。ゲームに入ってから、親子やお友
達と協力しながら取り組める内容であり、少しずつ難易度が高くなっていく
ようなゲーム展開だったので、子供も楽しく参加出来ていました。ありがとう
ございました！
 - 子どもと一緒に運動するのって楽しいなあと改めて思いました。リレーでチー
ムを応援したり、フープで全員で協力したり、熱くなる時間もあって充実した
1 時間でした！参加して良かったです。ありがとうございました！

今後どのような内容の会に参加したいですか？

- 鯉のぼりなど行事物の製作
- 親子クッキング
- 親子で一緒に体を動かしたり遊んだりできるのが良いです。
- 子供と一緒に参加できれば内容は問わないです
- どんな内容でも嬉しいです。
- いつもありがとうございました。おかげさまで 3 年間、とっても楽しかったです。
- 体を動かしたり、制作活動等に参加したいです。
- 英語あそび等にも参加してみたいです
- 今回のように体を動かしたりする事や、製作活動など。
- 他園と比べるまでもなく、普段それぞれの経験があまりにも少ないので、わずかな機会ではありましたが参加させて頂いた次第です。
- わらべうた遊びの会などがあれば楽しそうです！
- 親子で料理、親子で運動
- 親子で料理（幼児でもできるようなもの）

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？

- 子供と一緒に笑えて楽しめる時
- 子供の成長が見れた時
- 子供が笑顔のときです
- 出来なかったことが少しずつ出来るようになって、本人が 1 つずつ積み重ねているなと感じた時です。
- 子供の成長を実感したとき。
- こどもと楽しい時間を過ごせた時
- 心や体の成長を感じられた時。ですので、幼稚園でしか見るこのできない成長を、気づいてもらえなかったり伝えてもらえなかったりしたのは、とても悲しいと思っています。
- しんどい時も勿論あるけれど、いつも楽しいです(^^)
- 子どもと一緒に一生懸命何かに取り組む時
- 新たな発見や、成長を感じたとき

子育て・親育ちの会「親子で幼児体育」を終えて

東筑紫短期大学保育学科

助教 大橋祐介

I. はじめに

九州栄養福祉大学、東筑紫短期大学保育学科、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園が地域交流活動として共同で行う「子育て・親育ちの会」。令和6年度の活動において、講師を担当させていただいた。活動テーマは「親子で幼児体育～楽しく身体を動かそう～」。2月に実施した本講義は、今年度の「子育て・親育ちの会」最後の活動として開講された。参加者は、満3歳から小学校低学年までの子ども17名と保護者の方々を合わせた約38名となった。

II. 活動内容について

活動時のプログラム作成にあたっては、以下の2点を意識した。1点目は、親子で楽しみながら身体活動ができること。2点目は、活動内容を段階的に展開することである。

まず、1点目の親子で楽しみながら身体活動ができることについて説明する。この点は、身体活動が各家庭で親子のコミュニケーションの一助になることを意図して設定した。具体的な取り組みとしては、特別な道具を使わずに、身体のみ、またはボール1つ、新聞紙数枚でできる内容を考案したことがあげられる。

次に、2点目の段階的な展開について説明する。この段階的な展開は、「講義全体」における段階と、「各種目」における段階に分けて考えられる。講義全体のプログラムは、親子でできる準備運動にはじまり、相手にボールを渡すペアワーク、新聞紙・ボールを用いたチーム対抗リレー、そして全員で協力するフープくぐりという流れであった。講義全体の展開として、「ペア」から「チーム」、「参加者全員」と、徐々に種目参加者を増やし、段階的にコミュニケーションを取れるよう設定した。そして、各種目内では難易度の段階設定をおこなった。例えば、まず身体のみでリレーをおこなう。その次に道具を使いながらリレーをおこなう。このように変化させることで、子どもは新たな条件に対して試行錯誤しながらより適切な方法を考え出す。さらに、試行錯誤を重ねる中で親子のコミュニケーションも自然に生まれていく。このように、講義全体と各種目で段階を設けることで、参加者間・親子間の積極的なコミュニケーションをうながした。

以上が、本講義において特に意識した2つの点である。今後は、この2点を基本としながら、親子で幼児体育というテーマをより活かすことのできるプログラム作成をおこなっていきたい。

Ⅲ. おわりに

最後に、「子育て・親育ちの会」の講師を経験して感じたことを述べたい。今回、自身としては、初めて親子での幼児体育を指導した。プログラムを作成する中で紆余曲折し、不安もありながらの開講となった。そのような状況のなかで、活動後に参加者や先生方からあたたかい言葉をいただき、安堵したことが思い出される。今回の講義は、幼児体育を指導していく上で非常に実りのある、有意義な経験となった。しかしながら、自身の中で課題も多く浮かび上がった。親子での活動を通して、身体活動の楽しさを感じてもらえるよう、引き続きプログラムの向上とより良い幼児体育指導を目指しながら邁進する。

謝辞

本講義の開講にあたり、ご尽力いただいた東筑紫短期大学保育学科の先生方、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の先生方、関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和6年11月19日
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

第1回 親子で作って遊ぼう！「あわてんぼうのクリスマス」

日 時 11月30日(土) 10時00分～11時45分
会 場 幼稚園2階 ゆうぎしつ (変更になりました)
9時50分頃に幼稚園におこしください☆
内 容 親子製作
講 師 東筑紫短期大学 保育学科
准教授 古田 千津子 先生
対 象 ☆満3歳児以上(未就園児を含む)・小学生(兄弟児)とその保護者
定員10組 ※小学生は4人まで、先着順となります。
服 装 遊び着
持ってくる物 ・水筒・上靴
※制服、帽子、通園バックは必要ありません。
♪たくさんのご参加をお待ちしています♪

一足早いクリスマスの
雰囲気を楽しみましょう♪



*参加希望の方は、11月22日(金)までに下記の申込み用紙を提出してください。

※電話・FAXでも受けています☆

※定員になりお断りする場合のみ、ご連絡いたします。

*駐車場はありませんので車での来園はご遠慮ください。



<主催>東筑紫短期大学保育学科・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

お問合せ・申し込み先 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園
TEL 561-2133 FAX 571-0477



きりとり

子育て・親育ちの会 ワークショップ第1回「親子で作って遊ぼう！」に参加します。

組 歳	お名前	男 女	参加 保護者名
住所 〒			その他参加者名
TEL ()			
★学園や幼稚園ホームページ(一般公開)に写真を載せてもよろしいですか? ☐ をつけてください。 ☐ 載せて良い ☐ 載せないでほしい ★①に○をつけた方へ 大きくても良い・小さくても良い・両方良い			※お子さまについて、古田先生に相談を希望される方はここに内容とともに記入してください。

第1回 ワークショップ

親子で作って遊ぼう！「あわてんぼうのサンタクロース」

☆彡 スノードーム作り

東筑紫短期大学 保育学科

准教授 吉田 千津子

実施 日時：11月30 日（土）10時～11時 45分

会場： 認定こども園 東筑紫短期附属幼稚園 2階 遊戯室

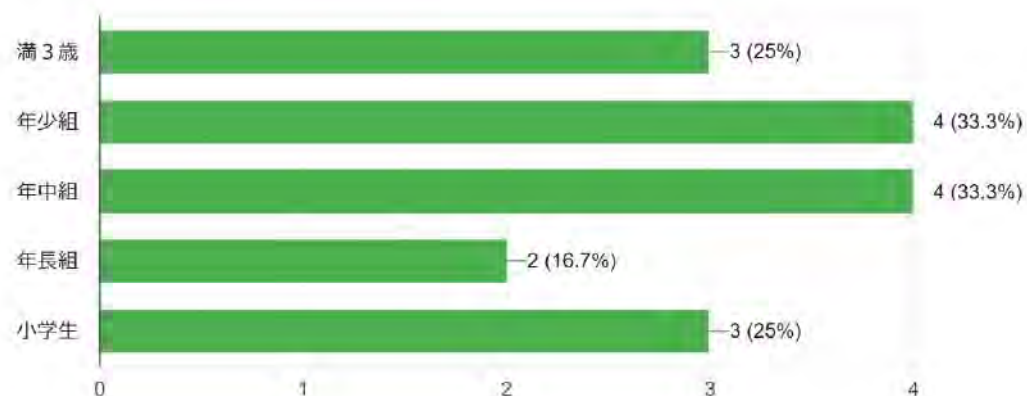


R6 子育て・親育ちの会 第1回ワークショップ アンケート結果

令和6年11月30日（土）

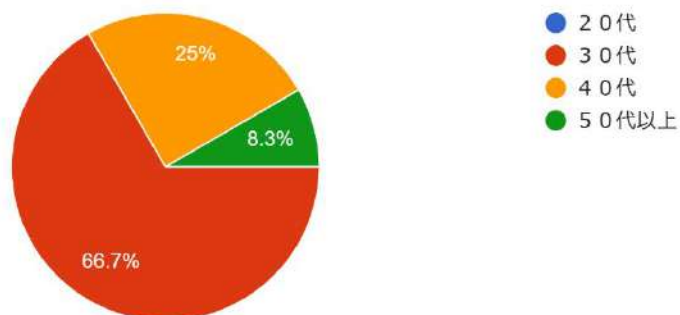
参加されたお子様の学年（年齢）を教えてください...お子様の年齢全てにチェックをしてください。）

12件の回答



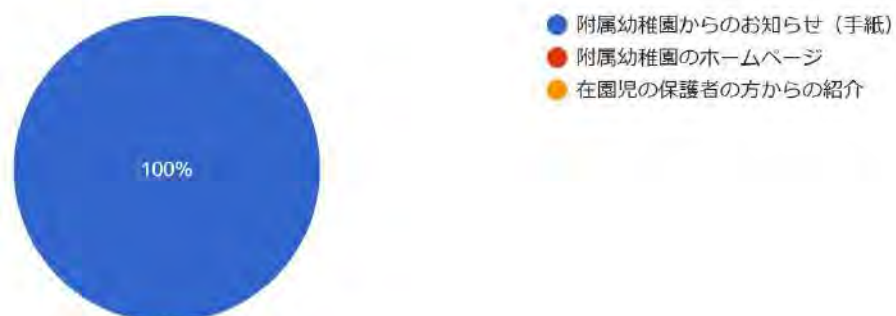
参加された保護者の方の年齢を教えてください。

12件の回答



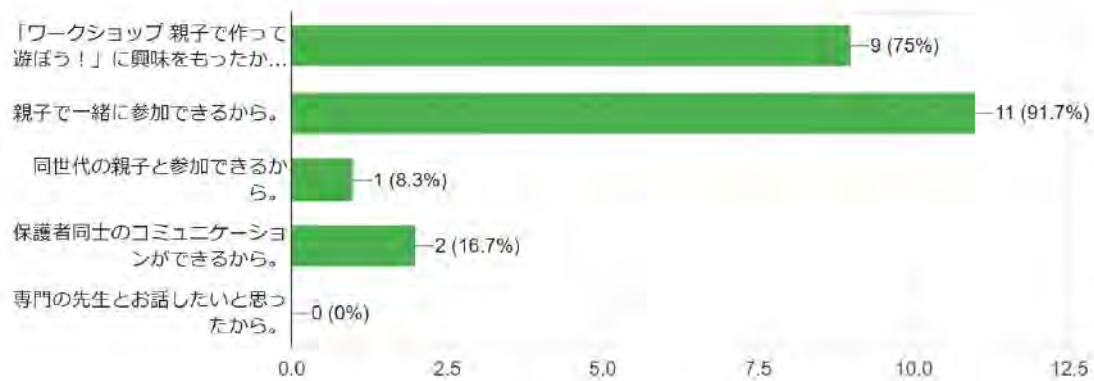
今回の「子育て支援事業」をどのような形で知ることができましたか？

12件の回答



この会に参加してみようと思われたのは？ ※複数回答可

12件の回答



参加されていたいかがでしたか？

12件の回答



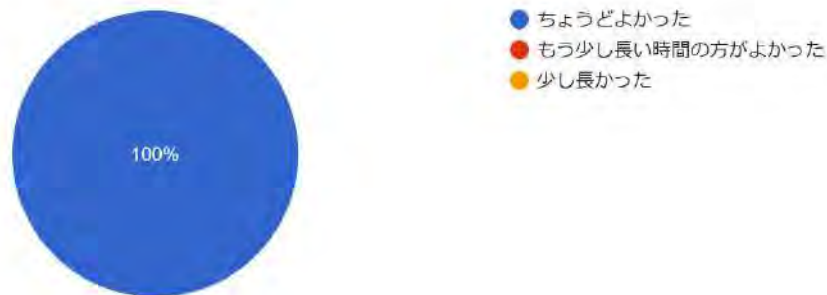
開催日時についてお尋ねします。今回の日程・時間帯はいかがでしたか？

12件の回答



今回、2 時間弱の講座を開催しましたが、長さはいかがでしたか？

12 件の回答



感想をお聞かせください 12 件の回答

- とても素敵なスノードームを楽しく作る事ができて良かったです。
ありがとうございました！
- 幼稚園での様子を見る機会があまりないので、こういう機会ありがたい。
- 家では出来ない事が出来て楽しい時間になりました。
- 大変満足でした。
- 企画から含めて用意大変だったろうなと感じました。いい思い出を作れました。 本日はありがとうございました。
- 本日はスノードームを作るという貴重な経験をさせていただきありがとうございました。 子供達の不器用ながら頑張ってる姿を見れるいい機会になりました。 今後もこのような企画をしていただきたいと思います。 ありがとうございました。
- 子どもたちが、真剣に工作する姿を見ることができ満足してます。洗濯のりを使ったものは家庭では敬遠しがちなので、ワークショップ題材の選択も良かったですと思います。
- 親子で作成ができて楽しかったです。
- スノードームづくりは、家ではなかなかできないので、体験できて良かったです。
- 様々な充実した材料を揃えていただいて、こんなに贅沢で良いのかなと思うくらい準備していただいてありがたかったです。満 3 歳の子どもでも、自分で選んだ物で作るということで満足感が得られて嬉しそうでした。ありがとうございました。企画ありがとうございました。
- 素敵な作品が出来ました。ありがとうございます！早速玄関に飾りました。
- 本日は貴重な息子との 2 人時間をありがとうございました。いろいろ子供

たちが好きそうな工夫がされていて、楽しんでいる様子をみられて嬉しかったです。

今後どのような内容の会に参加したいですか？12 件の回答

節分行事。料理。

運動等もあったら参加したいです。

今回みたいに一緒に何かを作る作業。

こういった会でも親子で参加出来ればありがたいです。

親と子供と一緒に楽しめる季節感のあるもの。

今回のように工作を通じて子どもたちと楽しめるワークショップ。

またこのような作成などしたいです！

制作のイベントにまた参加したいです。

今回と同様に、親子製作などに参加したいです。

体操やクッキングなどに参加してみたいです！

今回のような季節ごとのイベント嬉しいです。

子育てが楽しいと思える時はどんなときですか？12 件の回答

- ・子供と一緒に笑っているとき。
- ・笑ってる姿を見てる時。笑顔がみれたとき。
- ・一緒に遊んでる時。
- ・子供が喜んだり、楽しんだりしている時です。
- ・幼稚園や学校で習ったことを家で楽しそうに披露してくれる時。
- ・ひとりでできることが増えた瞬間。
- ・子供たちが喜んでいるところを見た時。
- ・家族みんなが笑顔でいるとき。笑っているところ（楽しそうにしているところ？）等が見られた時。
- ・子ども達が楽しそうに過ごしているとき。幸せを感じられるとき。
- ・大変な時もあるけれど、振り返ってみればいつだって楽しいです(^^) 子育ても過ぎてしまえば一瞬だと聞くので、日々を噛み締めながら過ごしていきたいと思います♪

令和6年度子育て・親育ちの会について

東筑紫短期大学 保育学科
子育て・親育ちの会コーディネーター
准教授 吉田 千津子

I. はじめに

令和6年度 第19回子育て支援事業計画の目的でも明記したが、子育ての会・親育ちの会『親子で触れ合おう！楽しもう！』は、歴史も古く令和6年度で、21年目を迎えた。

この支援事業の最大の特色は、九州栄養福祉大学～食物栄養学部食物栄養学科、リハビリテーション学部作業療法学科、東筑紫短期大学食物栄養学科、東筑紫短期大学保育学科、今年度初参加となった東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）の専門分野の教員による親子の遊びを展開する子育て支援事業である。

II. 活動内容について

南区キャンパスを代表して九州栄養福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科「親子で楽しもう！心と身体のリハビリ体操」では21名の参加。

東筑紫短期大学食物栄養学科親子で作ろう！サンドイッチ&シェイク de アイス」では24名参加。

九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科「規格外トマトで課題解決！親子で作るトマトカレー」では27名参加。

東筑紫短期大学専攻科（介護福祉専攻）として初めての参加となった「からだを使って思いっきり遊ぼう！」では21名参加。

東筑紫短期大学保育学科「親子で幼児体育 楽しく身体を動かそう！」34名参加。

昨年度より取り入れたワークショップ「親子で作って遊ぼう！」41名参加。

各回、それぞれ募集人数があり、どの会も募集人数に充分達している。

アンケート結果で示されているように満足度も高評価を得ている。

これは、やはり大学ならではのそれぞれ専門性をいかした活動内容とその他テーマのキャッチコピーやパワーポイントで画像を用いる等、各講師人の工夫とご指導の賜物だと考える。

少子化問題や幼児虐待、各家庭の孤立化等社会問題となっている昨今、この子育て・親育ちの会の活動は、子育て相談も掲げ、同年齢の子ども達との関わりも深める環境も整い、十分に地域社会での子育て支援として充分貢献できていると言えるだろう。

今後も各学部学科と連携を深め、専門分野を生かしたより良い活動内容を計画・実施していきたい。

建学の精神である筑紫の心を軸に先生方と共に保護者の方や子ども達の心に寄り添い、おごることなく、子育て支援に携わっていく所存である。

Ⅲ. おわりに

この子育て支援事業「子育て親育ちの会」では、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園の小島久須美園長先生をはじめ、総務副園長の富田智恵先生、コーディネーターでもある主幹教諭 豊田泉鑑先生・主任（保育園部）川田麻里先生、諸先生方のご協力があったからこそ活動である。この場をおかりして心より感謝申し上げます。

今後もますます連携を深め協力しあうことで子育て支援事業として地域貢献に努めていく所存です。

令和6年度 地域子育て支援拠点事業

「みんななかよし このゆびと～まれ！」について一考察

本田 恵美子

Reiwa 6 th fiscal year Regional child rearing support project
A consideration of “Everyone is Nakayoshi, this Yubi and Mare!”

Emiko Honda

1. はじめに

核家族化や地域のつながりの希薄化など、社会環境が変化する中で、子育て親子が日常的に気軽に交流できる近隣関係や、子ども同士が群れて遊べるような場を見出すことは難しくなっている。そのような中で、本園が家庭と地域をつなぐ幼児教育センター的な役割を担い、子育てをする保護者が安心して子育てができるようにしていきたいという小島園長の想いのもと、本年度も地域子育て支援事業「みんななかよし このゆびと～まれ！」に取り組んだ。地域の子育て家庭が安心して子育てができるように、保護者と一緒に子どもの様子や成長を共有し、保護者自身が子どもの育ちや子育ての方法を肯定的に捉えることができるような支援の在り方について以下のようにまとめ、一考察したいと思う。



2. 目的

本事業の目的は「地域の子ども（就学前）と保護者を対象に、子ども同士が関われる場・保護者の交流の場を設け、園児と一緒に遊んだり、子育て相談を受けたりして、地域の保護者が安心して子育てができるようにしていくこと」である。

3. コーディネーター

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

保育園部副園長

本田 恵美子

保育園部主任

川田 麻 里

4. 令和6年度 事業計画

	日付	時間	学年	内容
1	5月23日（木）	10：30～11：15	年長児 年中児	年長児・年中児と一緒にペンダント作りやダンスをして遊ぼう
2	6月7日（金）	10：30～11：15	年中児	年中児と一緒に体を動かしたり、体操をしたりして遊ぼう
3	7月9日（火）	10：30～11：15	年少児	年少児と一緒に水遊びをしよう
4	9月12日（火）	10：30～11：15	年中児	年中児と一緒に絵本の読み聞かせ
5	12月10日 （火）	11：15～12：15	年少児	幼稚園の給食試食体験 （園児と一緒に給食を食べる）
6	2月13日（木）	10：30～11：15	2歳児 満3歳児	2歳児・満3歳児と一緒に 「リトミック」をして遊ぼう

令和6年5月8日

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

令和6年度

みんななかよし このゆびと～まれ！！

ひがしちくしょうちえんで いっしょにあそぼう！



「幼稚園ってどんなところ？」「近所にお友達がなくて…」「子どもとどう関わって遊べばいいのかわからない。」等々、日々いろいろな思いをなさっている保護者のみなさま！

認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園に遊びにきませんか？

園児と一緒に楽しく遊びながら、ぜひ幼稚園の生活を体験してみてくださいね☆

たくさんの方のご参加を心よりお待ちしております。

《今年度の計画》 ※幼稚園行事によって日時が変更することがありますので、ご了承ください。

幼稚園のお友達と
一緒に遊びましょう★

	日にち	時 間
1	5月23日(木)	10:30～11:15
2	6月 7日(金)	10:30～11:15
3	7月 9日(火)	10:30～11:15
4	9月12日(木)	10:30～11:15
5	11月12日(火)	11:00～12:15 園児と一緒に給食を食べます
6	2月13日(木)	10:30～11:15



詳細につきましては、毎回幼稚園のホームページで開催日の10日前頃にご案内いたします。

※ご希望の方は、その都度お申し込みください。

《対 象》

2～3歳のお子様と保護者のみなさま

※定員は10～20組程度です。会によって前後しますのでご了承ください。

《その他》

終了後、子育て相談など受け付けます。(事前にご連絡をお願いいたします。)

5. 活動報告

第1回 「年長児・年中児と一緒にペンダント作りやダンスをして遊ぼう」

日時： 5月23日（木）10:30～11:15

対象： 2～3歳の未就園児と保護者・年長児・年中児

時間	活動内容
10:30	○受付 ○全体会（遊戯室）
10:45	○園児との交流（各クラス） ・室内あそび（ブロックやままごと） ・製作「花のペンダント作り」（シール貼り） ・ふれあい遊び「なかよしタッチ」 ・大型絵本の読み聞かせ
10:15	○終了



子どもや保護者の紹介



園児と一緒に製作「ペンダント作り」

【第1回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・お姉ちゃん（園児）が積極的に関わってくれたおかげで、途中から幼稚園の場所に慣れてくれたと思うので良かったです。
- ・同じくらいの年齢の子どもと一緒に遊べて楽しかったです。
- ・先生方が優しいのはもちろん、子どもたちもすごく優しくしてくれて嬉しかったです。最初は緊張していた娘でしたがとても楽しむことが出来ました。トイレにも連れて行ってくれ、娘が「お兄ちゃん優しい」とずっと言っています。
- ・お部屋に入ってから子どもたちが娘と遊んでくれて嬉しかったです。シールを貼ったり、踊ったり、紙芝居を見たりすごく楽しめました。娘も「お友達と遊べて楽しい」「お手手繋いだ」「先生ばいばいした」などたくさんのお話してくれました。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・親子でとても楽しく参加させて頂き、あっという間の時間でした。是非次回も申し込みたいと思っています。
- ・急に園児のクラスに混ざって大丈夫かなと不安に思いましたが、声をかけてくれたり見守ってくれたりし、子どもも楽しそうで行って良かったです。

第2回 「年中児と一緒に体を動かしたり、体操をしたりして遊ぼう」

日 時 : 6月7日(金) 10:30～11:15

対 象 : 2～3歳の未就園児と保護者・年中児

時間	活動内容
10:30	○受付 ○園児との交流(各クラス) ・室内あそび(ブロックやままごと) ・製作「かたつむりペンダント」(シール貼り)
10:45	○片付け
10:50	○名前呼び
10:55	○ZOOっと体操 ○ふれあい遊び「ひつつきもつつき」 ○大型絵本の読み聞かせ ・「のりものいろいろかくれんぼ」・「せんろはつづく」
11:15	○終了



友だちと一緒に「かたつむり」の製作



指先を上手に使って、シール貼り

【第2回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・子供がとても楽しそうに遊んでいたのが良かったです
- ・年長のお友達が率先して手を繋いで遊んでくれたのでとても楽しかったです。またよろしくお願いします。
- ・お部屋に入ってすぐに子どもたちが娘と遊んでくれて嬉しかったです。カタツムリにシールを貼ったり、踊ったり、紙芝居を見たりすごく楽しめました。娘もお友達と遊べて楽しい、お手手繋いだ、先生ばいばいしたなどたくさんのお話してくれました。今回も楽しかったです。ありがとうございました。

第3回 「年少児と一緒に水遊びをしよう」

日 時 : 7月9日(火) 10:15～11:15

対 象 : 2～3歳の未就園児と保護者・年少児

時間	活動内容
10:15	○受付 ○水遊びについての話 ・色水ができるよ！
10:30	○園児との交流（年少児と水遊び） ・水遊びの玩具を使って一緒に遊ぶ。
11:10	○水遊び終了 ○絵本の読み聞かせ ・手遊び「やさいのうた」 ・絵本「やさいのプールびらき」
11:15	○終了



水や泥にふれて、感触を楽しむ姿



友だちと一緒に遊ぶ子どもたち

【第3回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・先生方も園児さんも優しく遊んで下さったので、子どもも楽しそうでした。ありがとうございました
- ・『まだ遊ぶ』と大泣きをし、どうしても帰りがらなかったと言うとどの親子かすぐにわかるかと思いますが…ずっと楽しみにこの日を待っていて、また幼稚園に行きたいと言っております。先生方にご迷惑をお掛けいたしました、寄り添って頂きありがとうございました。
- ・子供はまだこういう場がなかなか慣れないけど回数をふやしていきたい
- ・水や泥で遊ぶ機会がなかなかないので、本人は少し恐る恐るでしたが楽しい時間が過ごせました！ありがとうございました。
- ・水遊びと色遊びができてとても喜んでいたので良かったです。
- ・前はクラスの教室での活動で、今回はお遊戯室や園庭で遊べて園全体の雰囲気がよくわかりました。
- ・とっても楽しかったです。家に帰ってからも先生にお水かけてもらったってすごく喜んでいました。色水もやりたい！って言ったので食紅買いに行きました。毎日暑くて公園に行けなかったので楽しい遊び方を教えていただけて感謝しています。前回遊んだお部屋の子どもさんに名前を呼ばれながら声をかけて貰えてすごく嬉しかったです。1ヶ月も前のことなのに覚えていてくれて声もかけてくれるなんて子どもってすごいですね…感動しました。ありがとうございました。

第4回 「年中児・年少児と一緒に絵本の読み聞かせをしよう」

日 時 : 9月12日(火) 10:30～11:15

対 象 : 2～3歳の未就園児と保護者・年中児・年少児

時間	活動内容
10:30	○受付 ○室内あそび ・積み木、ぬいぐるみ、絵本など
10:45	○トンボ製作（目の部分はカラーセロハン・丸シールを貼る） ○片付け・排泄
11:00	○集まり ・「おはよう」のうた
11:10	○歌あそび「おべんとバス」 ○大型絵本の読み聞かせ ○終了



自由あそび（ブロックなど）



大型絵本の読み聞かせ

【第4回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・園の様子がわかり、楽しい時間でした。ありがとうございました😊
- ・本人はあまり積極的にお兄さんお姉さんと遊ぶことはできなかったのですが、普段の幼稚園の雰囲気を知ることができていい経験になりました。
- ・楽しんでいました！また参加させていただきたいです。ありがとうございました！
- ・3歳児クラスの様子を見させて頂き、素直で元気な様子を拝見して、幼稚園に通わせた時のイメージが具体的につきました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・子供達が、積極的に遊びや読み聞かせに誘ってくれて本人も、とても楽しんでいるように思いました。
- ・お兄ちゃん、お姉ちゃんに遊んでもらって娘はとても楽しそうでした！絵本の読み聞かせやピアノ伴奏でお歌を歌うのも、やはり楽しくて仕方ないようでした。ありがとうございました！

第5回 「幼稚園の給食試食体験」

日時： 12月10日（火） 11:15～12:15

対象児： 2～3歳の未就園児と保護者・年少児

時間	活動内容
11:15	○受付 ○名前呼び ○大型絵本 ○給食準備（各クラスに分かれて準備） ・メニューや食事の栄養についての話
11:25	○消毒・配膳
11:35	○給食開始 ・食事の挨拶
12:15	○終了予定

《献立》

- ・ ご飯・筑前煮・納豆
- ・ えのきとわかめの味噌汁
- ・ マカロニのきな粉和え



友だちと一緒に、はじめて納豆や筑前煮を食べてみようとしている姿



フォークを使って自分で食べる姿

【第5回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・ 幼稚園の雰囲気や、流れを少しでも子どもに感じてもらえて良かった。来年からの幼稚園生活に母としては心配な部分も多いですが、可愛い年少さんを見て、我が子もこんな風に成長していったらいいなと思いました。
- ・ 子供たちが楽しそうに食事する姿が見られて、嬉しい気持ちになりました。参加した本人もリラックスして楽しく食事できたようです。
- ・ 入園前にお友達と一緒に給食を食べることができて、とても良かったです。給食初体験、とても楽しんでいました！
- ・ 親子でたのしく体験できました。娘もとてもたのしかったです。
- ・ 今回は給食をお兄ちゃんお姉ちゃん達と初めて昼ご飯を食べている様子を見ながらの食べ物だったし、机を押したり引いたりして皆さんにご迷惑をかけましたが、納豆は食べてくれたし、少しお味噌汁も飲んでくれて良かったと思います。先生方も手助けしてくださりその時は食べてくれて嬉しかったです。味付けも勉強させられました。今回とても親にとって、子供にとって刺激になりありがとうございました。いい機会を与えてくれて本当に感謝します。

第6回 「2歳児・満3歳児と一緒に『リトミック』をして遊ぼう」

日 時 : 2月13日(火) 10:30～11:15

対象児 : 2～3歳の未就園児と保護者・2歳児・満3歳児

時間	活動内容
10:30	○受付 ○手あそび「トントントン」 ○朝の集まり・出席確認
10:45	○リトミック (♪=歌) 【お散歩】 ・ピアノのリズムに合わせて歩く→走る→ゆっくり歩く 【動物に変身】 ・5種類の動物になりきって遊ぶ 【むすんでひらいて】 ・飛行機→カエル→おひさま→むすんでひらいて♪ ～キラキラバージョン～ 【ふれあいあそび】 ・てをつなごう♪→せんせいとおともだち♪→パンダうさぎこあら♪
11:05	○紙芝居「ごきげんのわるいコックさん」
11:15	○さようなら



保護者や友だちと一緒にリトミックあそび

【第6回 地域子育て支援 保護者アンケート】 ※保護者アンケート原文をそのまま添付

- ・一学年上の子達の様子を見ることができて、来年度もも組に入園することを踏まえ温かな気持ちになりました。
- ・時間帯を11時迄にしてもらえたらより嬉しいです
- ・沢山の歳の近いお友達と触れ合えて楽しそうでした！また参加したいです。
- ・幼稚園の子ども達と一緒に遊べて楽しそうでした。ありがとうございました！

6. 実践を通して（受け入れクラスの担任より）

利用者（保護者）の様子について	・園児に声をかけられ、遊びに入っていく我が子の様子を見て喜ばれていた。 ・保護者に園の雰囲気を知っていただく機会にもなり、その後の入園にもつながる部分があった。 ・園生活にふれることのできる良い機会なのではないかと思う。 ・集団生活（特に友だち関係）での不安や心配事を保育教諭に相談することで、園生活への安心感につながっていることが感じられた。 ・子どもの発達について気になることは、個別に相談対応を行うことで、家庭での子育ての参考となっているようだった。
利用者（子ども）の様子について	・保護者の方を気にしながらも、はじめて見るであろう玩具で遊んだり、一緒に踊ったりと基本的には楽しそうである。 ・最初は保護者の傍で不安そうな表情をする子どももいたが、次第に園児の中に入っていき遊びを楽しむ姿が見られた。 ・異年齢の友だちと関わり遊ぶ中で、子ども同士が自然に遊び方や簡単なルールを知ることができていた。 ・給食体験では、納豆や筑前煮など、普段家庭では食べない食材にもチャレンジしていたようである。食べることに少し時間を要していたので、次回はメニューを検討することで、より楽しい給食体験となるのではないかと思う。
園児の様子について	・園児は、遊びに来た小さな子どもに、どの学年も自ら優しく声をかけたり、玩具を持って行ったりして思いやりの気持ちを育む機会となっていた。（年長組） ・毎回、最後には「また あそぼうね」と声をかけ、子どもたちも楽しい時間を過ごし、満足感を感じていた。（年長組） ・ペンダント作りなどを通して、作り方を教えてあげたり、完成すると褒めてあげたりする子どもの姿が見られた。（年中組） ・子どもたちなりに、園の中でのお兄さん・お姉さんとして、玩具の使い方を教えたり、玩具を持ってきたりなどのお世話をする様子が見られた。（年中組） ・未就園児と関わることで、お兄さん・お姉さんの意識をもち積極的に関わっていた。（年中組） ・『このゆび と～まれ』を通して、子どもたちが自分たちよりも歳が小さい子どもにどう接するとよいか考えるいい機会になっていると思う。（年少組） ・利用者側だけでなく、クラスの子どもたちにとっても、自分より小さい友だちとの関わり方を知ることができる良い機会だなと感じた。（年少組）

7. 考察

コロナ禍で自粛をしていた「このゆび と~まれ!」を昨年度から再開し、地域の保護者や子どもに利用していただいている。

第1回目は、はじめて利用する親子が多く、保護者も子どもも緊張している様子が感じられたので、受け入れ担当教諭は笑顔で挨拶を交わしながら丁寧に園内を案内するようにしていった。保育室では、園児が玩具で好きな遊びをしていると、自ら遊びに加わる子もいれば、保護者の傍に座ってその様子を眺めている子どももいたが、園児が「一緒に遊ぼう」と誘いかけることで、緊張しながらも少しずつ遊び始める姿があった。また、親子のコミュニケーションやスキンシップを図りながら、家庭でも子どもと一緒にできる「ふれあい遊び」や「大型絵本の読み聞かせ」を行うと、保護者も徐々にリラックスしながら子どもとの関わりを楽しんでいた。

第2回目以降は、前回の経験からか、子どもも保護者も少しずつ安心感や期待感をもつようになり、回を重ねる度に和やかな雰囲気となっていった。子どもの発達に沿った玩具や遊びの提供（製作等）を行うことで、子どもは夢中になって遊び、保護者はその遊びを実際に見守る中で子どもの発達を理解する場にもなり、「毎日暑くて公園に行けなかったので楽しい『水での遊び方』を教えていただけて感謝しています」「幼稚園の年少さんの姿を見て、我が子もこんな風に成長していったほしいと感じました」（保護者アンケートより）等、子どもの遊ばせ方や育児の気づきへとつながっている。また、保護者の中には「園での友だち関係（特に、コロナ禍で子ども同士の関わりや遊ぶ経験が少なかったことへの心配）」や「食事の偏食」など、家庭での子どものことを気かけ、保育教諭に相談し子どもの育ちを知ること、保護者自身が子育てに安心感をもつことができたことが会話や事後アンケートからも分かった。

以上のことから、今年度の地域子育て支援事業では、子どもの遊びや園児との交流を楽しむだけでなく、保護者も「園での友だちとの関わり」や「家庭での子どもとの遊び方」を知ることができる場となっている。また、園児は小さな年齢の子どもたちと関わることで、遊びに誘いかけたり、世話をしたりして、子どもなりの優しさや思いやりの気持ちが育まれていることを担任は感じている。次年度も地域の保護者の声を聞きながら子育て家庭のニーズを把握し、より子どもが安心して遊ぶことができる場や子どもの発達に合わせた遊びの提供していくことで、地域の子育て家庭に効果的な支援を行うことができるよう計画を進めていきたい。

8. まとめ

子育ては母親が中心に担っていた時代から、父親の育児、祖父母による孫育ても増えるなど、子育ても多様化しているが、母親の担う部分がまだまだ多いのが日本の現状である。また、子育て家庭が抱える課題も、子どもの発達や障がい、育児不安、経済的困窮、離婚など、複雑化しており、支援の対象となる状況は拡大している。星氏らは、親が最初の困りごとを口にする敷居の低い「地域子育て支援拠点事業」の役割は大きく、支援を求めている人に気付く「高度で繊細な感度や専門的技量」をもつ職員が重要であること注1)を述べている。また、近年は、妊娠期から子育て期の切れ目のない支援体制の構築も推奨され、地域の子育て家庭のニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築が拠点事業にも強く求められている。地域子育て支援拠点における包括的支援については、松崎氏らが、多職種が同じ拠点内に存在することで、異なる分野の相談にすぐつながれることは強みとなる。多職種が仲間であることで職員自身の安心感や心強さにつながり、その安心感はまだ一歩進んだ寄り添う支援につながる。さらに、多職種チームの安心感は利用者にも安心安全な場となる

注2) と述べている。

今後、実践活動の振り返りを通して、地域の子育て家庭が求めるニーズを把握し、子育て家庭に必要な情報提供を検討し、資質向上につながる要因理解と認識を高めながら、地域課題に応じた事業内容を実施していきたいと考える。一方、保護者が子どもの成長や子育ての喜びを感じると共に、親としての自身の成長にも気付くことができるよう、子どもと保護者をつないでいくことも忘れてはならないと思う。そうした子育て支援事業を実施するにあたって、東筑紫学園は、充実した子育て環境が整っている。短大と大学に子育て・栄養・身体機能、それぞれの専門の先生方がおり、この令和7年4月にはこども教育学部も開設し、子どもの育ちを支えていくために必要な環境がますます充実していく。それぞれを活用し、専門的な「つながり」による包括的支援によって、地域の子育て家庭に最も身近で、最前線の支援を提供していくことができればと考える。

尚、この事業を通しての、子どもの気持ちの変容や保護者の安心感の詳細については、東筑紫短期大学研究記要 第55号 地域とつながる子育て支援―地域子育て支援事業からの考察―本田 恵美子に記載している。

謝 意

子育て支援事業の実施とその考察に際し、小島園長先生をはじめ、先生方にお力添えをいただきましたことを深く感謝申し上げます。また、アンケート等の資料提供のご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

引用文献

注1) 星三和子・塩崎美穂・向井美穂・上垣内伸子(2014)

地域子育て支援拠点における困難や悩みをもつ親の支援に関する考察

―支援職の「語り」の分析― 保育学研究, 第52巻(3) 332-343

注2) 松崎恭子・高橋学(2024) 地域子育て支援拠点における多職種チームの包括的支援

―多職種の語りによる10年間の協働学習の分析から― 保育学研究, 第62巻(3) 347-358

参考文献

・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

・第3章 子育て支援の実態と課題―社会福祉法人 日本保育協会―

學術論文

脳科学からみた幼児教育方法のマトリックス分析

—脳の4領域が生み出す4人格仮説から考える—

本多みどり

Abstract : The early childhood education methods were analyzed based on the personality hypothesis proposed by American neuroscientist Jill Bolte Taylor.

I 脳の4領域が生み出す主要な4人格

アメリカの脳神経科学者ジル・ボルト・テイラー (Jill Bolte Taylor, 1959-) は、37歳のときに脳卒中を経験したことによって、脳を内側から研究した数少ない脳科学者になった。その内容は有名なプレゼンテーション番組 TED で報告され (2008 年)、専門家以外の人々からも大きな関心を寄せられた (『*My Stroke of Insight*¹」3000 万ビュー以上獲得)。発作時にジルは左脳のほとんどの機能を失い、右脳でしか認知に関与できない状況に陥った。その際に現れた人格は、右脳の思考部分が生み出したと思われる「宗教家のよ

¹ ジル・ボルト・テイラー著、竹内薫訳『奇跡の脳—脳科学者の脳が壊れたとき—』

新潮社、2012 年。

うに宇宙全体とつながる感覚を持つ人格」、そして、右脳の感情部分が生み出したと思われる「子どものように現在に生き共感力に満ちた人格」であった。その時、ジルは宇宙全体の巨大なエネルギーを感じ、それとつながる一つのエネルギー体としての自分を実感して大いなる幸福感に満たされたという。

8年間のリハビリを経て回復したジルは、脳の主要4領域（左思考脳、左感情脳、右思考脳・右感情脳）が生み出す各人格の違いを、以下のように4つに類型化した²。ただし、以下の人格のナンバリングは本稿著者によるものである。

A. 左脳（論理的・分析的）

① 考える左脳 論理重視の真面目キャラ（人格1）

- ・細部にこだわり、目の前の仕事に集中する。
- ・ルール、秩序、予測可能性を好む。
- ・批判的思考と計画に関係する。

² ジルの仮説については、個人の体験に依拠しすぎているという批判がある。ただし、ジルのような体験がレアであるため、今後、同様の経験の情報を継続的に収集すること、ジル仮説の演繹的研究による研究の深化等が待たれる。また、性格の特徴を特定の部位に帰する仮説は、科学的理解を誤らせうるという批判もある。

② 感じる左脳 自己防衛に必死な心配性キャラ（人格 2）

- ・ 怒り、恐怖、その他の保護感情に根ざす。
- ・ 自己防衛的で心配性。
- ・ 脅威を認識し反応することで、個人の安全を守る。

【脳卒中で左脳が機能ダウンした時】怒りや恐怖が完全になくなった³

B. 右脳（創造的・総合的）

③ 考える右脳 宗教的感覚をもつキャラ（人格 3）

- ・ 広範でスピリチュアル、外界全体との一体感をもつ。
- ・ 相互のつながりとマインドフルネス⁴を重視。

³ ジル・ボルト・テイラー著、竹内薫訳『ホール・ブレイン—心が軽くなる「脳」の動かし方—』NHK 出版、2022 年、59 頁。

⁴ 基本的な態度として、今この瞬間の気づきを大切にし、価値判断をせず思考・感情を受け容れ、経験を改変しようとせず、特定の思考・感情・期待などを手放し、すべてが初めての経験であるかのように体験する、などが挙げられる。いくつかの学会が存在し、1960 年代頃に誕生し現在まで研究を続けているものもある。科学的信頼性が高い学会も少なくない（American Mindfulness Research Association など）。同学会によれば、マインドフルネスをテーマにした論文数は、2020 年代になると 1980 年代の 1000

- ・ 平和的で超越的な意識を表す。

④ 感じる右脳 今を楽しむ感覚的で創造的なキャラ（人格4）

- ・ 感情的、共感的で、今この瞬間につながっている（マインドフルネス）。
- ・ 感覚や感情を通して人生を経験する。
- ・ 創造性と自発性を体現する。

人格の形成過程、自我を生み出すシステムの科学的解明は、生きている人間を実験対象とするには様々な困難を伴うため、十分には進んでいない。ただし、中世に信じられていたような「自我の座」が脳内の一部分に存在するという、いわゆる、ホムンクルス（小人⁵）仮説は否定されており、脳内のネットワークが自我を形成しているという仮説が優勢である。また、人格を生み出すシステムの基盤としては、おおざっぱながら時系列で蓄えられた記憶が機能していると考えられる。脳内ネットワークの解明があまり進んでいないこと、また、ネットワークという観点から考察することは、その複雑さゆえに示唆を得難いと予

倍以上を記録している。

⁵ ラテン語 Homunculus に由来。錬金術師パラケルススが試験管の中で生成に成功したとされる人造人間。当時の科学力では実現不可能であったろうが、ほぼ完成したとされる現代の人工子宮の画像は、パラケルススの夢の実現に見え、不気味さとともに神の領域を侵犯したのではないかという罪の意識を惹起する。

測して、本論考ではジルの大胆な脳理論に立脚点を置き、脳の主要 4 領域が生み出す 4 人格 を 4 つの象限マトリックスとして表現し、各象限における理論内容を提示してみたい。

本稿は脳神経学の研究成果すべてを渉猟した上で詳細に研究したものではないが、今後の教育実践へのヒントとして一定の価値を持つと考えられる。

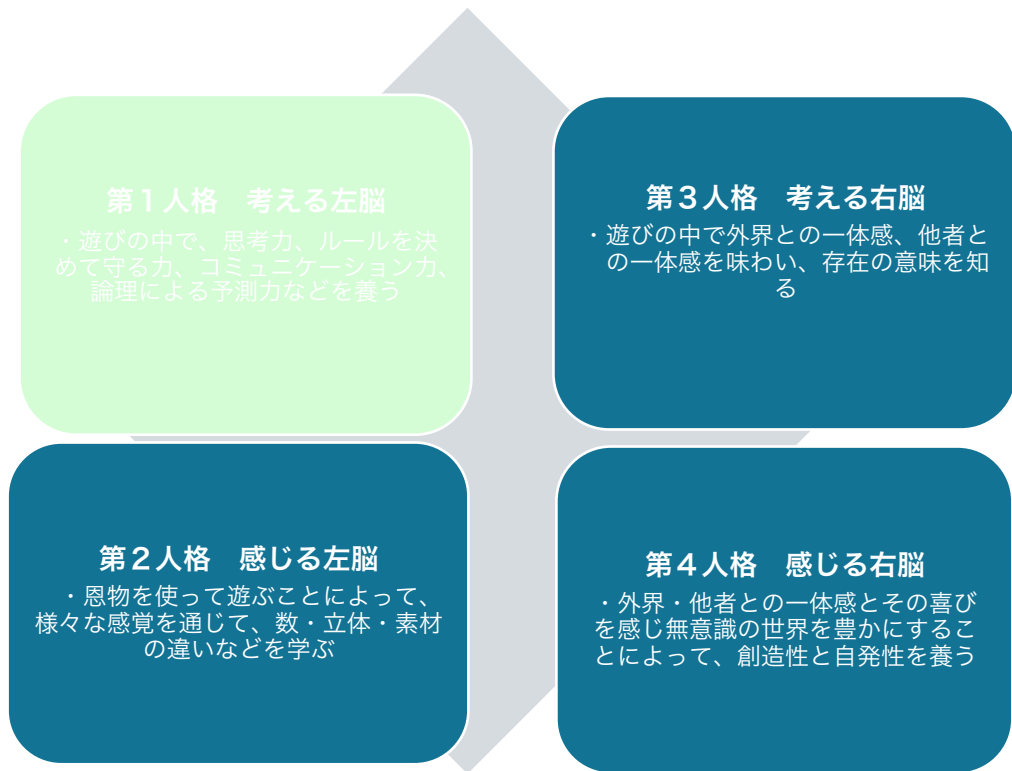
Ⅱ 幼児教育方法論のマトリックス

以下、主要な幼児教育方法を 5 つ選び、上記の 4 人格の発達という観点から分析したい。

本稿では、A. フレーベル教育法（遊び中心主義の教育）、B. モンテッソーリ教育法、C. シュタイナーの教育法、D. レッジョ・エミリア・アプローチ、E. 森のようちえん（自然をベースにした教育）を選ぶ。

A、B、C は、いずれも 19 世紀生まれの著名な教育思想・実践家によって主張・実践され、歴史のふるいにつけられつつ高い社会的評価を得てきたもの、そして、D と E は一般の人々の間から自然発生的に登場し、一定の社会的評価を得て現代社会に広がり始めているものである。

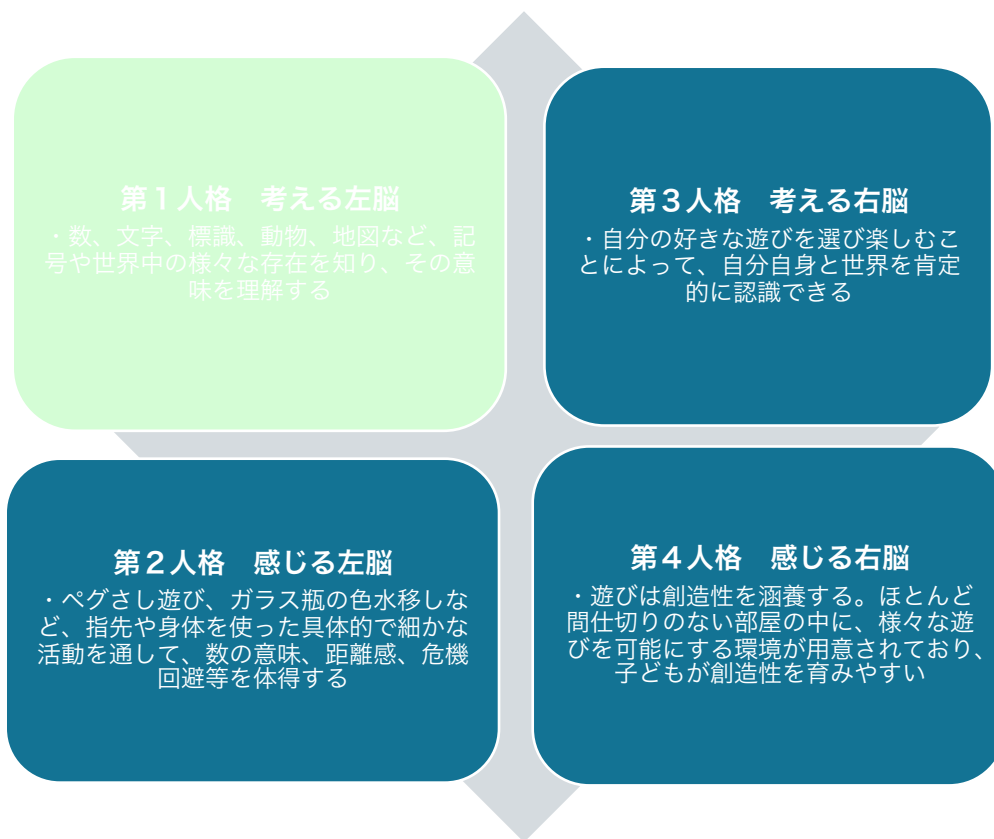
A. フレーベル教育法（遊び中心主義の教育）



【特徴】

- ・遊びによって、4人格をまんべんなく育成できる。
- ・恩物⁶は、主に触覚と視覚を通じて、4つの人格全体の育成に役立つことがわかる。

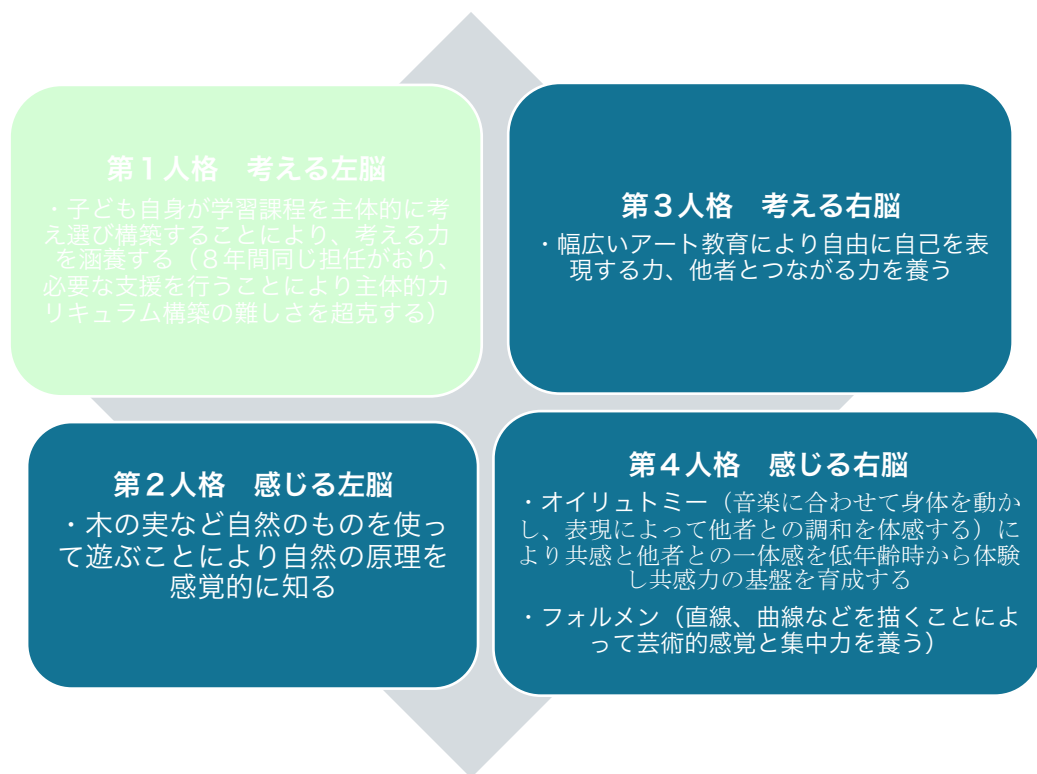
⁶ フレーベルが作成した玩具（10種類）と奨励した遊び（10種類）から成る。



B. モンテッソーリ教育法

【特徴】

- ・フレーベルと同じく、遊びを学びと捉える教育法であるため、フレーベル教育と同様に4領域全体をまんべんなく育成できるが、特に左脳系の育成の優秀性が際立っているように見える。有名な政治家、起業家など、個性と自信にあふれた論理的思考力の高い人物が、モンテッソーリ幼稚園で学んだ経験があるのは偶然の産物ではないと思われる。



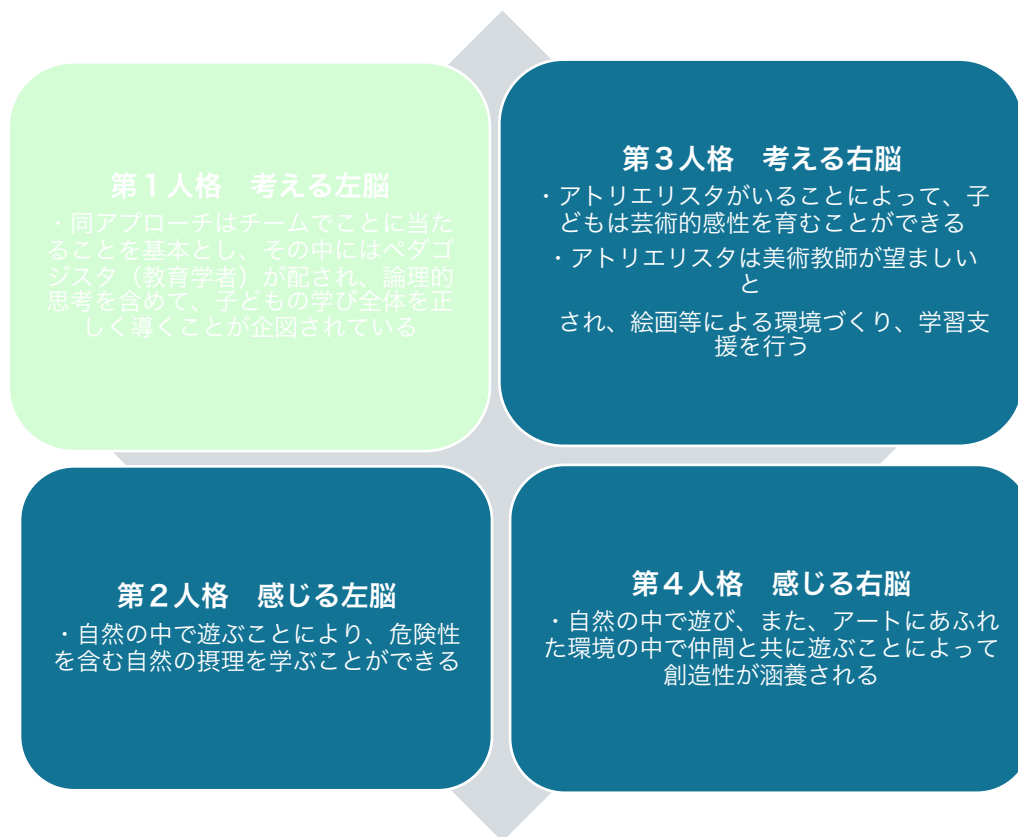
C. シュタイナーの教育法

【特徴】

- ・教育は「アート」として観念されている。
- ・アートの本質は、天上界と地上界をつなぐものとされる。
- ・アートは、建築・彫刻・絵画・音楽・詩と演劇・オイリュトミー・社会芸術（社会改革

につながる) の 7 つに分類されている。

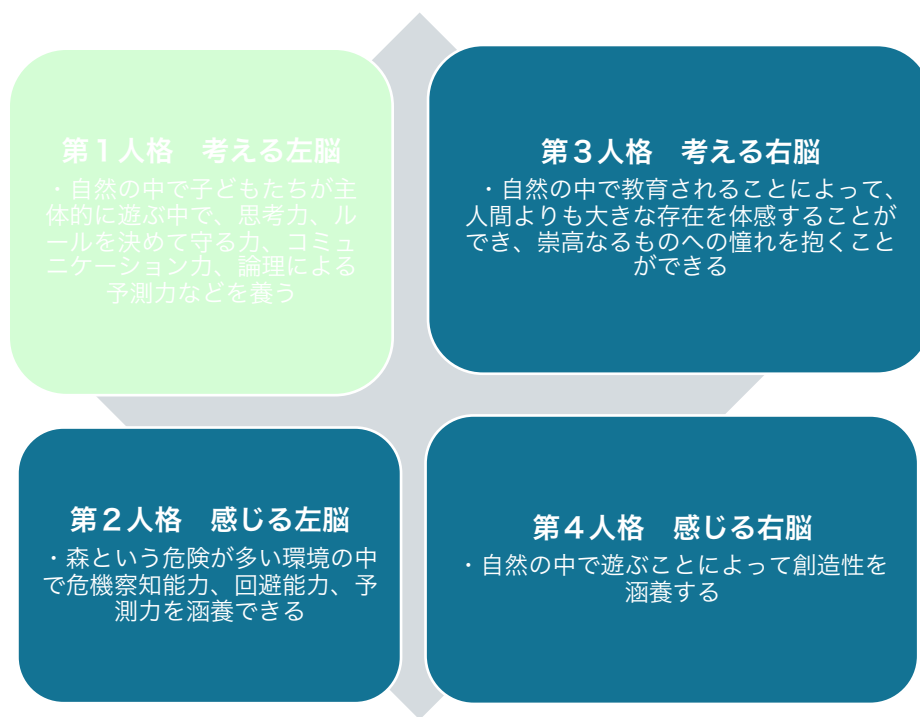
- ・ 国家が提供する近代学校教育のカリキュラムは、第 1 人格の育成に偏りがちである。それとは対照的にシュタイナーの場合は、右脳系、および、無意識領域の第 2 ～第 4 人格を含めた全体を養おうとする意図に満ちており、そのしかけが充実している。しかも、児童が主体的にその課程を構築することによって、第 2 ～第 4 人格の形成が強固なものになるように企図されている。
- ・ 近代学校教育の欠点（記号操作能力の教育偏重）を克服するための改革案として大いに意味があろう。本教育を受けた人々が社会に出てどのような感想を持ったか、困難はなかったか等、アウトプット分析が待たれる。



D. レッジョ・エミリア・アプローチ

【特徴】

- ・イタリアのレッジョ・エミリア（北イタリア）で自然発生的に誕生した。市民たちが、戦後に打ち捨てられた戦車を鉄くずとして売って少しずつ玩具を購入していったのが始まりという。
- ・導入する各地域の特性、住民の特性に合わせてアプローチを設計していく必要がある。
- ・子どもは一人ひとりが既に可能性を秘めていると考え、その可能性の自由な発露を支援しようとする。ペダゴジスタ、アトリエリスタを配置することによって、より豊かな学びと子どもの発達を担保しようとする。



E. 森のようちえん

【特徴】

- ・自然が主要な学習環境であるために、近代学校の弱点、すなわち、第1人格以外の育成

が難しい、という難点を克服しやすい。

学力向上の取組に効果のあった学校の事例考察

前公立中学校長 岡井 正義

Case studies of schools that were effective in improving academic ability

Former public junior high school principal Masayoshi Okai

要旨

学力向上の取組に効果のあった学校の事例を検証すると、その要因として、お茶の水女子大学「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」－富士原 紀絵「第 7 章 高い成果を上げている学校 事例研究－」¹⁾で指摘された 6 点、「① 家庭学習の指導、② 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視、③ 小中連携教育の推進、異学年交流の重視、④ 言語に関する授業規律や学習規律の徹底、⑤ 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用、⑥ 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果」は、すべて該当することが明らかになった。

中でも「② 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視」が重要であり、そのための学校の組織文化を活かしたカリキュラム・マネジメントの必要性を主張した。

キーワード

学力向上、高い効果を上げている学校の共通の特徴 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視、カリキュラム・マネジメント

1. 問題の所在

現在、学力向上のための様々な取組が、国や自治体レベルで行われ、学校現場でも、その施策を受け、あるいは独自に学力向上の取組を行っている。

こうした中、学力向上に効果があった自治体や学校の取組が注目されているが、学力向上の取組や対策は様々あり、仮に、成果の上がった学校と同じ様な取組を行ったとしても、必ずしも学力向上に結びつくとは限らない。

本稿では、学力向上の取組に効果のあった学校の事例を分析することで、学力向上に共通する要因が明らかになり、継続的な学力向上に寄与できるのではないかと考えた。

2. 調査の方法

(1)効果のあった取組事例の定義

本稿では、「学力向上の取組に効果のあった事例」として、全国学力・学習状況調査（以下全国調査）において、教科の平均正答率が経年で上昇した学校を取りあげた。

理由は、学力向上に効果のあった証左として、比較しやすく、基準が明確であること、各学校では、全国調査に関する実施要領で示された「調査の目的」である「児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」ため、自校の平均正答率と県や国の平均正答率との比較は欠かせないからである。

なお、教育的には、いわゆる「目に見えない学力」、テストなどで測りづらい「非認知能力」の重要性は言うまでも無いが、ここでは取りあげないものとする。

(2) 比較分析の指標

本稿では、お茶の水女子大学「平成 25 年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」－富士原 紀絵「第 7 章 高い成果を上げている学校 事例研究－」（以下 2013 富士原調査）に示された「高い効果を上げている学校の共通の特徴」を活用し、事例校の取組を考察する。

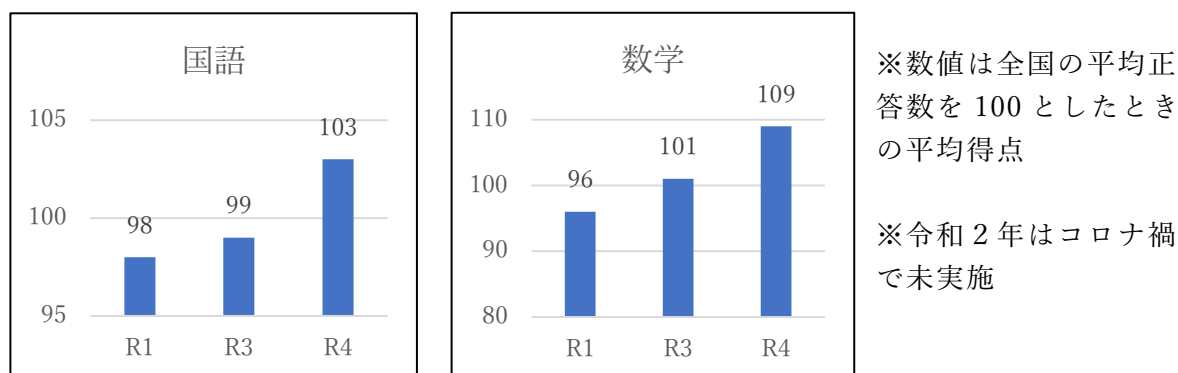
2013 富士原調査では、小学校 4 校、中学校 3 校を調査対象校として抽出し、学校の特徴や取り組みについて、学校への訪問調査と管轄市教育委員会のインタビュー調査をもとに分析を行い、「高い効果を上げている学校の共通の特徴」として、以下の 6 点を挙げている。

- ① 家庭学習の指導
- ② 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視
- ③ 小中連携教育の推進、異学年交流の重視
- ④ 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- ⑤ 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用
- ⑥ 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果

この特徴は、2013 富士原調査によると「学校の状況は地域の特徴や児童生徒の実態に応じて当然のことながら、相違点が多かった」が「その一方で、複数の学校に共通する特徴も見いだされた」知見であり、比較分析の指標としては妥当であると考える。

(3)事例校の基本情報

上記の基準にしたがって、令和元年～令和 4 年にかけて、全国調査の結果が【図 1】の示すように上昇した A 県 B 市立 C 中学校の事例を取りあげ、B 市教育委員会や C 中学校より提供していただいた諸資料を基に分析を行った。



【図 1：C 中学校の平均正答率の推移】

①教職員数 21 名

校長・教頭・主幹教諭 2・教諭 14・講師 1 養護教諭 1
事務職員 1

②全校生徒数 176（3年生：76名）

R1～R4 の生徒数ほぼ横ばいだが、中長期的には減少傾向にある。

【表 1：職員構成・生徒数（令和 4 年）】

3. 学力向上の取組の概要

B 市における学力の現状は、全国調査や A 県学力調査などの結果から、ここ数年、小・中学校とも全国平均や県平均を上回るなど良好である。

しかし、学校や教科、年度によってばらつきがあり、児童生徒の質問紙調査では、家庭での学習時間が短く、ゲームやスマホなどのメディアの視聴時間が多いことが顕著な課題として挙げられる。

そこで、B 市教育委員会では、家庭学習の方法について、共通の資料『B 市 9 年ナビ』を作成し、市内全小・中学校が共通して活用し、家庭と連携しながら、学習習慣の定着を図っている

また、多くの小・中学校が小規模校であり、学力向上に向けた取組が、個々の教師の力量に左右され、組織的、計画的な取組になっていないことも懸念される。

そこで、C 中学校では、「学力向上に向けたカリキュラム・マネジメントの工夫・改善」をテーマに、日々行われている取組を捉え直し、教育活動の質を高めていくために、組織的、計画的に協働して取り組み、学力向上を図ってきた。

(1)校内研修を核とした C P D C A サイクル

教務担当主幹教諭と研究主任、学力向上コーディネーター（以下学力向上 CN）が連携して、【図 2】に示すように、学力向上プランを活用し、校内研修を核に授業改善を通じた C P D C A サイクルを計画した。

C：3 月～4 月

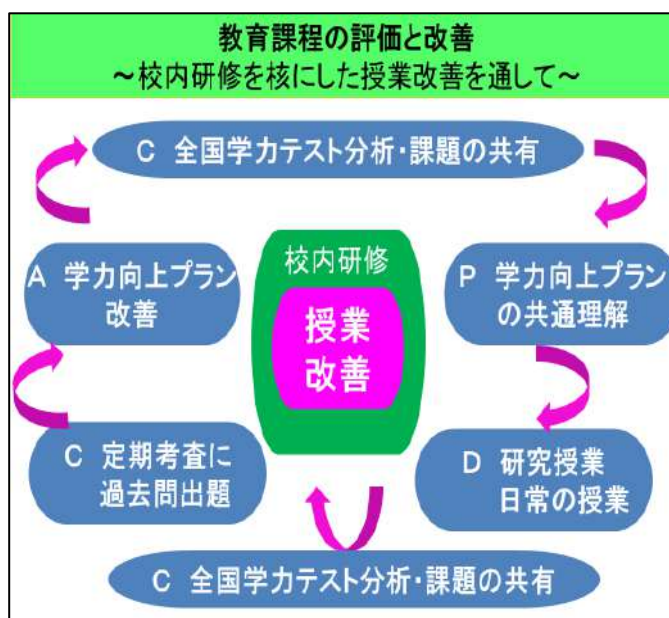
年度当初の校内研修会で、教務担当主幹教諭が昨年度の全国調査の分析結果と課題を説明し、全教職員で共有する。

P：4 月

学力向上 CN が本年度の学力向上プランを説明して、学力向上に向けた具体的な取組（「自分の考えを、根拠を明確にしてく活動」を意識した書授業づくり）を全教職員で共通理解を図る。

D：4 月～7 月

全教科で学力向上プランに基づいた授業を行うとともに、各学期に 1 回学年代表が研究授業を実施し、協議会を行う。



【図 2：校内研修を核とした C P D C A サイクル】

C：8月

夏季休業中に教務担当主幹教諭による本年度の全国調査の分析をもとに、成果と課題を全教職員で共有する。

a：全教職員で中間総括を行い、各教科の教育課程の進捗状況を確認する。

d：定期考査に全国や県の学力テストや公立高校の過去の入試問題を5教科で出題して、生徒の学力定着の状況を定期的に把握する。

A：2月

全教職員で年間総括を行い、学力向上 CN が学力向上プランを修正して改善し、来年度の教育課程へとつなげる。

このように教務担当主幹教諭と研究主任、学力向上 CN が中心となって校内研修会を開き、それぞれの校務分掌を機能させた C P D C A サイクルを全教職員で組織的、計画的に取り組む計画を立てた。

(2)家庭と連携した自主学主ノート

前述の「B市9年ナビ」は、小学校1年生～4年生版と小学校5年生～中学校3年生版の義務教育前期と後期ごとに、家庭学習の目的や各学年の家庭学習の目安時間、家庭学習のポイント、おすすめの自主学習ノートの例などを、市内小中学校の教頭と主幹教諭が中心となって編集したものである。

また、児童生徒の自主学習の道標になると共に保護者に家庭学習の協力を促すものとなっている。

C中学校では、学力向上プランを活用した C P D C A サイクルの取組と併せて、「B市9年ナビ」をさらに具現化した学校オリジナルの自主学習ノート「C中 Up Note (略称 CU ノート)」の取組で学力基盤づくりを行っている。

この取組を開始する前、C中学校では、生徒の学力の実態を分析する際、各教科の正答率には一時的に関心は向くが、それも国語や数学の教科担任にとどまっていた。そのため、具体的な学力向上の方法は、各教科担任の裁量や経験に任せられことが多く、全教師が共通に取り組むべきものを設定することが難しい傾向にあった。

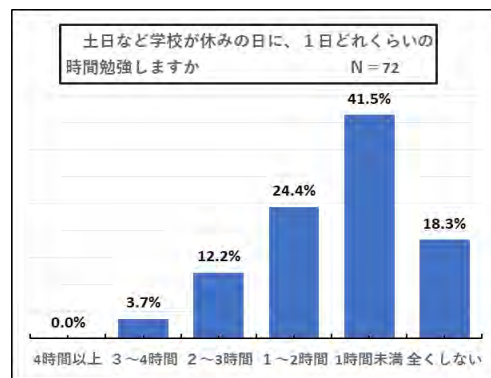
そこで、当時の管理職が自校の生徒質問紙調査を詳細に分析し、C中学校の生徒は、家庭学習の時間がかなり短いことを明らかにした上で(図2参照)、「家庭での学習習慣の定着」が不可欠であると結論づけ、その一点に絞った取組として CU ノートを始めた経緯がある。

取組の開始にあたって、同様の取組を行っている先進校に数名の職員を派遣し、当時話題になっていた「S ノート」を参考に、CU ノートを始めたという。

取組の当初は「S ノート」をほぼそのまま活用したが、後述するように、全教職員で意見交換をし、毎年改良を重ね、現在に至っている。

① オリエンテーションの実施

4月の初めに、全校生徒を対象にプレゼンを使って「CU ノート」の目的や意義を学力向上 CN が説明する機会を設けている。



【図2：休日の学習時間※平成28年】

その折に、長期目標（将来の夢）そして夢の実現のために、中期目標（今年の目標）、短期目標（今学期の目標、2か月の目標）を決めて取り組むことを確認し、自主学習の必要性と目的をもって取り組もうとする意欲を高めることをねらいとしている。

② 「協働」と「徹底」

CU ノートは、その日の授業内容のまとめ欄【写真1】（左ページ）と家庭での自主学習の欄【写真2】（右ページ）の見開き1ページを毎朝、担任に提出するようになっている。

()月()日()曜日

「振り返り シート」 ～毎日の授業を大切にしよう～

1時間目 科目名	めあて	2時間目 科目名	めあて
3時間目 科目名	めあて	4時間目 科目名	めあて
5時間目 科目名	めあて	6時間目 科目名	めあて

※ 当てはまる数字を○で囲む。(4:とても 3:大体 2:あまり 1:全然)

先生の話を友達の発表を聞くことができた 4 - 3 - 2 - 1	自分の考えを文章で書くことができた 4 - 3 - 2 - 1
自分の意見を発表することができた 4 - 3 - 2 - 1	交流を通して、考えを深めることができた 4 - 3 - 2 - 1

先生・家庭から

休 週 日 月 年

【写真1】授業内容のまとめ欄

【生活ノート】

時	教科名	内容・宿題・準備物など	今日の生活の記録
1			
2			
3			
4			
5			
6			
連絡			

【自主ノート】今日の自主学習の目標『 』 できる(わかる)ようにする。』

今日の自主学習振り返って1つ○をつけましょう。 開始時間 : ~ : 終了 合計(毎朝CU提出者) 時間 分

A: 今日の目標以上にできた B: 今日の目標どおりにできた C: 今日の目標どおりにできなかった

【写真2】家庭での自主学習欄

毎日提出することを生徒に徹底させるために、担任だけでなく、副任・養護教諭も含め、全教職員が協働して、毎朝点検し、コメントを書いている。不十分な生徒は、昼休みに1つの教室に集めて教師の指導のもと、やり直しをさせている。

可否の判断に差が生じないように、複数の教師で合議したり、教科担任と相談したりするなど、全教職員が徹底して取り組んでいる。

③ 学力向上プランとの連動

CU ノートには、1日の授業を振り返り、【写真3】のような自己評価欄も設けている。

※ 当てはまる数字を○で囲む。

先生の話を友達の発表を聞くことができた とても 大体 あまり 全然 4 - 3 - 2 - 1	自分の考えを文章で書くことができた とても 大体 あまり 全然 4 - 3 - 2 - 1
自分の意見を発表することができた とても 大体 あまり 全然 4 - 3 - 2 - 1	分からないことを質問することができた とても 大体 あまり 全然 4 - 3 - 2 - 1

【写真3：自己評価欄】

その中に「自分の考えを文章で書くことができたか」と「自分の意見を発表することができたか」があり、生徒の自己評価を見ることで、全教職員に学力向上プランの「自分の考えを、根拠を明確にして書く活動」を意識した授業づくりを意識させている。

このように、CUノートは教師にとって、学力向上プランの進捗状況を毎日評価でき、授業改善への意識づけにもなっている。

④ 不断の見直し

CUノートの取組では学力向上 CN などに指示して、生徒の実態などに合わせて効果的な取組となるように、年に2回ほど全教職員で意見交換を行っている。

これまでも「罫線だけでなく、ドットがあった方が、図表などを書きやすいのでは？」「授業の振り返りの記述が教科によってかなり差がみられる。授業者がめあてとまとめを明示していないのではないか？」などの意見を取り入れ、毎年、様式や取組の方法を見直すとともに、日々の授業改善にも活かすようにしている。

⑤ 家庭との連携

CUノートには、今日の自主学習の目標を自分で立ててから取り組み、【写真4】のように学習時間の記入と目標に対する評価を3段階で行うようにさせている。

【自学ノート】今日の自学自習の目標『計算ミスのないように17/7をいねいに解く！』
今日の自学を振り返って1つOをつけましょう。 家庭での開始時間 18:00 ~ 19:10 終了 A: 今日の目標以上にできた B: 今日の目標どおりにできた C: 今日の目標どおりにできなかった

【写真4：自主学習の目標と自己評価】

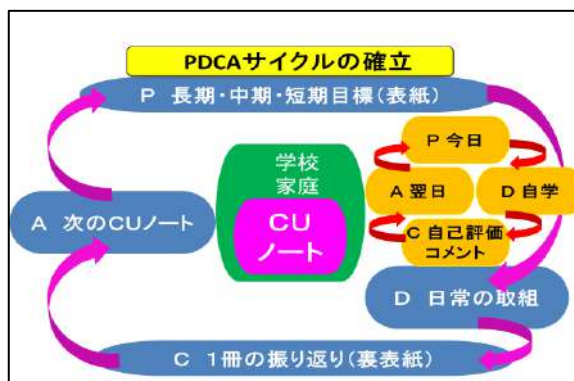
さらに、家庭からも励ましのコメントを書いてもらう欄を設け、【写真5】のように家庭と教師が学習内容の評価などを文章で書き、家庭と学校が連携して、子どもの努力の過程を認め、励ますようにしている。

先生・家庭から	色んな体験を経験から出て 新鮮な気持ちで生活出来ている この気持ちを持ち続けよう。継続はいいことだから。
1冊の質が2冊 goodです。がんばってますね。	
先生・家庭から	色んなこと good ですね。 今日何も勉強したのが分かります。

【写真5：家庭や教師のコメント】

また、一冊が完成すると最後に、最初に立てた目標をもとに1冊を振り返り、教師と保護がコメントを記入して、生徒に返している。

以上の取組が【図4】のように生徒の1日の小さなPDCAサイクルと1冊（約2ヶ月）の大きなPDCAサイクルを確立することに寄与しているといえよう。



【図4：PDCAサイクルの確立】

(3)小・中連携

校区内の4小学校も学力向上に向けて、自主学習ノートの取組を充実させることを校長同士で申し合わせ、CUノートの様式に近づけた各小学校オリジナルの自主学習ノートを作成して高学年で実施している。小中間の接続がスムーズにいくように、小中間で密に連絡を取り合い、小中連携して取り組んでいる。

4. 2013 富士原調査「高い効果を上げている学校の共通の特徴」との比較

(1) 家庭学習の指導

「学習習慣の定着」は、2013 富士原調査では「小学校は4校すべて、中学校ではLowest SESの学校に位置する学校において、家庭学習の指導に力を入れていた」とされており、C中学校の取組と共通する要素である。

C中学校が行ったCUノートを「毎日提出することを生徒に徹底させるために、担任だけでなく、副任・養護教諭等の全教職員が協働して、毎朝点検し、コメントを書いている」点についていても、2013 富士原調査は「自主学習（名称は自学、自勉、テ勉、宅勉一人勉強と学校により呼び名は様々）を子ども任せにさせっぱなしにしておくのではなく、学校への提出を義務づけ、教師が日々手を入れて目を通し子どもに返却するという作業を繰り返す」と、C中学校と同様な取組が行なわれており、「この指導が子どもにとって大きな励みになり、家庭学習規律の定着化を促進させる上での鍵となっているに違いない」と指摘している。

この取組に関して、懸念されることとして、2013 富士原調査は「教師の負担」を挙げているが、「ある小学校では担任教師の手が回らないと管理職が判断した場合、複数の管理職が代わりにコメントを書いたり、学級全体で共有した自主勉強ノートを児童で回覧し、それぞれの保護者にチェックをさせている」など、独自の工夫を報告しているが、この点においてもC中学校でも「担任だけでなく、副任・養護教諭も含め、全教職員が協働して、毎朝点検し、コメントを書いている」など、同様の負担軽減が行われている。

(2) 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視

2013 富士原調査は「今回調査した全学校が、管理職を含め、同僚との関係が良好であった」と述べ、「家庭学習に担任教師の手が回らないと判断した場合に管理職が代替する小学校は同僚性の良好さを伺わせるエピソードの一つである」と分析している。

①家庭学習の指導に関する考察、ですでに触れたが、C中学校では、全教職員が協働して取り組む体制ができており、やはり同僚性の良好さは共通している。

次に2013 富士原調査では「今回の調査では、とりわけ中学校において意図的に同僚性を育むための取り組み」として「研究授業」を挙げている。

「小学校では全教員が参加することは珍しいことでは無いが、教科担任の中学校が全教員参加でそれを行うのは難しい」と指摘した上で、「今回の訪問した2つの中学校では、校内で教科を超えて授業を「見せ合い」、「教え合う」ことが企図されていた。ここでは授業面での力量形成を図る中で、同僚性が育まれてゆくものと期待されている」ことを取りあげている。

この点に関しては、C中学校では「全教科で学力向上プランに基づいた授業（自分の考えを、根拠を明確にして書く活動）を意識した授業づくり）を行うとともに、各学期に1回学年代表が研究授業を実施し、協議会」が行われている。

さらに、C 中学校では、キャリア教育にも力を入れ、「夢授業」「私のおすすめレシピなど、家庭科、道徳科、特別活動や総合的な学習の時間においても（「自分の考えを、根拠を明確にして書く活動」を意識した授業づくり）を行っている。

こうした活動が生徒の自尊感情を高め、学力向上の意欲につながっているのではないかと考察するが、章を改めて記述することとしたい。

なお、2013 富士原調査は「管理職（校長や教頭、あるいはミドルリーダーとしての教務主任、教務部長）が適切で適度なリーダーシップを発揮していた。決して高圧的ではなく、教師の過度な負担にならないように配慮しつつ、一方では明確なビジョンや方針を示し理解を図りつつ同僚性の構築に取り組んでいる」と分析をしている。

C 中学校においても、管理職が自校の生徒質問紙調査を詳細に分析し、課題を明示し、「家庭での学習習慣の定着」一点に絞った取組として CU ノートを始めたり、教務担当主幹教諭と研究主任、学力向上 CN が連携して、学力向上プランのマネジメントを行ったり、全教職員で意見交換を行い、毎年、様式や取組の方法を見直したりするなど、「管理職のリーダーシップ」「負担軽減」「明確なビジョンや方針決定」など共通した要素が見られた。

(3) 小中連携教育の推進、異学年交流の重視

B 市では先に述べたように「〇〇 9 年ナビ」を作成し家庭学習の目的や各学年の家庭学習の目安時間、家庭学習のポイント、おすすめの自主学習ノートなどを、市内小中学校で共通して取り組んでいる。

さらに、その取組を活かして C 中学校区では、校区内の 4 小学校も学力向上に向けて、自主学習ノートの取組を充実させることを校長同士で申し合わせ、小中間の接続がスムーズにいくように、CU ノートの様式に近づけた各小学校オリジナルの自主学習ノートを作成して高学年で開始するなど、中学校での取組を小学校に広げていることが明らかになった。

2013 富士原調査では、対照的に、小学校での家庭学習を中学校が継承している例を挙げているが、どちらの取組も小中連携教育の成果であることに変わりはないであろう。

なお、異学年交流の重視については、2013 富士原調査は「小学校の教科外の諸領域や生活場面で積極的に縦割り活動を導入し、上級生が下級生の面倒をよく見るという特徴を上げ、異学年交流の意味は大きいと捉えているようである」と述べているが、C 中学校では、異学年交流にあたる取組は見られない。

(4) 言語に関する授業規律や学習規律の徹底

2013 富士原調査では『書くこと』と『話すこと』の能力を高めることに重点を置いた学習指導形態」を取っている学校が多く、「国語という一教科に依存するのでは無いことはもちろん、全教科、そして教科外といった教育課程全般で『話すこと』や『書くこと』に力を入れていることが共通である」としている。

C 中学校でも「自分の考えを、根拠を明確にして書く活動を意識した授業づくり」を行い、その上で、CU ノートの自己評価欄に「自分の考えを文章で書くことができたか」と「自分の意見を発表することができたか」などを位置づけ、教師の意識づけを行うなど、いずれも言語に関する指導に力を入れていることがわかる。

(5) 都道府県、市レベルの学力・学習調査の積極的な活用

2013 富士原調査では「7 校全てが都道府県レベルや市レベルで実施される学力調査（CRT や都道府県独自で開発した調査）や学校独自で行う CRT の結果を、調査した全ての学校が学力向上の基礎資料として有効に取り入れている」と指摘している。

これに対して B 市でも都道府県レベルの学力調査はもちろん、9 学年分の CRT を予算化し、その結果を分析して各学校に提供するなど、学力向上の基礎資料としている。

(6) 基礎・基本の定着の重視と少人数指導、少人数学級の効果

2013 富士原調査では「始業前や昼休み、帰宅前に 10 数分のドリルを行う時間を設定したり、宿題にもドリルを課すという学校が 7 校全てに共通していた」「今回調査した 7 校全てが強調していたのが TT や少人数指導のよさ、であった。Lowest SES に属する小学校と中学校で、算数・数学や英語で TT を採用していた学校はいずれも、能力の個別化に応じるのは TT と断言した」とある、

C 中学校でも、始業前の 20 分間を C タイムとして帯時間として設定して、5 教科をローテーションで取り組んで基礎・基本の定着をはかるなど、同様の取組が行われており、数学科、理科においては TT が行われており、数学科においては習熟度別学習を実施していることが分かった。

4. 全体考察とまとめ

これまで述べてきたように、2013 富士原調査「高い効果を上げている学校の特徴」は本稿で取りあげた C 中学校でもほぼ一致することが確かめられた。

2013 富士原調査で指摘された 6 つの要素は、学力向上に効果のあった学校・地域では共通しているものと考えてよいであろう。

ただ、同様の取組は、多少の違いはあっても各地の学校でも行われているであろうことは推測される。そういう状況の中で、効果に差がでる要素は何か、本稿のまとめとして、6 つの要素のうち、最も重要なものは何かを考察してみたい。

どの要素も学力向上には欠かせないと思うが、強いて挙げるなら、「② 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視」ではなかろうかと推察する。

2013 富士原調査と本稿の C 中学校の取組とを比較検討する上で、最も類似した要素がこの点であった。

前章で述べたが、2013 富士原調査では「同僚性の良好さ」を挙げ、そのための「管理職のリーダーシップ」も併せてと分析されているが、C 中学校でも同僚性の良好さは共通していた。

ここで着目したいのは、2013 富士原調査において

「中学校において意図的に同僚性を育むための取り組み」として「研究授業」を挙げ、「小学校では全教員が参加することは珍しいことでは無いが、教科担任の中学校が全教員参加でそれを行うのは難しい」「今回の訪問した 2 つの中学校では、校内で教科を超えて授業を「見せ合い」、「教え合う」ことが企図されていた」

線は筆者

と指摘している点である。

C 中学校の取組が一定の成果を挙げた要因は、この点が大きいと推察する。

管見だが、中学校は、小学校に比べて、各学校で行われる主題研修・研究の推進に課題がある学校が多いようである。小学校では主題研修・研究のテーマを、国語、算数といった教科に絞り込んで全員で取り組むことができる。ところが、教科担任制の中学校では、たとえば「ICT教育の推進」などのテーマのもと、教科ごとに取り組むことが多く、授業研究や協議では「他教科のことはよくわからない」と避けがちになる面がある。

しかし、教科以外の領域、特活、総合的な学習の時間、道徳科などの研究をしている中学校では校内研修・研究が活発な傾向にあるようである。

C 中学校では、長年、教科の枠を超えて全ての教師が対等に議論できる「道徳」の研究を進め、最近では、「道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント」の研究を行っている。

このことは、現行の学習指導要領において

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1)

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、(略)一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。 は筆者

とされており、時宜を得た研究と言えよう。

先ほど述べたように、教科担任制の中学校では自分の教科以外のことには干渉しない、しにくい文化がある。そこで、全教職員がかかわる「道徳科」「総合的な学習」「特別活動」を主題研修・研究とすることで、協働性が高まり、同僚性が育まれていったのであろう。

さらに、日本教育経営学会が示した「教育活動の組織化をリードする校長像」の7つの基準²⁾のうち、

基準2 教育活動の質を高めるための協力体制と風土づくり

校長は、学校にとって適切な教科指導及び生徒指導等を実現するためのカリキュラム開発を提唱・促進し、教職員が協力してそれを実施する体制づくりと風土醸成を行う。

基準3 教職員の職能開発を支える協力体制と風土づくり

校長は、すべての教職員が協力しながら自らの教育実践を省察し、職能成長を続けることを支援するための体制づくりと風土醸成を行う。 は筆者

と併せて考察すると、本稿では、2013 富士原調査の示す6つの「高い効果を上げている学校の共通の特徴」のうち、最も重要な要素（とりわけ中学校）は、「管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視」であると主張し、攔筆することとする。

おわりに

本稿は、お茶の水女子大学(平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究)－富士原 紀絵「第7章 高い成果を上げている学校 事例研究－」平成26年3月28日を手がかりに、比較検証の資料とさせていただきました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

引用・参考文献

1) お茶の水女子大学(平成 25 年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究)－富士原 紀絵「第 7 章 高い成果を上げている学校 事例研究－」平成 26 年 3 月 28 日

2) 日本教育経営学会 「校長の専門職基準 2009(一部修正版)－求められる校長像とその力量－」 2012 年 6 月

○文部科学省 「令和 4 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」
令和 3 年 12 月 21 日

○国立教育政策研究所 令和 4 年度 全国学力・学習状況調査 調査結果資料
令和 4 年 7 月 28 日

○文部科学省 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科道徳編
平成 29 年 7 月

教育実習アンケートに基づく教員養成の現状と課題に関する一考察

～教育実習に係る「2003 年（平成 15 年）報告¹」との比較を通して～

前公立中学校長 岡井 正義

A Study on the Current Status and Issues of Teacher Training Based on the Educational Training Questionnaire

－ Focusing on comparison with “2003 Report¹” regarding teaching practice －

Former public junior high school principal Masayoshi Okai

要旨

教育実習は、文部科学省の教職課程コアカリキュラムに「将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である」と明記され、受入校での指導には、教職を志す実習生が、教育実習での経験を通じて、教壇に立つことへの意志を高めることが期待されている。

しかしながら、昨今、教職員の多忙化が問題になり、学校の働き方改革が叫ばれる中、教育実習生の指導は、受入校（特に指導教員）に負担が大きい業務の一つとなっている。

そこで、本稿では、柴山 直、高橋 桂子、鋤柄 佐千子、五十嵐 由利子 2003「受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告」新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第 2 号 を手がかりに、約 20 年前の教育実習と令和の教育実習との共通点と相違点を明らかにすることで、現在の教員養成の現状と課題を把握し、これからの教員に求められる資質・能力等を考察したいと考えた。

その結果、教育実習は、20 年前と同様に「学校全体に好影響をおよぼす」という点は変わらず、今後教育実習の重要性はますます高まるであろうと考える。多忙な教育実習受入校にあっては、大学と win-win の関係にあるために、1) 受入校のカリキュラム・マネジメント、2) 大学の指導体制・授業の充実、3) 教育委員会の支援、が必要であろう。特に、実習に当たって、教育の基本概念・理念、これまでの教育及び学校の営みの変遷、今求められている教師像等、基本的な事項を理解して臨めば、効果はさらに上がるのではないかと考察した。

キーワード

教職員の多忙化 子供たちへの影響や教師への影響 受入校のタイム・マネジメント 大学の指導体制・授業の充実 教育委員会の支援 教育の基本概念・理念 今求められている教師像

1. 問題の所在

文部科学省の教職課程コアカリキュラム（令和3年）の教育実習に関する全体目標では、教育実習は「観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。」と位置づけられ、「一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける」ことが求められている。

これまでも、教育実習は、「実習生の教師としての様々な力量形成に有効であることは周知の事実である」（三島 2009）や「教職課程を履修する学生の最大の難所であるとともに、本格的に教員を目指すかどうかの試金石となっている」（柴田・西脇 2012）、「教育実習は教職の専門性を支え、その重要な契機をなす一種の体験的課程」（福岡教育大学 2017）、「単に教師の仕事の「見習い訓練」をするのではなく、幼児・児童・生徒への学習や課外活動等を支援する教師としての役割をしっかりと自覚し、現場実習を通して、教師としての適性を判断したり、教師を志望するうえでの課題をつかんだりする大切な期間」（北九州市教育委員会 2023）のように、教育実習の果たす役割の重要性や意義は、多くの機関・研究者が指摘してきた。

現在も、教育実習は多くの受入校の協力の下で行われ、大学で学んだことなどを活かして実践するための基礎を習得する場となっている。

さらに、受入校での指導には、教職を志す実習生が、教育実習での経験を通じて、教壇に立つことへの意志を高めることが期待されている。

一方で、教職員の多忙化が問題になり、学校の働き方改革が叫ばれる中、教育実習生の指導は、受入校（特に指導教員）に負担が大きい業務である。

教員を取り巻く社会状況が急速に変化し、学校や教職員に期待される業務は広がる中、日常の業務と並行して、実習生の指導にあたらなければならない。

また、新規採用者が増加し、若手教員の占める割合が増えており、「一定の実践的指導力を有する指導教員」である経験豊富なベテラン教員が指導にあたることも難しい。

「実習生を受け入れるか否かは各学校の判断に委ねられており、実習校の協力がなければ実際には成り立たない」（三浦 2016）中で、多くの公立学校が卒業生を中心に教育実習生を受け入れているのは、次世代を担う意欲的な後進の教員を養成し、社会に送り出すという使命感と教師自身が教育

実習を通じて学んだことを伝えたいという意味合いがあると思われる。

教育実習生の受入れと指導は、昔から行われており、学校現場が忙しくなるのはこれまでもあった。

しかし、昨今、教育実習の受入れに対して、卒業生以外は、断ったり躊躇したりする学校も多い。

こういった状況の中、受入校における教育実習の現状と課題を分析し報告することで、今求められる教師像が明らかになり、円滑な教育実習の実施に資することができればと考えた。

2. 調査の方法

本稿では、平成13年8月から9月に行われた新潟県における「学校インターンシップ」制導入に関するアンケート調査のうち、教育実習に関するデータの分析結果を「受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告」（新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第2号 2003年）としてまとめた論文を活用し、約20年前の教育実習と令和の教育実習の共通点と相違点を明らかにすることで、現在の教育実習の課題を把握することにした。

具体的には、次の手順で進めた。

（1）共通点と相違点を明らかにするための資料準備

前述の「受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告」（以下2003報告）のうち、「教育実習生達の存在が生徒・児童・園児達に与える影響についてのコメント一覧」（受入校の校長・園長あるいは教務主任ないしは実習担当者による回答）を以下の基準に従って編集した。

- ・小学校からのコメントに限定する。（本調査に関して意見を求める対象を小学校の管理職等にしたため）

- ・同じ趣旨のコメントはできるだけまとめる。（データの妥当性を高めるために、敢えて重複したものもある）

- ・原文はできる限りそのまま引用するが、主語等があいまいで判断に迷うと思われるものは、適宜補足した。（【表1】参照）

（2）令和の管理職によるコメント分析

筆者らが在籍したA教育事務所管内の小学校（10校）の管理職等（元校長2名、現校長5名、教頭2名、主幹教諭1名）を対象に、【表1】の資料を配布し、それぞれのコメントに対して、20年前の教育実習と比べると、「増えた△」「変わらない□」「減った▼」の3点で回答してもらい、自由記述欄にコメントを添えてもらった。

協力を依頼した管理職等はいずれも平成10年代に教育実習生を指導した経験がある。

そこで得られた回答やコメントを分析し、20年前の教育実習と令和の教育実習の実態を比較する。

【表1：比較のための資料】

	教育実習アンケート 20年前と比べると	増えた△	変わらない□	減った▼
1	・若い人（他の教師に比べ）が、はつらつと行動し、活発に子供たちに働きかけてくれることで、子供たちが非常に喜び、様々な活動にいきいきと取り組むようになり、好影響を与える。			
2	・学校生活に活気が出たり、楽しさを感じたりする児童が多いが反面、落ち着きがなくなる児童もいる。			
3	・（児童が）いろいろな大人に接することができる機会となる。			
4	・子どもたちは仲間のような感覚で遊んでもらえると喜び 学校生活に活気を与える。			
5	・その反面子供たちは落ち着かず授業中もざわざわしている。			
6	・指導の技術は稚拙でも、授業づくりの意欲が感じられるためか、学習への参加意欲が高くなる。よく話を聞くようになる。			
7	・職員自身が自己の実践を見直す機会となり、教育活動に活性化をもたらす。			
8	・学生を中心としたグループが形成され、日頃遊べない子が友達と遊べるようになる。			
9	・話し相手として、担任とは違った親近感をもって接する様子が伺えます。（話しやすい面もあるようです。）			
10	・外部の人ということもあって、又、他クラスと違うこともあって活発な動きが見られることが多かったです。			
11	・学級担任以外の指導者に接し、それまで見えなかった能力や人間性が見えてくる。			
12	・子どもにとっては教育実習生の若さが最大の魅力のようであり、また、間違っても失敗しても評価されないという気安さもあって、学習に積極的に取り組む。			
13	・教師として認識せずいわば「卵」として見ているため、安心して甘えたり、会話する。息抜きの存在であるようです。			
14	・学習意欲の向上			
15	・（児童が）多様な人間性に触れられる			
16	・未熟ななかにも、ひたむきに子供たちに接する態度は、人間らしさを感じさせる。			
17	・担任にはない特技（楽器が上手など）や良さを受けている。			
18	・児童と積極的にかかわろうという姿勢が子どもたちにも活気を与えている。			
19	・人的環境が変わり、学習に対してやる気がでる子が見られる。			
20	・すぐ打ちとけて仲良くなれる。担任より以上心を開く場合がある。			
21	・教員配置に余裕のない現状に、一定期間ではあるが若々しい教員が増えることで職場が活性化し、子どもが喜ぶ。			
22	・当校に実習に来る人たちは、卒業生です。子どもたちも本人も、自分の学校という気持ちでつながっているようです。実習生によくなつき、自然に教育効果があがっています。			

23	・実習生への甘えが増し、ひいては、集団生活に対する自覚を弱めるところがある。
24	・服装・言動・行動すべてに渡って影響を与える。
25	・一定期間だけだから全力投球している実習生が多い。
26	・意欲的な学生が多く、子ども達も好感をもって楽しみにしています。学校に新鮮な風を吹かせてくれます。
27	・教員として好ましくない服装、言動がみられる実習生がいること。
28	・「指導スタッフ又は業務の手伝い」としてよりは「指導の対象」として職員はとらえており、実習生の指導にはかなりの負担を感じている教員が多い。
29	・私学等から個人的に実習を希望してくる学生にはそれなりの目的意識と責任感が感じられる。
30	・ぎりぎりの時間配当で教育計画を組まざるを得ない現状なのに、実習生が加わることで教育計画がくろうのが難点である。
31	・指導案作成が計画的にできない学生がいた場合、支障をきたすことがある。
32	・遅刻する学生がおり、好ましくない。
33	・教員を希望する学生とそうでない学生の間に、実習内容に対する意欲の差があり、指導教員にとってとまどいがある。
34	・指導する担任等に時間的なゆとりがなく、適切な対応ができにくいこと。
35	・実習後の授業に、補修が必要な場合がある。
36	・日常でさえ仕事に追われるような教師にとって教育実習生の「基本的な生活規律」にまで及ばなければならない指導は大変な労力である。
37	・職業観、倫理観、使命感まで指導しなければならない実習生が残念ながらいることも事実である。
38	・大学側の学校現場との連携も希薄なのでないか。立派な後輩教師を育てることは大切な我々の任務だと承知しているが、大学でもっと人間教育をきちんとしてほしいとお願いしたい。
39	・子供に迎合しやすい。
40	・実習生の指導に大変気を使う。(疲労度が大きい)
41	・実習生によっては余りやる気の無い者もいる。
42	・評定を高くしなければならないということに疑問を感じる。
43	・大局的には、子供たちには効果大であると考えている。
44	・実習生への指導が加わるため担当教師は大変忙しくなる(5時すぎでの指導が多い)。

45	・教員の中には自分のことで精一杯のため自教室に配置されるのを希望しない者がいる。
46	・勝手な言動等モラル、マナーの悪さが目につく 実習生もいた。(指導に素直に応じる実習生が多いが、中には自分の生き方等を主張して指導者を困らせる実習生もいた。)
47	・指導案が全く書けない実習生がいる。教科教育法等で事前に学習しておいてほしい。
48	・やる気の感じられない実習生の対応に困る。
49	・毎日が真剣な学習の場なのに、あからさまに、子供を実験の道具として扱う学生がいる。
50	・長髪、茶髪、全体研修会での居眠り、指導案作成の手抜きなど、基本的な実習の構えに欠ける学生がいた。
51	・実習関係の書類(届け)の記入、提出がいいかげんで粗雑。
52	・現場任せだと、教育現場が困り、保護者から苦情がきたり子供に悪い影響を与えたりした。
53	・子供たちに積極的に働きかけると同様、教師たちにも、質問するなど能動的に動いてほしい。
54	・友達感覚の部分と、指導者としての立場と切り替えができるようになっていないと、子供たちと「なれあい」の学習や活動になることがある。
55	・教育実習に対する心構えの指導をお願いします。
56	・教職希望の学生が減ってくることにともない、意識の低下が目だってきました。
57	・計画が予定通り実施できない。
58	・普段通り、特別な構えなしで受け入れているので格別の問題なし
59	・職員研修他の会議、会合の日程の設定がむずかしいこともある。
60	・教育実習の指導内容として、教育者として、人間としての礼儀作法などの基礎・基本を取り入れなければならないような現状である。
61	・教育実習生という甘えがあり、教育者としての自覚・責任感が不足している。指導内容や方法、指導技術等の指導をじっくりできない。
62	・教員と歩調を合わせることは実習生にとってはかなり負担となっている。
63	・形づくられていたルール(日常的なしくみ秩序)が崩れ、建て直しが大変。
64	・女子学生の口調(話しことば)や態度に影響され、言葉遣いが乱れる。

3. 結果と考察

2003 報告では、「子供たちへの影響や教師への影響という意味で」「① 学校全体に好影響をおよぼすという観点からの肯定的な意見が 88.8%, ② マイナスの影響面を指摘した意見が 9.7%であった」と示されている。

この点において、本調査では、まず、① 学校全体に好影響をおよぼすという観点からの肯定的な意見として、【表 2】の 25 項目を抽出し、それぞれのコメントに対しての各学校の評価を分析した。

【表 2：肯定的な意見】単位：件 N=10

結果は、全項目を平均すると「増えた」と回答した学校の割合は 20%、「変わらない」68%、「減った」12%であった。

「増えた」「変わらない」と回答した学校の割合は 88%であり、2003 報告とほぼ同じ傾向がみられ、令和の学校でも教育実習生の存在が「学校に全体に好影響を及ぼす」と、とらえていると考えられる。

「増えた」と感じる学校の数が多かった項目は、「3・(児童が) 多様な人間性に触れられる」に対しての評価で、6 校が増えたと回答している。

自由記述の中に「コロナ禍で行事等の制限があり、対面でのふれあい活動が減ったためでは」という記述があり、影響が考えられる。

一方「減った」と感じる学校の数が多かった項目は、「12・子どもにとっては教育実習生の若さが最大の魅力のようであり、また、間違っても失敗しても評

価されないという気安さもあって、学習に積極的に取り組む」と「26・意欲的な学生が多く、子ども達も好感をもって楽しみにしています。学校に新鮮な風を吹かせてくれています」に対しての評価で、4 校が減ったと回答している。

2003 報告では、「肯定的な意見のほとんどは、(略)小学校では「若い人がはつらつと行動し、活発に子供たちに働きかけてくれることで、子供たちが非常に喜び、様々な活動にいきいきと取り組むようになり、好影響を与える」(略)のように、実習生が「若い」が故にもつ、子供たちへの新鮮な影響力を指摘したもの」と分析しているが、本調査の自由記述の中に、「最近の学校は若い先生が多くなっているので、『若い』という条件は余り影響がないのではないか」という指摘があった。20 年前の学校現場では、現在のように新規採用者が多かったわけではないので、留意すべき点である。

番号	増えた△	変わらない□	減った▼
1	0	10	0
2	4	6	0
3	6	4	0
4	2	8	0
6	0	8	2
7	4	4	2
8	2	8	0
9	4	6	0
10	2	8	0
11	2	6	2
12	2	4	4
13	2	6	2
14	0	10	0
15	2	8	0
16	2	6	2
17	4	4	2
18	2	8	0
19	2	6	2
20	2	8	0
21	2	6	2
22	0	8	2
25	0	8	2
26	2	4	4
29	2	6	2
43	0	10	0

また、子供への影響ではなく、教師集団への好ましい影響に限ると、2003 報告では「職員自身が自己の実践を見直す機会となり、教育活動に活性化をもたらす」などの意見を挙げている。

本調査では、このコメントに対する評価は、「増えた」4校「変わらない」4校、「下がった」2校であり、「増えた」「変わらない」と回答した学校の割合は80%であり、本項目も20年前と同様の傾向があり、令和の学校でも教育実習生の存在が「職員自身が自己の実践を見直す機会となり、教育活動に活性化をもたらす」ととらえていることがわかる。

また、教育実習は「43・大局的には、子供たちには効果大であると考えている」という項目に対する評価が「変わらない」100%(本調査)であったことが示すように、2003 報告と同様に、教育実習生の存在は「子供たちへの影響や教師への影響という意味で」「学校全体に好影響をおよぼす」といえるであろう。

多忙化の中にあっても、教育実習が受入校で営々と続けられるのは、この面が大きい。

次に、実習生受入に関しての問題点について、2003 報告では、「回答内容は大きく、①子供たちへのマイナスの影響、②学生の実習姿勢に関するもの、③学生の指導技術に関するもの、④実習指導に関するもの、⑤その他、に分類」できるとし、「特に「②学生の実習姿勢に関するもの」が34.9%、「③実習指導に関するもの」が32%と回答の7割近くを占めている」と報告している。

この点において、本調査では、

- ① 子供たちへのマイナスの影響に関するもの8項目【表3】、
- ② 学生の実習姿勢に関するもの15項目【表4】、
- ③ 学生の指導技術に関するもの5項目【表5】、
- ④ 実習指導に関するもの9項目【表6】

を抽出し、それぞれのコメントに対しての各学校の評価を分析した。

① 子供たちへのマイナスの影響に関するもの

【表3：マイナスの影響】

平均すると「増えた」29%、「変わらない」57%、「減った」13%であり、2003 と同様の傾向があると認められる。

その中で懸念されるのが、「52・現場任せだと、教育現場が困り、保護者から苦情がきたり子供に悪い影響を与えたりした」、「63・形づくられていたルール（日常的なしくみ秩序）が崩れ、建て直しが大変」であり、「増えた」40%、「変わらない」60%、「減った」0%であった。

番号	増えた△	変わらない□	減った▼
5	4	4	2
23	0	6	4
24	2	6	2
39	2	8	0
52	4	6	0
61	2	8	0
63	4	6	0
64	2	4	4

反対に改善の兆しが見られるのが「23・実習生への甘えが増し、ひいては、集団生活に対する自覚を弱めるところがある」で、「増えた」0%、「変わらない」60%、「減った」40%であった。

実習生に限らず、若年教員の場合、児童の甘えによって、学級のルールが崩れることが予想されるので、指導教員が注意を払うことが多くなったのではないと思われる。その分、指導教員の負担が増える要因にもなっている点はある。

② 学生の取組姿勢に関するもの

【表4；学生の取組姿勢】

平均すると「増えた」30%、「変わらない」56%、「減った」13%であり、この項目も2003と同様の傾向があると認められる。

その中で懸念されるのが、「27・教員として好ましくない服装、言動がみられる実習生がいること」「33・教員を希望する学生とそうでない学生の間に、実習内容に対する意欲の差があり、指導教員にとってとまどいがある」。「50・長髪、茶髪、全体研修会での居眠り、指導案作成の手抜きなど、基本的な実習の構えに欠ける学生がいた」「55・教育実習に対する心構えの指導をお願いします」であり、それぞれ「増えた」40%、「変わらない」60%、「減った」0%であった。

反対に改善の兆しが見られるのが「62・教員と歩調を合わせることは実習生にとってはかなり負担となっている」で、「増えた」0%、「変わらない」80%、「減った」20%であった。

番号	増えた△	変わらない□	減った▼
27	4	6	0
32	4	4	2
33	4	6	0
37	4	6	0
41	0	10	0
46	4	4	2
48	4	4	2
49	2	4	4
50	4	6	0
51	4	4	2
53	4	4	2
55	4	6	0
56	2	4	4
60	2	8	0
62	0	8	2

③ 学生の指導技術に関するもの

【表5；指導技術】、

平均すると「増えた」20%、「変わらない」70%、「減った」10%であり、この項目も2003と同様の傾向があると認められる。

その中で懸念されるのが「31・指導案作成が計画的にできない学生がいた場合、支障をきたすことがある」。「35・実習後の授業に、補習が必要な場合がある」であり、「増えた」40%、「変わらない」60%、「減った」0%であった。

「31」に関しては「計画的にできない」が課題であり、提出日時が守れない等、実習生の指導案作成等に関してのマネジメントができていないことへの評価ではないと思われる。

その証左として、改善の兆しが見られるものは「47・指導案が全く書けない実習生がいる。教科教育法等で事前に学習しておいてほしい」であり、「増えた」0%「変わらない40%」「減った」60%ある。

つまり、大学での事前実習で指導案作成の指導は行われているが、マネジメントができない実習

番号	増えた△	変わらない□	減った▼
31	4	6	0
35	4	6	0
47	0	4	6
54	2	8	0
57	2	8	0

生はいるということであろう。

④ 実習指導に関するもの、

【表 6 ; 実習に関するもの】

平均すると「増えた」51%、「変わらない」36%、「減った」13%であり、この項目に関しては、2003 調査時より課題が大きくなっていると考えられる。

いずれも学校・指導教員の負担が大きくなっているという傾向を示すものである。

懸念される項目として「30・ぎりぎりの時間配当で教育計画を組まざるを得ない現状なのに、実習生

番号	増えた△	変わらない□	減った▼
28	2	6	2
30	8	2	0
34	8	0	2
36	8	2	0
38	4	4	2
40	6	2	2
44	4	6	0
45	2	6	2
59	4	6	0

が加わることで教育計画がくるうのが難点である」「36・日常でさえ仕事に追われるような教師にとって教育実習生の『基本的な生活規律』にまで及ばなければならない指導は大変な労力である」で、「増えた」80%、「変わらない」20%、「減った」0%であつた。

「30」に関しては、学校はこれまで「特色ある教育課程」として、学校独自の取組を充実させるため、教育課程を編成してきた。近年、学力向上を目指して、様々な取組を行っているが、その一環として、週時制を30コマにし、教科の時数を増やす傾向にあったことが一因と思われる。現在、学校行事等の見直し、標準時数による編成や上限が示されるなど短縮の傾向があるが、ゆとりのある教育課程にはなっていないのが現状である。

「31」と併せて考察すると、教育実習そのものの課題ではなく、昨今指摘されている教職員の多忙化による影響が教育実習にも及んでいると言えよう。

ただし、「31」の「基本的な生活規律」の指導に関しては、②学生の取組姿勢に関するもの、でも指摘されている。

なお、評価が分かれたのは、「38・大学側の学校現場との連携も希薄なのでないか。立派な後輩教師を育てることは大切な我々の任務だと承知しているが、大学でもっと人間教育をきちんとしてほしいとお願いしたい」で、「増えた」40%、「変わらない」20%、「減った」40%であつた。

この評価は実習生の在籍する大学によって、かなりばらつきがあることが、自由記述で多く指摘されている。

「打ち合わせのときから大学の指導教官からも連絡があり、時間のある限り学校を訪れてくれる」

「実習に来る前に指導案はほぼできている」「服装や髪型、挨拶の仕方など、実習前に厳しく指導されている様子がうかがえる」や「担当がはっきりせず、電話やメールの問い合わせに時間がかかる」

「指導案はほぼ丸投げ?の大学がある」などである。

考察

ここまでの結果をまとめると、2003 報告では、問題点として指摘が多かった「学生の実習姿勢」については、「教員希望の学生とそうでない学生の間の実習意欲の差」を指摘する回答が代表的なものであった。その具体例として、「遅刻」「期限を守らない」「乱れた服装・髪型・茶髪・ピアス」、「言葉遣い」「挨拶」「全体会での居眠り」など、いわゆる社会人としての基本的なマナーの悪さが数多く指摘されていた」と分析されているが、これらの指摘は、本調査でも同様の傾向が見られ、引き続き課題であると言える。

さらに、2003 報告では「教育実習の指導内容として、教育者として、人間としての礼儀作法などの基礎・基本を取り入れなければならない現状」が受入校ではあり、実習の本来の目的である「指導内容や方法、指導技術等の指導がじっくりできない」ことが問題点として指摘されていた。これらの指摘も、本調査でも同様の傾向が見られ、引き続き課題であると言える。

次に、2003 報告では、「実習指導に関する問題点として一番多かったのは、とにかく現場サイドが多忙になり、指導教員の負担増についての声であった」と分析しているが、この指摘は、本調査では2003 報告より負担が大きいと感じていると学校が増えているという結果となった。

なお、2003 報告では、学生の指導技術に関しては、「指導案がまったく書けない実習生がいる」ため、「教科教育法等で事前に学習して欲しい」という意見が典型的であった」と報告されているが、この指摘については、本調査においては、この指摘は減少している。

これは、20 年前と比べて、教職実践演習等をはじめとして、大学での事前実習において、指導案作成の指導がなされている成果であろう。

また、子供たちへのマイナスの影響として、2003 報告では、「学校のリズムや規律が乱されること、子供たちへの迎合、子供たちから落ち着きがなくなること、子供たちの言葉遣いが乱されることなどが指摘されていた」とされているが、この指摘については、本調査においても同様の傾向があった。

4. 全体考察と今後の課題

以上、約20 年前の教育実習におけるアンケートデータと令和の管理職等による意見とを比較することで、現在の教育実習の現状と課題を見てきた。

その結果は、教育実習は、20 年前と同様に「学校全体に好影響をおよぼす」という点は変わらないが、20 年前と比べて、受入校が多忙になり、指導教員の負担が増していると感じている学校が多いということがわかった。

本調査は、限られた地域内での管理職等によるコメント分析で、調査対象校や地域はもっと広げる必要はあると認識している。したがって、教育実習の現状を正しく把握しているかどうか、結果

の解釈は慎重になるべきである。しかし、令和の教育実習の傾向は、一定の範囲で示すことができたのではないかと考える。

今後は、教育実習の重要性に鑑み、大学や受入校とも持続可能な取組が必要になってくるであろう。

そのためのヒントになるのではないかとと思われる考え方や取組が自由記述の中に見られたので、以下に述べる3つの視点に分類して考察を加え、提案したい。

なお、2003 報告では幼稚園や中学校のアンケート結果に係る得がたい分析、報告も記載されていたが、今回は割愛した。機会を改めて検証してみたい。

1) 受入校のタイム・マネジメント

○ 実習生は基本的には5時で退庁させるように指導しています。遅くまで残すとハラスメントの問題が生じ、帰宅途中の安全も心配です。

しかし、5時までの指導となると、限られた時間の中で、よほど効率的・計画的に指導をしないとけないので、かえって忙しくなるというのが現実です。働き方改革が叫ばれる中、時間をかければよいというものではないとは思いますが、本来じっくりと時間をかけて指導する必要もあります。(略)

この意見に代表されるように、受入校では、内容を厳選し、効率よく指導できるよう、学校全体のマネジメントで対応するしかないのが現状である。

実習生が来ている4週間の中で、実習生に対する指導の分担はもとより、学校行事の分担や授業の支援なども含めて、学校全体で取り組んでいるという姿勢・体制をとると、負担は減らないまでも、負担感は減るであろう。

2) 大学の指導体制・授業内容の充実

○ 昨年度の実習生が、大学で指導案作成だけでなく、模擬授業も経験して来たので、指導がスムーズであった。(同意見多数：7件)

指示や発問に子どもたちが思ったような反応しないとき、「どうしたらいいか」「なぜそういう事態になったのか」など、具体的な課題としてとらえられ実習が深まった、と教生が書いていた。

○ 大学や実習生本人と学校(受入校)が早め早めに連絡をとることが大切と感じた。打ち合わせの回数は増えるかもしれないが、実習が始まるとなかなか時間がとれないので、助かる。

○ 小学校は、中・高の教科担任制ではないので、学年、教科、単元(題材)がわかれば、それだけ準備に時間がとれるはず。早めの打ち合わせによって、所属学年、教科など実習生の要望に応えられる場合もあった。

○ 20年と変わらないかもしれないが、教生の中には、なぜ教育学部を選んだのか、疑問に感じる学生がいる。「自分は人とコミュニケーションをとるのが苦手」と公言したり、「なんでこのクラスの子は人の話を聞けないのか」など真剣に尋ねたりする学生もいる。理想の教師像あるいは望まれる教師像を自分なりに描いて望んでほしい。(同趣旨の意見：6件)

以前から、なぜ教員になりたいのか、判然としないまま実習に来ていると思われる学生は時折見かけられた。しかし、そのような学生も実習期間中の子どもとの出会いを通じて、教職を目指すようになることも多い。そのためにも、大学での、教育原理、教職概論などの授業を通じて、教育の基本概念・理念、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかなど、教育の魅力も含めて、今求められている教師像を理解して実習に臨めば、効果はさらに上がるはずである。

3) 教育委員会の支援

○ 卒業生だから受け入れているが、年度や学校によって人数が偏ったり、研究発表会の年で、単元を教生に任せられないことがある。(本音を言えば、引き受けたくない)。他の市では、教育委員会が窓口となって、実習生の受入先を調整し、決定しているところもある。

コロナ禍の教育実習では、教育委員会が窓口になり調整等にイニシアティブをとったことで混乱は避けられたという意見は多い、

管理職にとっても教育委員会がイニシアティブをとることで、職員に説明しやすく、協働体制がスムーズに構築できるであろう。

これらの分析から、今後教育実習の重要性はますます高まるであろうと考える。多忙な教育実習受入校にあっては、大学とwin-winの関係であるために、1) 受入校のカリキュラム・マネジメント、2) 大学の指導体制・授業の充実、3) 教育委員会の支援、が必要であろう。

特に、学生が実習期間中の子どもとの出会いを通じて、教職を目指すようになることも多い現状から、教育の基本概念・理念、これまでの教育及び学校の営みの変遷、今求められている教師像等、基本的な事項を理解して臨めば、効果はさらに上がるのではないかと考察した。

おわりに

本稿は、柴山 直、高橋 桂子、鋤柄 佐千子、五十嵐 由利子 2003「受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告」新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第2号 P63-74 を手がかりに、比較検証の資料とさせていただきました。

紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

引用・参考文献

- 1 柴山 直、高橋 桂子、鋤柄 佐千子、五十嵐 由利子 2003「受入校からみた教育実習の実態調査に関する報告」新潟大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第 2 号 P63-74
- 2 文部科学省 2021 「教職課程コアカリキュラム」「3 文科教第 438 号」教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について（通知）文部科学省 HP
- 3 三島 知剛 2009 「教育実習中の他者との関わりと教育実習生の授業・教師・子どもイメージ、授業観察力の変容」 日本教育工学会論文誌 33 巻 1 号 p. 71-81
- 4 柴田 育郎 西脇 朋美 2011 「中・高校における教育実習の現状と効果的な事前指導の在り方」 愛知淑徳大学教育学会『学び舎-教職課程研究』編集委員会 編 P 59-72
- 5 福岡教育大学 2017 「教育実習の手引き」
- 6 北九州市教育委員会 2022 「北九州市教育実習ガイド（教育実習生・大学用）」北九州市 HP
- 7 三浦 朋子 2016 「教育実習指導における大学の役割及び実習校との連携の可能性－実習先指導教諭の考えを手がかりとして－」 亜細亜大学課程教育研究紀要 4 巻(号) p. 1-9,

「考え議論する」道徳への授業改善のための一試案

前公立中学校長 岡井 正義

A Trial Proposal for Improving Moral Education Classes By “Thinking and Discussing”

Former Public Junior High School Principal Masayoshi Okai

要旨

道徳の教科化に伴い、学校現場では「考え議論する」道徳への転換を図るための授業の改善・充実に取り組んできたが、本来のねらいを踏まえた「考え議論する」道徳の授業になっているか、研究指定校の紀要を手がかりに分析した。

その結果、「考え議論する」道徳への授業改善には、ICT 機器の活用が有効であることが確認できた。一方で、授業中の「対話」(話し合い)の質の向上が課題であることが明らかになった。

その改善策として、「対話能力を支える日常的な指導例」と中学校の組織文化を活かした「道徳科を核としたカリキュラム・マネジメントによる『総合的な学習』『特別活動』との連携」試案を提案した。

キーワード：「考え議論する」道徳、ICT の効果的な活用、対話、対話能力を支える日常的な指導、道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント

1. 問題の所在

道徳の教科化に伴い、学校現場では「考え議論する」道徳への転換を図るための授業の改善・充実に取り組んできた。

その結果、研究会が各地各学校で行われ、その詳細な報告や今後の「特別の教科 道徳」の在り方や方法論に関する論文も多く発表されている。

しかしながら、授業中は一見活発な議論や話し合いが行われているように見えるが、果たして「人間としての生き方についての考えを深める」という本質的な対話(話し合い)が行われているか、「よく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の本質に迫る授業になっているか、その成果までは判然としない報告や授業も見受けられる。「考え議論する」という方法にとらわれ、肝心の「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」という目標は十分に達成できていないのではないかと危惧する。

2. 研究の方法と目的

本稿で取りあげる研究紀要は、A 県 B 市立 C 中学校より快く提供していただいたものである。

C 中学校では、令和 2 年度より ICT を効果的に活用した授業改善に取り組みはじめ、令和 3 年より、

それまで各教科で取り組んできた ICT を活用した授業改善から、教科の枠を超えて全ての教師が対等に議論し研究できる「特別の教科 道徳」に特化し、研究を進めてきた。

その際の研究の一端をまとめた研究紀要（令和 5 年 11 月）では、後に詳述するが、ICT 機器の効果的な活用により、道徳科の学習において一定の成果があったことが報告されている。また一方で、道徳科の授業における対話（話し合い）の課題も報告されている。

そこで、C 中学校の研究の成果の要因と課題とを分析し、今後の研究の推進に資するため、「考え議論する」道徳への授業改善のためには何が必要かを考察する。

3. C 中学校の研究概要とその分析

(1) テーマ・仮説の妥当性

C 中学校が取り組んできた研究テーマは「自己を見つめ、よりよい生き方を考える生徒を育てる道徳科学習指導～ICT の効果的な活用を通して～」である。

C 中学校がこのテーマを設定した理由は、紀要では次のように示されている

道徳の教科化に際し、その背景として、「道徳の時間」の指導が、いじめ問題や規範意識の低下など、生徒をとりまく現代的諸問題に十分に応えきれていないとの課題が指摘された。

長年、「道徳の時間」の在り方を追求・実践してきた本校としては、家庭や地域の教育力の低下、生徒の社会自然体験不足などの要因はあるものの、これらの実態も真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要があると考えた。

そこで、教科化を千載一遇の機会ととらえ、道徳教育の「要としての道徳の時間」の原点に立ち帰り、新たな研究をスタートすることにした。

教師が生徒と共に、人間としていかに生きるべきかを自分自身の問題としてとらえ、よりよく生きたいと志向する授業でありたい。これは昭和 33 年に「道徳の時間」が特設されて以来、不変の指導原理である。

「自己を見つめ、よりよい生き方を考える生徒を育てる」本校の研究は、生徒が道徳的価値を理解し、これまで以上に深く考えて、その自覚を深めることをめざしたものであり、これまで指摘された道徳の授業の課題解消を図ろうとするものである。 下線部は筆者

C 中学校では、下線部に示すように、教科化に際して道徳の授業の本質は変わらないことを確認し、道徳教育の研究に取り組んだことを述べている。

また、生徒へのアンケートや様相観察を基にした分析結果も挙げている。

実物投影機を利用してノートを拡大して自分の考えを発表したり、タブレット PC で撮影した映像を見たりした学習経験があり、授業の中で ICT を取り入れて学習を進めることを肯定的に捉えて、進んで活用したいという様子が見られる。

一方で、普段の授業では、課題がはっきり把握できないとその後の学習活動が停滞したり、話し合い活動で自分の立場や考えが明確でないと発言が消極的になったりする傾向が見られる。 下線部は筆者

こうした背景から、C 中では、

道徳科の学習過程において、ICT を有効に活用しながら他者と議論することで、生徒は自分自身との関わりで多面的・多角的な見方を広げることができ、主題である「自己を見つめ、よりよい生き方を考える生徒を育てる」ことは意義がある。 下線部は筆者

ととらえ、ICT 機器の活用はあくまで、手段であり、「自己を見つめ、よりよい生き方を考える生徒を育てる」という道徳教育の本質を踏まえて実践を試みている。

また、研究仮説では、

道徳科の学習において、次のような視点から I C Tを活用した指導を行えば、自己を見つめ、よりよい生き方を考える生徒が育つであろう。

【着眼1】 主題に関わる問題意識を自分自身の問題としてもつための活用

【着眼2】 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めさせるための活用

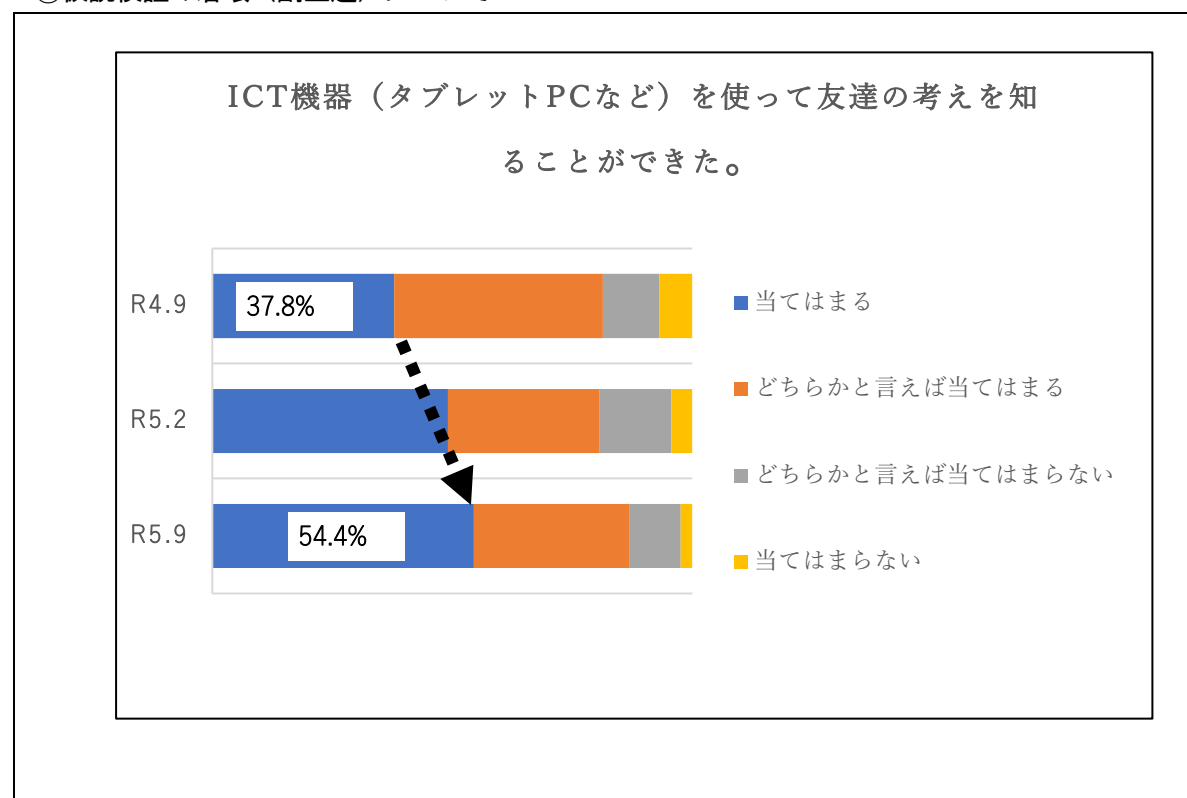
を挙げており、着眼1，2ともICTの活用の目的はあくまで手段であることを明記している。

具体的には、【着眼1】においては、「主題に関わる問題意識を自分自身の問題としてもつことができるようにするため、導入場面において、一人一人の心情や思考をタブレット上に表し、比較するなどの活動を設定する。その中で、『理想と現実の違い』や『心情と実際の行為との違い』、『他者との考えや価値観の違いなどを明らかにして、めあてにつなげる』」という活用を行い、【着眼2】においては、「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めることができるようにするために、展開場面において、一人一人の心情や思考をタブレット上に表し、話し合う活動を設定する。その中で、『資料中の登場人物と自分との比較』や『他者と自分との比較』、『他者からの価値付け』などを行い、振り返りにつなげる」といった活用がされており、ICTの活用の効果とともに道徳的な価値の理解や深まりを検証しようとしている。

このようにC中学校では、研究を進めるにあたり、今日的な課題であるICT機器の活用を行いながら、道徳教育の本質を踏まえた実践をしており、「教科化」に伴う懸念や「ICT」の活用に応える研究となっている。

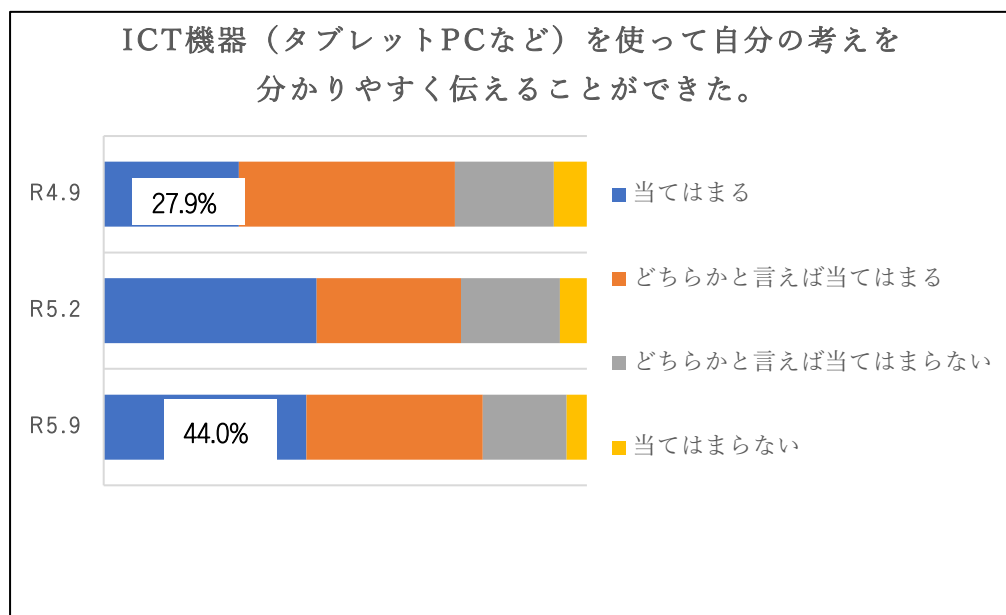
(2)「成果と課題」の分析

①仮説検証の着眼（副主題）について



【着眼1】主題に関わる問題意識を自分自身の問題としてもつための活用

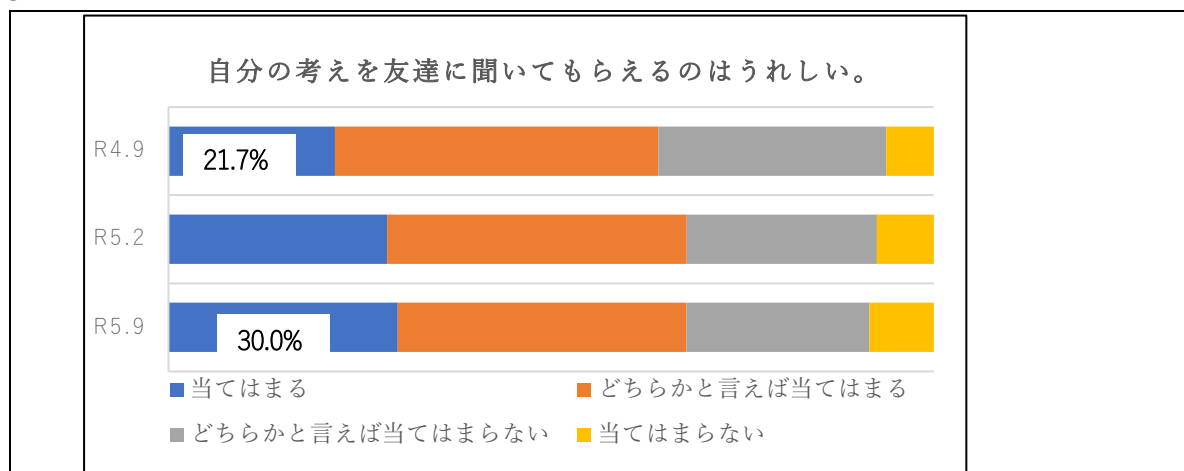
生徒に対する意識調査の「ICTを使って友だちの考えを知ることができた」の項目について、「当てはまる」と回答した生徒の割合は令和4年9月から令和5年9月にかけて16.6ポイント増加した。このことから、ICTを活用し、質問やアンケート結果を掲示することは、生徒が主題に関わる問題意識を自分自身の問題としてもちながら授業に取り組むことにつながったと考えられる。

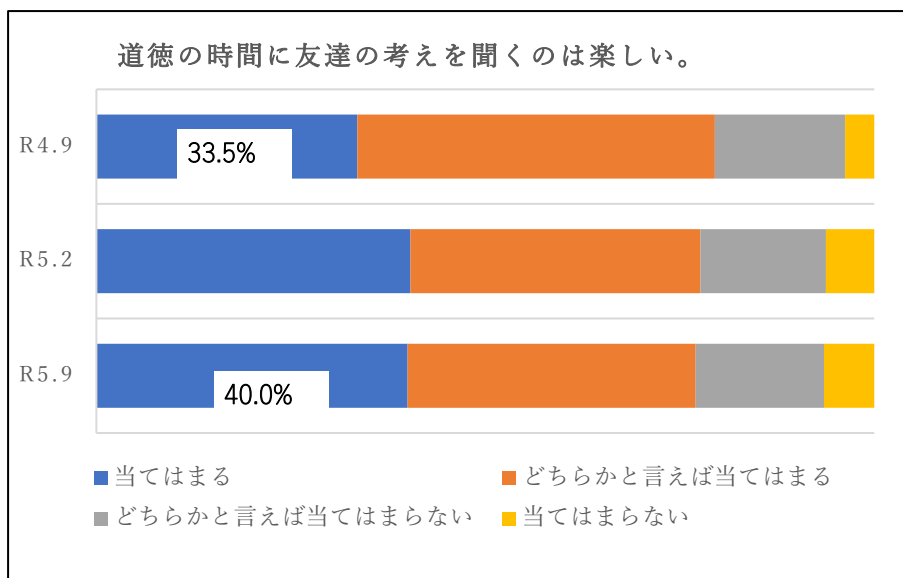


【着眼2】道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めさせるための活用
生徒

に対する意識調査の「ICTを使って自分の考えを分かりやすく伝えることができた」の項目について、「当てはまる」と回答した生徒の割合は令和4年9月から令和5年9月にかけて16.1ポイント増加した。このことから、展開場面において、一人一人の心情をタブレット上に表し、話し合う場を設定することで、生徒は自分との関わりの中でより効果的に道徳的価値の理解を深めながら授業に取り組むことができたと考えられる。

②自己を見つめ、よりよい生き方を考える」（主題）について

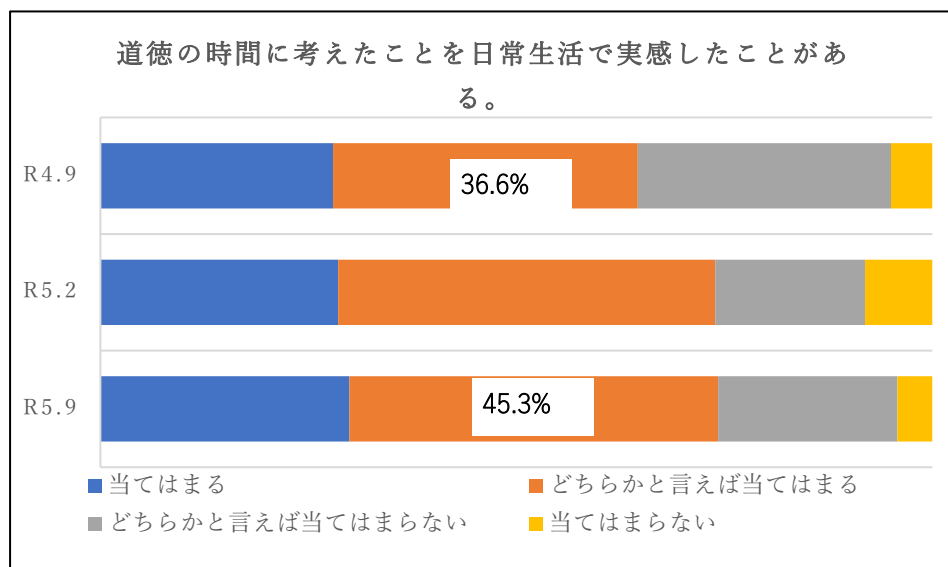




生徒意識調査の「自分の考えを友だちに聞いてもらえるのはうれしい」「道徳の時間に友達の考えを聞くのは楽しい。」「道徳の時間に考えたことを日常生活で実感したことがある。」の項目について、次のような結果が得られた。

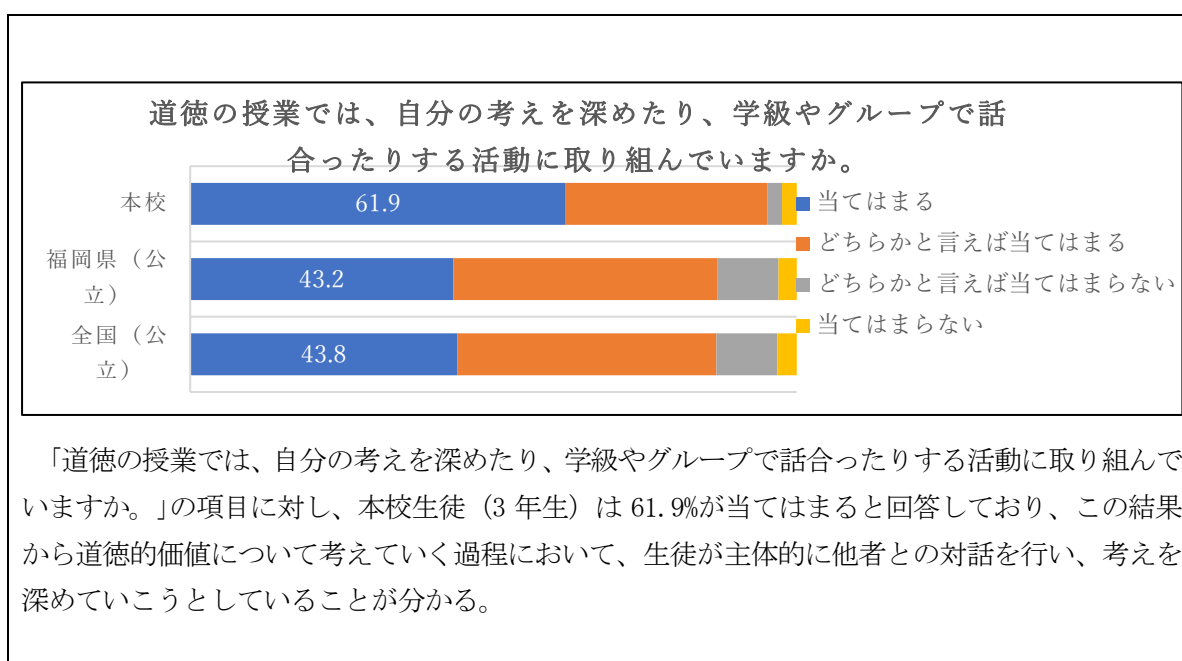
「自分の考えを友達に聞いてもらえるのはうれしい。」の項目に対し、「当てはまる」と回答した生徒の割合は令和4年9月から令和5年9月にかけて8.3ポイント増加した。

また、「道徳の時間に友達の考えを聞くのは楽しい。」の項目に対し、「当てはまる」と回答した生徒の割合は令和4年9月から令和5年9月にかけて6.5ポイント増加した。



道徳の時間に考えたことを日常生活で実感したことがある。」の項目に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒の割合は、令和4年9月から令和5年9月にかけて9.8ポイント増加した。

また、これらの結果から、本校の目指す授業づくりが、生徒の多面的・多角的な見方を広げることにつながり、自己の生き方について、考えを深めることにつながったと考えられる。

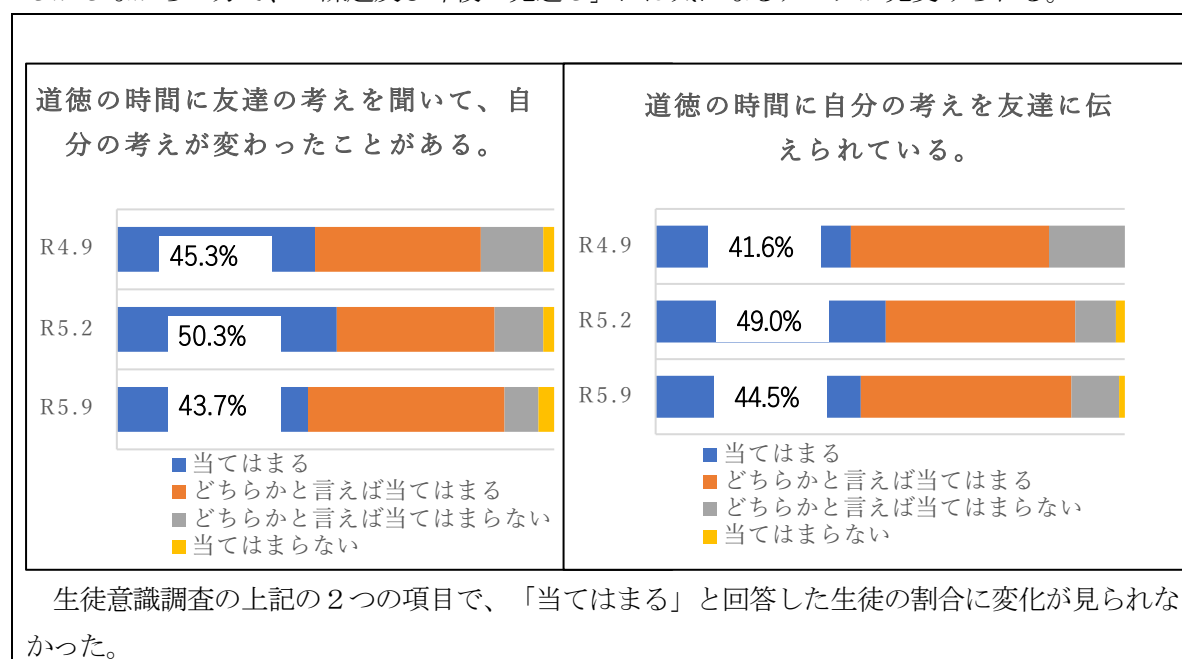


ここに示されている数値項目は、研究開始時と比較すると有意に上昇しており、これらの分析結果から、ICT 機器は、道徳科の授業においても有効なツールとして機能していることが検証されている。

とくに、「道徳的価値について考えていく過程において、生徒が主体的に他者との対話を行い、考えを深めていこうとしていることが分かる」という記述から、研究の成果が顕著に現れていることが分かる。

今後も ICT の活用は、道徳科のみならず、すべての教科・領域での活用が有効であり、適切な運用が望まれている。ICT だよりの授業では心許ないが、本実践のような活用は今後も大いに推奨されるべきであろう。

しかしながら一方で、「課題及び今後の見通し」には気になるデータが見受けられる。



「道徳の時間に友達の考えを聞いて、自分の考えが変わったことがある」「道徳の時間に自分の考えを伝えられている」の項目は、他の項目に比べて顕著な増加は見られない。

このことについてC中学校次のように分析している。

友達との交流を通して、自分の考えが変容（付加・修正等）したことが分かるような手立てを検討する必要があると考える。また、ICT 機器を使って、自分の考えを分かりやすく伝えることができたという回答した生徒が増加しているにも関わらず、道徳の時間に限定した場合は大きな変容が見られないことから、発問を工夫するとともに、自分の考えを表出する方法についてさらに研究していく必要があると考える。

この中の「自分の考えが変容（付加・修正等）したことが分かるような手立て」とは何か、この段階では触れていないが、この項目の分析・評価には、授業中のノートの記述を丁寧に看取る必要があり、生徒の思考過程を可視化できるようなワークシートの工夫が望まれる。

そもそも「考えが変容する」ためには、授業中に「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける」（「道徳に係る教育課程の改善等について」答申 平成 26 年 10 月）といった対話が必要であろう。

もちろん、必ずしも「考えが変容する」必要はないが、対話を通して、これまでの道徳的価値の再認識や再構築、物事を様々な角度から総合的に考察することの大切さを振り返ることはあってほしい。このことは教科化の際、強調されたポイントでもある。

学習指導要領でも、「グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる」（第 1 章 1 改訂の経緯）とされ、「対話」がキーワードとなっている。

次に「ICT 機器を使って、自分の考えを分かりやすく伝えることができた」と回答した生徒が増加しているにも関わらず、道徳の時間に限定した場合は大きな変容が見られない」という分析は、今後の研究の方向性を定める上で貴重な指摘である。

本実践研究では、ICT 活用の有効性は疑いようがないが、道徳科に限っては「自分の考えを分かりやすく伝える」ことは、（数値が下がっているわけではないので、ある一定の成果があるといっても過言ではないが）、他の項目と比較すると特段の変容が見られない。

確かに「自分の考えを分かりやすく伝えること」は容易ではない。ましてや「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きる」ための道徳科の授業では、自己の内なる思いや価値観といった概念は、抽象的になりやすく、わかりやすく伝えるのは難しい。そのために「発問を工夫する」「自分の考えを表出する方法」を今後の課題としてあげているのは示唆に富んだ指摘である。

正解ではなく納得解を求める道徳の授業が、基本的に、教師と生徒の「問答」ではなく、教師と生徒、あるいは生徒同士の「対話」で成り立っていることを考えると、道徳科における「発問」の重要性を再認識する必要がある。「ふだんの生活においては分かっていると信じて疑わない様々な道徳的価値について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道徳科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すこと」（第 2 章第 2 節 2 道徳的諸価値についての理解を基にする）は、深い教材研究に裏打ちされた「発問」によってこそ可能である。反対に「愚問は愚答を招く」と言われる。一緒に考えたい、伝えたいような「発問」に触発され、対話が活性化し、対話が深まる経験を重ねることで、自分の考えを分かりやすく伝えることができるであろう。

これまで述べてきたように、本研究で示された二つの課題に共通するものは「対話」であるところ。そこで、次章では具体的な改善プランを提案していく。

4. 具体的な改善プラン

(1) 提案の背景

道徳が教科化された際に、これまでの道徳の時間の指導に対しては、学習指導要領で「歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科等に比べて軽んじられていること、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘」（第1章 1改訂の経緯）されている。

このような批判は以前からもあり、当時の教科調査官の横山（1994）は、道徳の授業に関する「教師の意識のレベル」は次の7段階がある¹と指摘している。

- ① 道徳教育は必要ないと思っている教師
- ② 道徳教育の必要性は理解できるが、それは家庭ですべきと思っている教師
- ③ 学校での道徳教育は必要であるが、道徳の時間はいらないと思っている教師
- ④ 道徳の時間の必要性は理解するが、その効果について懐疑的である教師
- ⑤ 道徳の時間の効果は認めるが、教科指導や生徒指導の方が緊急であると考えから道徳の時間の指導は後回しになる教師
- ⑥ 道徳の時間の指導に自信がもてずに避けがちな教師
- ⑦ 道徳の時間にある程度の自信をもっているが、これをさらに深めたいと考えている教師

① 道徳教育は必要ないと思っている教師

現在では全く聞かれなくなったが、昭和33年に「道徳の時間」が特設された前後には、よくある批判であったという。道徳の持つ性格上、戦中・戦後からの歴史的な経緯の影響を大きく受けたことも大きな要因であろう。

② 道徳教育の必要性は理解できるが、それは家庭ですべきと思っている教師

③ 学校での道徳教育は必要であるが、道徳の時間はいらないと思っている教師

④ 道徳の時間の必要性は理解するが、その効果について懐疑的である教師

②～④の意識は、道徳教育、道徳の授業に対する誤解の結果である。これまでの学習指導要領をしっかりと読めば、これらの批判は的外れということは自明である。

とくに、④ 道徳の時間の必要性は理解するが、その効果について懐疑的である教師、については、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」のうち、「実践意欲と態度」を「実践と態度」と誤解しているためではないかと思われる。

⑤ 道徳の時間の効果は認めるが、教科指導や生徒指導の方が緊急であると考えから道徳の時間の指導は後回しになる教師

この認識は、中学校教師には多いと考える。かつて、校内暴力・非行問題が顕在してきた昭和60年代ごろ、学校の荒れを経験した教師にはこの意識を持っている者が少なくない。

しかし、生徒の荒れを止めたり落ち着かせたりするためにこそ、心の教育は必要であるのに、多忙を理由に後回しにするのは、結局のところ、⑥ 道徳の時間の指導に自信がもてずに避けがちな教師、と同じではないかと思われる

ところで、「道徳の時間の指導に自信がもてずに避けがちな教師」あるいは「他教科等に比べて軽んじられている」「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われ

る」のはなぜか。

それは、教師自身が、教科の授業と道徳の授業との違いや特質を十分に理解していないためではないかと推察する。

数学や理科であれば、その教科の知識を「教える」ことは目標のひとつである。しかし、道徳の内容項目はそもそも「教える」ことなのか。

道徳科の授業で扱う内容は、数学や理科などと違って「知らないことを知る」というものではない。「知らないことを知る」という点においては、コンテンツベースの教科の授業では、知識伝達式の講義が中心となるが、道徳科では、子供たちがすでに道徳的価値についてある程度知っている、ということが前提で授業が行われる。この点を十分に理解しないまま授業を行うと「道徳科の内容項目はあいまいで、指導の仕方がむずかしい」といった感想を持ち、読み物資料を扱う授業では、「国語のような授業」になったり（国語科ではいわゆる「登場人物の心情理解のみの指導」を行っている訳ではないのだが）、生活経験を基に「わかりきったことをただ単に話し合うだけ」の授業になったりするのであろう。

次に考えられるのは、児童生徒の発言が不活発または低調な場合、道徳科の授業はきわめて指導に困難を伴うからである。先ほども述べたが、コンテンツベースの教科の授業は、知識伝達式の講義が中心でも、極端に言えば、児童生徒の発言がなくても授業はできる。このような授業観に馴れてしまうと、「わかりきったことを繰り返す」説教型の授業となり、児童生徒、教師にとっても45分～50分の授業は苦痛であろう。

つまり、上記のような理由をいろいろ挙げてはみるものの、多くの教師が⑥ 道徳の時間の指導に自信がもてずに避けがちになっている教師、となっていたのが実情であろう。

そこで、このような状況を改善するために、⑦ 道徳の時間にある程度の自信をもっているが、これをさらに深めたいと考えている教師、になるためにキーワードである「対話」を充実させる具体的な方法を提案してみたい。

（２）「対話能力を支える日常的な指導事例」

学校生活の中で意図的に行われる対話（話し合い）の指導は、「人間関係づくりの能力・態度の育成の問題に深く関わ」²っており、きわめて重要である。対話（話し合い）の指導は国語科だけでなく、全教育活動の中で繰り返し行われるべきである。しかし、対話（話し合い）は、授業中に頻繁に行われる言語活動であり、意識しなくてもある程度成立しているためか、重要性に気づきにくい。

また意図的・計画的に指導するにしても、「対話」を支える基盤として、「日常の継続的な指導」「支持的な風土作り」ができていないと効果が上がらない。

以下は、筆者が国語科の教師として、これまで実践してきたものをまとめ、校内研修等の場で活用してきたものである。

○指導のポイント１（名前を呼ばれたら・・・）

授業中に「〇〇さん」と指名をしても無言で立ち上がり答えてしまう、あるいは、ガラッと無神経な音を立てて、起立するというのが日常場面でよく見受けられる。「名前を呼ばれたら返をする」というのはコミュニケーション、対話の基本である。日頃から意識的に指導したいものである。また、起立する際に音を立てないというのはマナーの問題よりも、ちょっと改まって発言するという意識を持たせるために有効である。

○指導のポイント2（第一声・最初の発言者には賞賛を）

中学生になると、授業中に挙手をして発表するという生徒は少なくなる。発表したい気持ちはあっても、最初に発表するのは勇気が必要である。そこで、日常の授業の中で、教師の間に最初に答え（応え）ようとした生徒は、内容よりも行為そのものを評価するように心がけている。

○指導のポイント3（机をつけて話し合おう）

当たり前のようだが、これがなかなか難しい。とくに男女の組み合わせになると、悪気はなくても、机を離してしまうことがよくある。一年次から、日常的に班学習をしきみ、抵抗感をなくしておく。あるいは、班編成を生活班単位だけでなく、生徒の興味関心などに応じて意図的に編成するなどの配慮も必要である。

○指導のポイント4（話し合うべき内容・目的をもたせる）

無目的に「話し合ってごらん」では「対話」はなりたない。「話したいな」「聞いてみたいな」「伝えないといけないな」「聞かないといけないな」という状況を設定しなければならない。話し合う目的をもたせ、話題を一人一人に持たせておくことが、班学習ではとくに必要である。

望ましい話題とは、つぎのような要素をすべて、あるいはいくつか備えたものであろう。

- ①誰でもが発言の材料が持てる話題。（学校行事、読みの学習後など、共通体験があるもの）
- ②話すことで、話がひろがる話題。
- ③情報交換にとどまらず、自分の考えを自覚、修正できる話題
- ④新しい発見ができる話題。
- ⑤具体的な例をあげて話し合える話題。
- ⑥結論は見いだせなくても、共通点や相違点がはっきりする話題。

○指導のポイント5（話型のモデルを示す）

いきなり「話し合いをなさい」では、どうやって話し合っているかわからず、単なる「おしゃべり」になってしまうことがある。話形のモデル、手引きがあるということとはなくなる。ロールプレイングなどはその最たるものであろう。

○指導のポイント6（静かに聞くだけではだめ）

話の最中に私語をして、話の腰を折ったりするのは論外だが、かといって、聞いているのか、いないのかわからないのも不安である。話の内容によっては、うなずいたり、拍手をしたり、質問に答える、などの適切な反応、リアクションを示すことも大切である。「対話」には、節度を失わない程度にリラックスして臨ませたい。

○指導のポイント7（「聞き手の顔、表情を見て」メモをとる）

話を聞きながらメモをとるように指示すると、メモをとることに熱心で話し手の顔や表情は見ないことが多い。これでは相手に失礼になる。「対話」の指導としては、メモをとることの大切さは言うまでもないが、初期の段階ではメモをとるより、相手の顔を見て話を聞かせることに重点を置きたい。話し手も「ちゃんと聞いてくれている」という安心感、満足感を持つようである。

○指導のポイント8（教師も話し手の一人に）

話し合いの場面では、教師は司会進行役か、観察者になることが多い。ときには教師も一発言者として話し合いに参加しよう。発言が停滞したとき、話があらぬ方向にそれたときなど、教師がさっと手を挙げて発言をする。指導することを遠慮してはいけない。

○指導のポイント9（「問い返し」で輝き出す生徒の発言）

中学生は、自分の考えや気持ちを素直に表現するのが苦手である。だから、問われたことに対し

てぶっきらぼうに「別に」とか「単語」で答えてしまうのである。しかし実際にはそういう生徒もよく話を聞いてみると、案外深い考えをもっていることがある。そういうときには、「問い返し」が必要である。とくに「形容詞」や「副詞」、「抽象的な言葉」を使ったときにはその言葉を問い返してみるとよい。

○指導のポイント 10（一人一人の意見・感想を大切に）

「今の意見について、どう思いますか。」教師が発言を促すときによく用いる言葉である。「Aさんの今の意見について、どう思いますか」と固有名詞をつけ加えると、発表した生徒は「発表したら自分の役目は終わり」ではなく、その後の話の成りゆきに積極的に興味を持つ。

また、話し合った結果を代表がまとめて発表するときも、「Aさんの意見は・・・」「Bさんは・・・」というふうに個の意見を尊重して、報告させる。一人一人を大切にする授業は、こんなところから始めたい。

○指導のポイント 11（ときには筆談、紙上対談も）

「対話」の指導だからといって、常に音声言語で表現させなくても、時間の関係で言いそびれてしまったことなどを、短作文にまとめ、学級掲示などに使うという方法もある。「あの人はこんな考え方をしていたのか」「こんな見方・考え方もあったんだ」と交流が深まることがある。

また、筆談は時間がかかるが、実際の「対話」の様子が記録されているので、ふりかえりの学習にも使える。

（3）道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント試案～「教科」「総合的な学習」「特別活動」との連携～

C 中学校の研究紀要ではとくに触れられていないが、C 中学校の研究が一定の成果を挙げた一因は、全教職員による協働体制があるのではないかと考える。

あくまで筆者の経験だが、中学校では、各学校で行われる主題研修・研究はそれほど活発ではない傾向にある。中学校は、全体テーマのもと、各教科・あるいはグループ、学年ごとに取り組むことが多いが、研究会や協議では「他教科のことはよくわからない」と発言は低調になりがちである。

しかし、中学校において、教科以外の領域、特活、総合的な学習の時間、道徳科などの研究をしている学校は校内研修・研究が活発な傾向にある。

C 中学校では、「教科の枠を超えて全ての教師が対等に議論し研究できる『特別の教科 道徳』に特化した」ことで研究が円滑に進んだのであろう。

こうした背景を考えると、C 中学校の研究の成果を引き継ぎ、さらに発展させるためには、道徳科を核としたカリキュラム・マネジメントが欠かせないと考える。

そこで、C 中学校の要請により、具体的なイメージが持てるように、次ページのようなカリキュラム案を作成してみた。道徳科を核としたカリキュラム・マネジメント～「各教科」「総合的な学習」「特別活動」との連携～を検討する際の、叩き台としていただければ幸いである。

本来なら、カリキュラム・マネジメントの理論的な背景も含めて、丁寧に説明する必要はあろうが、C 中学校の今後の研究の方向性を拘束する恐れもあると考え、あくまで一試案として提案するとども、擱筆することとする。

福祉・ボランティア学習 カリキュラム試案

社会科「国民生活と福祉」 (10 時間)	道徳科「祖母の思い」 内容項目：C-14	特・総「老人介護を体験しよう」 (2 時間)	国語科「老い」に学ぶ (3 時間)
○「経済成長をふり返る」 日本が戦後歩んだ経済成長をふり返るとともに、豊かさについて考えることによって来るべき将来の理想像について予測する。(1) ○「安心してはたらくために」 好況、不況により企業の雇用状況が変化することを考えるとともに、年功序列賃金制や終身雇用制が崩れるなどの現在の労働条件の変化を知ることにより、将来の日本の労働条件を予測し、そのために自分達は今後何をすべきか話し合う。(1) 横断的な活動1 ○「高齢化社会の到来」 高齢化社会の到来とそれらに対応する社会保障制度について学習することを通し、福祉のあり方や費用の問題、介護の問題など現在の福祉についての問題点を調べ、その解決方法を提案する。(2) ○「地域が変わる」 高度経済成長によって産業構造が変化したことと、それにとめない農村部の過疎化や都市部の過密化が起こったことを関連づけて説明する。(1) ○「今農業は」 農業人口の減少や農業従事者の高齢化・後継者不足など日本の農業の抱える問題点について考えるとともに、国際化の進む現代において、これからの農業のあるべき姿について話し合う。(2) ○「限りある資源を有効に」 高度経済成長を止めた石油ショックについて学習することにより、我々の生活に資源・エネルギー問題が大きく影響している事について考えるとともに、資源の有効利用やリサイクルについて話し合う。(1) ○「地球があふない」 経済成長と公害の関係、公害の要因について関連づけて説明するとともに地球環境が悪化している原因を知ることから、今後、自分達は何をなすべきなのか話し合い提案する。(2)	横断的な活動2 ○資 料 (一冊のノート) ○あらすじ 今まで、自分や弟の面倒を見てくれていたしっかり者の祖母が、老人痴呆症になり、物忘れが激しくなってきた。季節外れの服装で外出したり、家の中の品物を頻繁に紛失したりするため、トラブルが絶えない。そんなある日、主人公は一冊のノートによって、老人痴呆に自ら苦悩しながらも家族のことを思い続ける祖母の心情に触れ、深く感動する。夕焼けの中で、一人庭の草取りをしている祖母の横にしゃがみ込み、一緒に草取りを始めるのであった。 ○ねらい 父母・祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての役割を果たし、充実した家庭生活を築こうとする自覚を深める。 ○展 開 (主な発問) ・ 薬局の前で、祖母に出会ったとき友達に気付かれないように、知らん顔をして通り過ぎたのはどんな気持ちからだろう。 ・ 父の話を聞いたとき、何も言えなくなったのはどうしてだろう。 ・ 祖母と並んで、草取りを始めたのはどんな気持ちからだろう。	横断的な活動4 ○ 老人介護の体験談を聞き、介護の内容、配慮事項などに関心を持つ。 ○ 老人介護の体験談をもとに模擬的な介護の体験を行う。(1) ○ 介護の体験を通して、介護する立場の大変さや配慮事項、介護される立場の気持ちなどを考える。(1) 横断的な活動5 ○ 夏休みの課題として、これまでの学習を生かし、老人福祉に関するレポートを個人またはグループで作成する。 例： 「ボランティアに参加して…… ～〇〇老人ホーム～」 「祖母と過ごした一週間」 「老人に優しい町づくり」	横断的な活動3 ○ 沢村貞子の『老いるということ』を読み「老い」についての関心を持つ。(1) ○ 「老い」が描かれた文章を選択して読む ・新聞のコラム、記事 ・野村たかあき『おじいちゃんのまち』 ・松田素子作・石倉欣二絵『おばあちゃんがいるといふ国』 ・ジョン・バーニンガム『おじいちゃん』 ・ニコラ・ムーン文・アレックス・アイリフ『おじいちゃんへのプレゼント』他 (1) ○ 「老い」について考えたことを作文に書く。(1)

おわりに

本稿は、A 県 B 市立 C 中学校研究紀要（令和 5 年 11 月）を手がかりに執筆しました。

資料を快く提供していただいた校長先生を始め、教職員の皆様に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

ここで述べた考察・意見はあくまで個人的なものであり、C 中学校の主体的な研究を拘束するものではないことを重ねて申し添えます

主な引用・参考文献

- 1 横山 利弘「中学校にふさわしい道德の時間の指導をさぐる」（「中等教育資料」1994）
 - 2 福岡教育大学国語科 「共生時代の対話能力を育てる国語教育」（明治図書 1997）
- 中央教育審議会 「道德に係る教育課程の改善等について」答申 平成 26 年 10 月
 - 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編 平成 29 年
 - 小山 久子 「カリキュラム・マネジメントによる教科等を超えた道德教育（道德科）の展開についての一考察」（大阪芸術大学 芸術と教育 第 1 号 2017）

幼保小連携のさらなる円滑化に向けた一考察
ー幼児体育と小学校体育の接続の観点からー

大橋祐介（東筑紫短期大学）

A Study on Further Facilitating Cooperation between Preschool and Elementary School

-From the Perspective of Connecting “Early Childhood Physical Education” and “Elementary School Physical Education”-

Yusuke Ohashi (Higashi chikushi Junior College)

キーワード：幼児体育，学校体育，幼保小連携，小学校

I. はじめに

我が国では、長年にわたり子どもの体力低下が課題とされている。特に新型コロナウイルスの流行は大きな影響を与えた。スポーツ庁が発表した「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁 2024）」によると、小学校では男女共に前年より体力合計点が低下していた。また、三つの「間」（時間・空間・仲間）の減少（中央教育審議会 2002）といった社会的背景や環境の変化などから、子どもの運動機会の減少も報告されている。

こうした中、子どもの運動機会を大きく担っているのが学校体育であると考えられる。学校体育は学習指導要領に沿って展開され、小学校体育であれば「小学校学習指導要領 体育編（文部科学省 2017）」がこれにあたる。学習指導要領では各学年で扱う内容が定められており、段階的で連続性を持った内容となっている。この連続性は、各学校段階でも接続しており、小学校段階であれば幼稚園および保育所、認定こども園など幼児教育との連携（幼小連携）と中学校との連携（小中連携）が存在する。その中でも、幼小（幼保小）の連携においては、2022年度より文部科学省を中心に「幼保小の架け橋プログラム」が実践されている（文部科学省 2022）。先述の小学生の運動能力低下の問題とあわせて考えると、その基礎段階である幼児教育、特に身体活動を伴う幼児体育に着目する意義があるといえる。

本研究では、幼保小連携の観点から、小学校体育への接続をより円滑に行うために幼児体育がどう寄与するかを考察しながら課題を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ．幼保小連携の重要性

現在の学校教育では、子どもの年齢変化にあわせた複数の学校段階が存在する。この学校段階として、文部科学省は「幼児教育」、「小学校」、「中学校」、「高等学校」。そして、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校等における特別支援教育、特別支援学校」を示している（文部科学省 2015）。また、各学校段階間の接続および連携の重要性についても言及している。この中でも「幼児教育」と「小学校」間の接続は、2022 年度より「幼保小の架け橋プログラム」として文部科学省の主導で取り組まれている。幼保小接続において、5 歳児から小学校 1 年生までの 2 年間は「架け橋期」と呼ばれる。小学校への入学は、子どもにとって初めての進学経験であり、この時期につまずくことはその後の学校生活や成長に負の影響を与える可能性も懸念される（中央教育審議会 2023）。さらに、幼保小連携への関心が高まった経緯として、「小 1 プロブレム」があげられる。「小 1 プロブレム」とは、小学校一年生における学級崩壊を指す用語である（垂見 2022）。このような課題や経緯から、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が重要であることが指摘されている（中央教育審議会 2023）。そこで、本研究ではこの幼保小連携に焦点をあてる。

幼保小連携を考えるに際し、幼児教育と小学校教育の相違点を考えたい。幼児教育と小学校教育で異なる点として、教育の展開方法の違いがある。幼児期の教育が幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラムに基づいたものであるのに対し、児童期の教育は教科カリキュラムを中心とし、時間割に基づく学級単位の集団指導が原則となる。この違いは、発達の段階に起因する（文部科学省 2010）。こうした違いが、より円滑な幼保小連携のハードルとなり、中央教育審議会（2023）でもあげられる「資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない」といった課題へと繋がっているのではないだろうか。

Ⅲ．幼児体育と小学校体育

近年、幼保小連携の重要性が示されているが、ここでは特に体育科の幼保小連携について着目したい。幼児や児童を含む子どもの運動能力の低下や運動機会の減少は、長らく課題として扱われてきた。この課題を解決するため、様々な施策が行われてきた。その中でも幼児期の運動は、学習指導要領を基に教科カリキュラムが作成されている学校体育と比較すると、体系的な確立がされているとはいいがたい。幼児期の運動について、2009 年に日本体育協会（現「日本スポーツ協会」）がアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）を開発し

た。これは発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得するための運動プログラムである（日本スポーツ協会 2009）。ほかにも、2012年に文部科学省が示した「幼児期運動指針」があげられる。この指針では、幼児期における運動の意義や運動習慣の重要性が示された（文部科学省 2012a）。このように、幼児期の運動への取り組みは広く行われている。

翻って、幼児体育と小学校体育の関係性を考える。まずは、幼児と児童に対する運動能力の調査方法を比較する。小学生の体力・運動能力を調査する方法として「新体力テスト」があり、全国の小学校で実施されている。これは1999年度より実施されているテストであり、6歳から11歳が対象の場合は「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」、「50m走」、「立ち幅とび」、「ソフトボール投げ」の8項目からなる。一方、幼児の運動能力を調査する方法としては、幼児期運動指針内で示されている「幼児の運動能力調査」があげられる。この運動能力テストは、4歳から6歳の幼児を対象としており、実施項目は、「25m走」、「立ち幅跳び」、「ボール投げ」、「両足連続跳び越し」、「体支持持続時間」、「捕球」の6つである。これらの項目には、小学校以上対象を対象とする「新体力テスト」と系統性のある項目が多く含まれることから、運動発達について将来的に一貫した評価が可能である（文部科学省 2012b）。このように、幼児期と児童期では発達段階に応じて異なる調査方法で運動能力が調査されているが、内容としては繋がりがああるものである。

つぎに、幼児や児童に体育指導を行う指導者について比較する。小学校の体育授業における指導は主に学校教員が行う。その一方で、幼児体育を保育者が指導するケースは比較的小さい。幼児体育の指導を主として担っているのは、「外部講師」や「体育運動専門講師」と呼ばれる指導者である。ここでは、幼児体育を専門として指導を行うということから「専門指導者」という用語を用いる。ベネッセ（2019）の調査によると、体操の指導を外部の専門指導者が行う割合は、私立幼稚園で81.8%、私営保育所で72.2%、私営認定こども園で79.8%であった。他方、保育者が体操の指導を行う割合は、私立幼稚園で40.6%、私営保育所で41.4%、私営認定こども園で38.9%であった。この調査結果からも、幼児期の体育指導は主に専門指導者が担っていると言える。これらのことから、担任など子どもと日常的に関わる立場の人物による活動頻度や時間は、幼児体育と小学校体育で大きく差があると考えられる。

IV. 体育における幼保小連携

幼児期と児童期の体育活動場面では、基本となるカリキュラムや指導者という点で異なることが示唆された。これらを踏まえ、体育における幼保小連携を考えたい。

まず、教育を行う上でのベースとなる各要領・指針に着目する。小学校学習指導要領では、低学年での体育授業において、すべての領域に「運動遊び」という表現が用いられている（文部科学省 2017）。これは、子どもが幼稚園や保育所で遊びを通して学んだ経験からの繋がりを示すものである（岩田 2022）。また、体育や運動遊びという観点から 3 要領・指針（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）を捉える際に関連づけられるのが、領域「健康」である。体育と幼保小連携に関して研究した高井・細矢（2019）や橋本ほか（2021）の報告においても、その文脈の中で領域「健康」についての検討がなされている。さらに、2008 年の改訂により、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領では、幼児期の教育と小学校教育の接続に関して相互に留意する旨が定められた（中央教育審議会 2023）。しかしながら、幼児期と児童期のカリキュラムの違いなどにより、体育においても幼保小接続に課題が存在するのが実情である。

つぎに、幼児期と児童期の体育指導者の違いから幼保小連携を考える。すでに述べたように、小学校の体育指導は学校教員が担っているのに対し、幼児体育を担うのは施設外部から来る専門指導者である。つまり、保育者や教員が幼保小連携に向けての方策を連携して進行する中にあっても、体育の指導においてはその内容が反映されづらい可能性がある。この点は、体育の幼保小連携をより円滑に進めていく上で、留意しておかなければならないのではないだろうか。

V. まとめ

幼児を対象に行われる「幼児体育」と児童を対象に行われる「小学校体育」の類似点や相違点を踏まえながら、幼保小連携について検討した。2022 年度より本格化した「幼保小の架け橋プログラム」に代表されるように、幼保小間の連携は現在、広く注目されている観点である。これに際して、体育の領域でも幼保小連携は積極的に取り組むべきポイントであった。そうした中、本研究では幼児体育と小学校体育の指導体制などを比較しながら、指導環境における課題を明らかにした。体育における実践面での連携を、より円滑に進めていく上で、指導体制の違いを明らかにしたことは意義がある。

しかしながら、本研究の限界として、各要領・指針の内容を詳細に検討したものではない点があげられる。幼児期と児童期のカリキュラムの違いや、連携の足掛かりとなる点を示したものの、実際にその目標や観点については触れられていない。この点は、体育の幼保小連携をより深く考えていく上で必須となる。教育の背景にある教育課程の構造や環境に注視しながら、より良い幼児体育や学校体育の実践、幼保小連携の円滑化を考えていきたい。

参考引用文献

- ベネッセ (2019) 第3回幼児教育・保育についての基本調査. ベネッセ教育総合研究所, pp16
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5444> (2025年2月12日最終閲覧)
- 中央教育審議会 (2002) 子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申).
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001a.htm (2025年2月2日最終閲覧)
- 中央教育審議会 (2023) 学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について：
幼保小の協働による架け橋期の教育の充実. 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児
教育と小学校教育の架け橋特別委員会
- 橋本卓三, 梅村拓未, 中島寿宏 (2021) 運動遊び場面における幼児へのかかわりに関する
研究：領域「健康」および幼小連携の観点による経験豊富な幼稚園教諭の意識. 北翔大
学教育文化学部研究紀要, 6: 207-216
- 岩田純一 (2022) 遊びから観る体育. 体育科教育, 12: 26-29
- 文部科学省 (2003) 新体力テスト実施要項.
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/stamina/03040901.htm (2025年2月11日最終閲覧)
- 文部科学省 (2010) 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告). 幼児
期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議, pp9
- 文部科学省 (2012a) 幼児期運動指針.
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm (2025年2月11日最終閲覧)
- 文部科学省 (2012b) 幼児期運動指針ガイドブック. pp54-57
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm (2025年2月11日最終閲覧)
- 文部科学省 (2015) 5. 各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性. 初等中等教育
分科会, 資料1 教育課程企画特別部会 論点整理.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364321.htm
(2025年2月2日最終閲覧)
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説 体育編.

文部科学省（2022）幼保小の架け橋プログラム.

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm（2025 年 2 月 5 日最終閲覧）

日本スポーツ協会（2009）アクティブ・チャイルド・プログラム.

<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/>（2025 年 2 月 11 日最終閲覧）

スポーツ庁（2024）令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書. 令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果, pp8

高井和夫, 細矢咲紀（2019）幼小接続期における学びと育ちをつなぐ運動（遊び）及び体育に関する研究報告. 文教大学教育学部紀要, 52(別集): 223-232

垂見直樹（2022）「幼保小連携」の現状と課題:「うまくいく」ためには何が必要か?. 体育科教育, 12: 12-15

編集後記

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学地域連携センターの2024年度（令和6年度）版年報を刊行することが出来、執筆にご協力いただきました教職員および関係者に心より感謝申し上げます。2023年度に創刊号を発刊して本学の地域との連携がとても深いものであると認識し、この年報を継続して刊行することが重要な役目であり、地域とのつながりを強くすると確信しました。

今後も教職員・関係者の協力の下で地域連携を強めていく所存です。この年報はホームページに掲載しています。

編集者一同

